

基本情報

科目名	社会福祉の原理と政策Ⅰ
時間割コード	0232000301
ナンバリングコード	S120011-L-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	月 4
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	村本 浄司
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目
必選区分	必修

担当教員情報

教員名
阿部 敦、増田 公香、村本 浄司

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、社会福祉の原理や理論、福祉政策、福祉サービスの供給体制などについて、概念や理念、歴史的展開などを踏まえて理解する。さらに、社会問題と社会構造の関係や国際比較の視点などを通して、日本の社会福祉の特性や今後のあり方についても考察を深める。本科目を履修する上で以下の目標が達成されていることが望ましい。 1. 社会福祉の固有の視点である政策の実践の歴史、相互作用の変遷について説明できる。 2. 社会福祉の思想と哲学及び理論の基本事項について説明できる。 3. 現代の社会問題と社会構造の概要について説明できる。 4. 福祉政策の基本的な視点や概念、理念について、説明できる。 5. ニーズという言葉の意味や必要原則、貢献原則、資源の性質や種類について説明できる。
履修上の注意事項	本講義は3名の教員によるオムニバスによって実施する。講義にあたっては、各先生の指示に従い、積極的に参加することを望む。
評価方法	それぞれの先生ごとに30%ずつで評価を行い、合計100%で合算して総合評価する。定期試験も実施する。 各担当の教員ごとに評価方法は異なるが、レポートに関してはコメントを記述し返却する。また、学期末には定期試験を実施する。また、試験結果については希望者には口頭で伝達する。
テキスト	最新・社会福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規、2021年
参考文献	適宜資料を配布する。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	該当なし
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	(アクティブ・ラーニング) 講義内に3つ程度の命題について学生に考えてもらう(個人ワーク)。個人それぞれの考えについて、周囲の人と話し合ってもらう。話し合った結果について、発表を求める(グループワーク)。 (ICTを取り入れた授業の実施) 特になし

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、社会福祉の原理とは何かについて理解する(村本)	(事前)教科書P2-P5を読み、わからない語句について調べておく(2時間)。 (事後)社会福祉の原理についてノートにまとめる(2時間)。	
2	社会福祉の原理と様々な理論について理解する(村本)	(事前)教科書P6-P13を読み、わからない語句について調べておく(2時間)。 (事後)社会福祉の様々な理論についてノートにまとめる(2時間)。	
3	社会福祉の歴史を学ぶ意義と英国と米国における福祉の歴史的展開について理解する(村本)	(事前)教科書P16-P33を読み、わからない語句について調べておく(2時間)。 (事後)英国と米国の福祉の歴史についてノートにまとめる(2時間)。	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	日本の社会福祉の歴史的展開について理解する（増田）	（事前）教科書P34-P45を読み、わからない語句について調べておく（2時間）。 （事後）日本における社会福祉の歩みについてノートにまとめる（2時間）。	
5	自由主義イデオロギーとフェミニズムについて理解する（増田）	（事前）教科書P48-P59を読み、わからない語句について調べておく（2時間）。 （事後）イデオロギー、自由主義、新自由主義についてノートにまとめる（2時間）。	
6	社会福祉の理論について理解する（増田）	（事前）教科書P60-P69を読み、わからない語句について調べておく（2時間）。 （事後）社会福祉の理論についてノートにまとめる（2時間）。	
7	社会福祉の論点を把握し、公私関係、普遍主義と選別主義について理解する（増田）	（事前）教科書P70-P79を読み、わからない語句について調べておく。 （事後）様々な社会福祉論点について、ノートにまとめる（2時間）。	
8	社会福祉の対象とニーズについて理解する（増田）	（事前）教科書P80-P88を読み、わからない語句について調べておく（2時間）。 （事後）社会福祉における対象の捉え方についてノートにまとめる（2時間）。	
9	福祉政策とニーズの概念について理解する（村本）	（事前）教科書P110-118を読み、わからない語句について調べておく（2時間）。 （事後）福祉政策とニーズについてノートにまとめる（2時間）。	
10	福祉におけるニーズの概念について学ぶ ①（ニーズの使われ方、ニーズとデマンド）（村本）	（事前）教科書P134-P143を読み、わからない語句について調べておく（2時間）。 （事後）ニーズとデマンドの関係について、ノートにまとめる（2時間）。	
11	福祉におけるニーズの概念について学ぶ ②（行政需要と行政ニーズ、ニーズの把握、ニーズの種類）（村本）	（事前）教科書P143-151を読み、わからない語句について調べる（2時間）。 （事後）公正の原理としての必要原則についてノートにまとめる（2時間）。	
12	ニーズを充足するものとしての資源について理解する（村本）	（事前）教科書P152-P163を読み、わからない語句について調べておく（2時間）。 （事後）福祉政策における資源についてノートにまとめる（2時間）。事前）教科書P119-P131を読み、わからない語句について調べておく（2時間）。	
13	現代における社会問題について理解する（阿部）	（事前）教科書P90-P99を読み、わからない語句について調べておく（2時間）。 （事後）現代の社会問題についてノートにまとめる（2時間）。	
14	社会問題が生じている構造的背景について理解する（阿部）	（事前）教科書P100-P107を読み、わからない語句について調べておく（2時間）。 （事後）人口減少に伴う様々な事象についてノートにまとめる（2時間）。	
15	自由と平等、自由主義と新自由主義が福祉に与える影響について理解する（阿部）	（事前）教科書P119-131を読み、わからない語句について調べる（2時間）。 （事後）自由と平等についてノートにまとめる（2時間）。	

基本情報

科目名	社会福祉の原理と政策Ⅱ
時間割コード	0233700101
ナンバリングコード	S 130133-L-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他 5
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	増田 公香
科目区分	専門科目 社会福祉学科基礎専門科目
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
増田 公香、村本 浄司

詳細情報

授業の目的・到達目標	1 福祉政策の課題について理解する。 2 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について理解する。 3 社会福祉をめぐる日本及び諸外国の動向について理解する。 4 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。 5 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。
履修上の注意事項	授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。 授業後に復習しておくこと。
評価方法	授業内で提示する。
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編4『社会福祉の原理と政策』（中央法規、最新版）。
参考文献	授業内で提示する。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	（アクティブ・ラーニング） （村本）講義内に3つ程度の命題について学生に考えてもらう（個人ワーク）。個人それぞれの考えについて、周囲の人と話し合ってもらう。話し合った結果について、発表を求める（グループワーク）。 （ICTを取り入れた授業の実施） 特になし

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション・福祉政策の現代的課題（増田）	（事前）教科書 p 110～118を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
2	福祉政策の構成要素を政策の分野と各分野の目的から理解する（村本）	（事前）教科書 p 166-177を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
3	福祉政策を複数の過程からなるものとして捉えその全体像と各過程に家庭について理解する（村本）	（事前）教科書 p 178-192を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
4	今日の福祉政策の起点として社会福祉基礎構造改革等の理解と包括的支援の視点から理解する（村本）	（事前）教科書 p 194-201を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	今日の福祉改革の基本コンセプトとして地域共生社会の実現について理解する（村本）	（事前）教科書 p 202-213を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
6	福祉政策と包括的支援の課題について理解する（村本）	（事前）教科書 p 214-221を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
7	保健医療政策、教育政策の概要について理解する（村本）	（事前）教科書 p 224-232を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
8	住宅政策と労働政策の概要について理解する（村本）	（事前）教科書 p 233-244を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
9	災害の現状について知り災害対策の必要性を理解する（増田）	（事前）教科書 p 245-251を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
10	福祉サービスの供給が多元的な供給主体によって担われていることを理解する（増田）	（事前）教科書 p 254-261を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
11	サービス供給過程のメカニズムの全体像を把握する（増田）	（事前）教科書 p 263-270を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
12	利用者が福祉サービスを利用する過程を学ぶ（増田）	（事前）教科書 p 272-279を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
13	福祉政策の国際比較：国際比較の視点と方法について理解する（増田）	（事前）教科書 p 282-288を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
14	福祉政策の動向（欧米・東アジア）・福祉政策の新しい潮流と国際比較の新しい課題について理解する（増田）	（事前）教科書 p 289-303を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	
15	これからの社会福祉出発点・到達点・展望について理解する（増田）	（事前）教科書 p 306-325を読み、自分なりの疑問点をもって授業に臨むこと（2時間）（事後）分からなかった点を明らかにし自ら疑問を解決する（2時間）	

基本情報

科目名	高齢者福祉論
時間割コード	0233700601
ナンバリングコード	S 230132-L-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	水 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科基礎専門科目
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、心身機能における課題を探究し問題を解決できる能力を養う。 〈本科目のねらい〉 1. 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 2. 高齢者に関する法制度と支援のしくみについて理解し、その生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解する。 〈学修者の目標〉 1. 高齢者の社会環境を理解し、支援に必要な介護保険法の概要、諸手続き、介護保険サービスの種類、地域支援事業、地域包括支援センターの機能や役割を説明できる。 2. 高齢者への総合的相談援助に必要な高齢者に関する関係法と活用を説明できる。
履修上の注意事項	該当する単元については、指定テキストを用いて事前に学習しておくこと。講義後、もう一度通読して復習し、理解を深めること。講義中には、配布する学び・質問用紙に記入し、必要時には講義以外の時間を活用して疑問点を解決する方法を確保すること。 また、指示したレポートは期限を守り、提出すること。 講義中にグループ討議を行う際には積極的ににかかわること。 (事前事後学習 各120分)
評価方法	単位修得定期試験80%、課題レポート20%で評価する。 レポートについてはコメントして返却する。
テキスト	最新 社会福祉士養成講座2『高齢者福祉(第2版)』(2025)中央法規 野崎和義監修『社会福祉六法』最新版(2025)ミネルヴァ書房
参考文献	生野繁子編『基本から学ぶ高齢者ケア』最新版 金芳堂 その他、適宜、講義中に紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	黒木真吾：介護福祉士として高齢者事業所勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	適宜、グループワークによる対話をととして意見交換を実施する。 レポート課題はキャンパススクエアを活用し提出してもらう。

授業計画

授業計画
講義中にグループ討議を行う。その際には積極的に発言し、他者の考えを理解し、疑問点は解決する方法を検討することができるように取り組む。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	高齢者の定義づけと、身体的・精神的・社会的特性を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	

授業計画

講義中にグループ討議を行う。その際には積極的に発言し、他者の考えを理解し、疑問点は解決する方法を検討することができるように取り組む。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	高齢者の生活実態を知り、現状からこれを取り巻く社会環境を知り、これからの問題を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
3	高齢者福祉の理念と高齢者観の変遷といった高齢者福祉の歴史を知る。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
4	高齢者に対する法制度の一つである介護保険法の概要、介護報酬のしくみについて知る。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
5	介護保険制度における組織及び団体の役割、保険者と被保険者を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
6	介護保険法における施設サービスの種類、苦情対応を含めた役割、機能を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
7	老人福祉法の歴史と概要、措置の状況について理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
8	高齢者の医療の確保に関する法律のできるまでを知り、法律の概要を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
9	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
10	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者の居住の安定確保に関する法律の成り立ちと概	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
11	高齢者等の雇用の安定等に関する法律、育児・介護休業法の概要を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
12	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
13	高齢者と家族等に対する支援の実際として、地域包括ケアシステムを理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	

授業計画

講義中にグループ討議を行う。その際には積極的に発言し、他者の考えを理解し、疑問点は解決する方法を検討することができるように取り組む。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	高齢者と家族等に対する支援の実際としての認知症高齢者の支援を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
15	高齢者と家族等に対する支援の実際として介護予防、家族へのレスパイトケアを理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	

基本情報

科目名	高齢者福祉実践論
時間割コード	0233900201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	社会福祉に関わる様々な課題を、地域の中で他職種の人々と連携・協力しつつ、解決に向けて取り組もうとする力を養うことを目指す。 1. 現代社会における高齢者福祉の理念と意義を説明できる。 2. 高齢者の身体的・精神的・心理社会的特長や特性、障害等を説明できる。 3. 認知症高齢者の障害特性とケアを説明できる。 4. 高齢者や家族に対する相談援助活動を説明できる。 5. 高齢者支援の地域活動や民間活動、シルバーサービス等を説明できる。
履修上の注意事項	該当する単元については、指定テキストを用いて事前に学習しておくこと。講義後もう一度通読して復習し、理解を深めること。 また、指示したレポートは期限を守り、提出すること。 事前・事後学習に要する時間 各120分程度 講義中はグループ討議を行う。積極的に参加し議論すること。
評価方法	定期試験90%、課題レポート10%で評価する。 レポートはコメントを入れて返却する。
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編『高齢者福祉論(第2版)』（2025）中央法規。 野崎和義監修『社会福祉六法』（最新版）（2025）ミネルヴァ書房。
参考文献	その他 授業中、適宜紹介
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	黒木真吾：介護福祉士として高齢者事業所勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	適宜、グループワークによる対話をととして意見交換を実施する。 レポート課題はキャンパススクエアを活用し提出してもらう。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	高齢者の処遇の変遷を、歴史を振り返りながら理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
2	産業構造の変化に伴う高齢者への影響と、少子高齢社会における課題を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
3	高齢社会における地域創世の取り組みを理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	居住世帯と家族介護の問題及び課題を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
5	高齢者の所得や就労状況、地域社会との関係を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
6	高齢者の身体的・心理的特性と疾病を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
7	高齢者の精神的特性と疾病を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
8	高齢者の社会的特性を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
9	認知症を医学的・心理学的に理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
10	認知症高齢者のケアの理念と方法を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
11	高齢者やその家族、地域住民への支援の方法を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
12	独り暮らしや寝たきりの高齢者やその家族に対する支援と相談援助活動を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
13	認知症高齢者やその家族に対する相談援助活動を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
14	社会福祉協議会の取り組みやボランティア活動、非営利民間活動を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	
15	シルバーサービスの現状と展望を理解する。	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各20分）	

基本情報

科目名	障害者福祉論
時間割コード	0233700701
ナンバリングコード	S 230131-L-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第 1 学期
曜限	月 3
開講区分	第 1 学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	増田 公香
科目区分	専門科目 社会福祉学科基礎専門科目
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
増田 公香、平川 泰士

詳細情報

授業の目的・到達目標	1．障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 2．障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 3．障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 4．障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。
履修上の注意事項	授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。 授業後に復習しておくこと。 授業内にてグループディスカッション等を行うので、積極的に参加すること。
評価方法	授業内にて提示する。
テキスト	【テキスト】 社会福祉士養成講座編集委員会編『障害者福祉』（中央法規、最新版）
参考文献	【参考文献】 『国民の福祉と介護の動向』（厚生労働統計協会、最新版） 『厚生労働白書』（厚生労働省、最新版）
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	当該科目の理解が深まるよう、授業内で適宜動画等を用いる。 グループワークやディスカッションを取り入れた授業を実施し問題解決型学習を促進する。 また携帯電話等をもちい、ICT学修を行う。

授業計画

授業計画
障害者福祉は、障害のある人たちの生活を支える重要な社会的方策の体系である。本講義ではソーシャルワーカーとして障害のある人たちの支援に必要な障害者福祉の基礎的な知識を身につけるとともに、障害者福祉の課題を理解し総合的に障害者福祉を学ぶことを目的とする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	障害概念と特性（増田）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	

授業計画

障害者福祉は、障害のある人たちの生活を支える重要な社会的方策の体系である。本講義ではソーシャルワーカーとして障害のある人たちの支援に必要な障害者福祉の基礎的な知識を身につけるとともに、障害者福祉の課題を理解し総合的に障害者福祉を学ぶことを目的とする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	障害者福祉の歴史と理念（増田）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
3	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題（増田）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
4	障害者権利条約と障害者基本法（増田）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
5	障害者総合支援法（増田）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
6	児童福祉法（増田）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
7	障害者虐待防止法と障害者差別解消法（増田）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
8	海外の障害者福祉～フィンランドとアメリカ～（増田）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
9	身体障害者福祉法と知的障害者福祉法（平川）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
10	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（平川）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
11	発達障害者支援法（平川）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	

授業計画

障害者福祉は、障害のある人たちの生活を支える重要な社会的方策の体系である。本講義ではソーシャルワーカーとして障害のある人たちの支援に必要な障害者福祉の基礎的な知識を身につけるとともに、障害者福祉の課題を理解し総合的に障害者福祉を学ぶことを目的とする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
12	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）（平川）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
13	障害者の雇用の促進等に関する法律（平川）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
14	障害者と家族等の支援における関係機関の役割（平川）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
15	関連する専門職等の役割（平川）	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	

基本情報

科目名	障害者福祉実践論
時間割コード	0233900301
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他, 他 4
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	増田 公香
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目 (第1群)
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
増田 公香

詳細情報

授業の目的・到達目標	障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）制定以降、障害のある人々の地域移行が謳われて久しい。 本科目では、障害のある人々が地域社会で自己実現を図れるための実践方法等について考えていくことをその目的とする。 具体的には、当事者の障害理解、医療的ケア児への支援、当事者研究、また支援現場で発生した障害者虐待問題、またゲストスピーカーをとおして支援者の立場から支援の実際について講演してもらい、多角的視点から障害者実践について学習する。
履修上の注意事項	グループワークやプレゼンテーションなどアクティブラーニングを取り入れます。よって積極的な参加が求められる。 尚、現場の支援者をゲストスピーカーとして招聘する等の関係上、シラバスが一部変更することがある。
評価方法	授業内で指定する。
テキスト	授業内で提示する。
参考文献	授業内で提示する。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	当該科目の理解が深まるよう、授業内で適宜動画等を用いる。 グループワークやディスカッションを取り入れた授業を実施し問題解決型学習を促進する。 また携帯電話等をもちい、ICT学修を行う。

授業計画

授業計画
近年障害者福祉分野においては、地域移行の促進また障害概念の拡大等新たな展開が図られている。本講義では、障害の理解の促進を図ったうえで新たな支援である医療的ケア児への支援や当事者の視点から展開する当事者研究、さらには障害支援現場で発生した障害者虐待事案等、障害者実践において生じている様々な課題を当事者、支援者の視点から多角的に考察することをその目的としている。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	1. オリエンテーション	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
2	2. 障害の特性理解1	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	

授業計画

近年障害者福祉分野においては、地域移行の促進また障害概念の拡大等新たな展開が図られている。本講義では、障害の理解の促進を図ったうえで新たな支援である医療的ケア児への支援や当事者の視点から展開する当事者研究、さらには障害支援現場で発生した障害者虐待事案等、障害者実践において生じている様々な課題を当事者、支援者の視点から多角的に考察することをその目的としている。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	3. 障害の特性理解 2	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
4	4. 医療的ケア児への支援	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
5	5. ゲストスピーカーによる当事者理解 1	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
6	6. ゲストスピーカーによる当事者理解 2	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
7	7. 障害者虐待の実例 1	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
8	8. 障害者虐待の実例 2	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
9	9. 障害者虐待の実例 3	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
10	10. 当事者研究 1	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
11	11. 当事者研究 2	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
12	12. ゲストスピーカーによる支援の実例 1	事前：プレゼンテーションの準備を行う（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
13	13. ゲストスピーカーによる支援の実例 2	事前：プレゼンテーションの準備を行う（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	

授業計画

近年障害者福祉分野においては、地域移行の促進また障害概念の拡大等新たな展開が図られている。本講義では、障害の理解の促進を図ったうえで新たな支援である医療的ケア児への支援や当事者の視点から展開する当事者研究、さらには障害支援現場で発生した障害者虐待事案等、障害者実践において生じている様々な課題を当事者、支援者の視点から多角的に考察することをその目的としている。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	14. ゲストスピーカーによる支援の実践 3	事前：プレゼンテーションの準備を行う（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
15	15. まとめ	事前：授業前に指定された資料の該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	

基本情報

科目名	児童・家庭福祉論
時間割コード	0233700501
ナンバリングコード	S 230132-L-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	火 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	日比 真一
科目区分	専門科目 社会福祉学科基礎専門科目
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
日比 真一

詳細情報

授業の目的・到達目標	児童福祉、家庭福祉の原理を学ぶ。原理や思想が醸成された歴史過程や経緯を理解する。その上で、今日の児童・家庭福祉の法制度や実践の課題やそのあり方について考察できる。 課題を踏まえながら、実践者が創出すべき、児童・家庭福祉の価値について考察できる。その価値を具現化するための、児童・家庭福祉の実践に必要な知識や技術について学ぶ。 実践で他職種や他機関と連携する際に示すべき児童・家庭福祉の実践者の専門性について考察できる。専門性を持って支援を構築するためのプロセスを理解できる。
履修上の注意事項	教科書が必要な科目になります。毎時、教科書を用いた課題が出ます。 反転学修など、アクティブラーニングの形式を取り入れます。そのため、座席を指定します。自律的な態度が必要です。遅刻等の扱いや授業マナーについては規定を設けます。
評価方法	毎時の授業への取り組み（主体性・発言・ペアワーク・レポート等提出物）50%、定期試験50% 授業中に発展的課題等を含めて個別にフィードバックする。
テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉養成講座3 児童・家庭福祉 第2版（社会福祉士専門科目）』中央法規
参考文献	必要に応じて資料を配付します。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	生活相談員として特別養護老人ホームの勤務経験があります。その経験に基づき、レジデンシャルソーシャルワークの実際を具体的な事例を交えながら説明します。支援者に必要な思考力・実践力が身につけられるように授業を展開します。 福祉科教諭として高校の勤務経験があります。その経験に基づき、教員に求められる知識や技術を具体的な事例を交えながら説明します。教員に必要な思考力・実践力が身につけられるように授業を展開します。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	反転学習を取り入れます。あらかじめ次時の単元について学修を進めて頂きます。その上で、ペアワーク等により、ご自分の考えを言語化できるように取り組みます。 ICT活用は該当なし。

授業計画

授業計画
教科書が必要な科目になります。毎時、教科書を用いた課題が出ます。 反転学修など、アクティブラーニングの形式を取り入れます。そのため、積極的な姿勢と自律的な態度が必要です。遅刻等の扱いや授業マナーについては規定を設けます。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション 子ども家庭福祉	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
2	子どもと家庭・地域	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
3	子ども家庭福祉の歴史	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	

授業計画

教科書が必要な科目になります。毎時、教科書を用いた課題が出ます。

反転学修など、アクティブラーニングの形式を取り入れます。そのため、積極的な姿勢と自律的な態度が必要です。遅刻等の扱いや授業マナーについては規定を設けます。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	子ども家庭福祉と現代社会	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
5	子ども家庭福祉の法体系	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
6	子ども家庭福祉の財源と費用負担	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
7	子ども子育て支援	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
8	社会的養護	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
9	スクールソーシャルワーク	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
10	障がいのある子ども	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
11	子ども家庭福祉のソーシャルワーク	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
12	子ども家庭福祉における支援の展開過程と連携	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
13	保育における実践	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
14	ひとり親家庭	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
15	教育との協働	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	

基本情報

科目名	児童・家庭福祉実践論
時間割コード	0233900101
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	日比 真一
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
日比 真一

詳細情報

授業の目的・到達目標	児童が権利の主体であることを理解できる。その権利を守るための実践を学ぶ。児童・家庭福祉の歴史を理解し、その上で、今日的な児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境を考察することができる。 具体的な児童・家庭に対する法制度を理解する。法制度に基づき支援を実践する機関の役割を学ぶ。様々な機関で児童・家庭福祉に従事する専門職の役割を理解できる。 実践の中で他職種や他機関と連携するためには、まず、自身の業務の固有性や専門性について自覚を持つ必要がある。支援の対象や他職種、他機関に示すべき、児童・家庭福祉従事者の専門性を考察できる。
履修上の注意事項	反転学修、グループワーク、プレゼンテーションなど、アクティブラーニングの形式を取り入れます。現場で必要な実践力を養うための学修スタイルを構築します。そのため、座席を指定します。積極的な姿勢と自律的な態度が必要です。遅刻等の扱いや授業マナーについては規定を設けます。 グループごとのプレゼンテーションを行います。履修者数やテーマ設定によって、授業の内容が前後することがあります。
評価方法	毎時の授業への取り組み（主体性・発言・グループワーク・プレゼンテーション・提出物）50%、レポート50% 授業中に発展的な課題等も含めて個別にフィードバックする。
テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉養成講座3 児童・家庭福祉（社会福祉士専門科目）』中央法規
参考文献	必要に応じて資料を配付します。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	生活相談員として特別養護老人ホームの勤務経験があります。その経験に基づき、レジデンシャルソーシャルワークの実際を具体的な事例を交えながら説明します。支援者に必要な思考力・実践力が身につけられるように授業を展開します。 福祉科教諭として高校の勤務経験があります。その経験に基づき、教員に求められる知識や技術を具体的な事例を交えながら説明します。教員に必要な思考力・実践力が身につけられるように授業を展開します。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	反転学修、グループワーク、プレゼンテーションなど、アクティブラーニングの形式を取り入れます。現場で必要な実践力を養うための学修スタイルを構築します。 ICT活用は該当なし。

授業計画

授業計画
反転学修、グループワーク、プレゼンテーションなど、アクティブラーニングの形式を取り入れます。現場で必要な実践力を養うための学修スタイルを構築します。そのため、積極的な姿勢と自律的な態度が必要です。遅刻等の扱いや授業マナーについては規定を設けます。 グループごとのプレゼンテーションを行います。履修者数やテーマ設定によって、授業の内容が前後することがあります。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション 子ども家庭福祉	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	

授業計画

反転学修、グループワーク、プレゼンテーションなど、アクティブラーニングの形式を取り入れます。現場に必要な実践力を養うための学修スタイルを構築します。そのため、積極的な姿勢と自律的な態度が必要です。遅刻等の扱いや授業マナーについては規定を設けます。

グループごとのプレゼンテーションを行います。履修者数やテーマ設定によって、授業の内容が前後することがあります。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	障害のある子どもへの支援	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
3	子ども家庭福祉の歴史	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
4	子ども家庭を取り巻く現代社会	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
5	現代社会の課題と子育てへの影響	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
6	子どもの福祉課題と支援	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
7	子ども家庭福祉のソーシャルワーク	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
8	障害の概念 プレゼンテーション	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
9	インクルージョン プレゼンテーション	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
10	支援体系の概要 プレゼンテーション	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
11	現状の課題 プレゼンテーション	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
12	ソーシャルアクション プレゼンテーション	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
13	社会資源 プレゼンテーション	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
14	ネットワーク プレゼンテーション	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
15	子ども家庭福祉の実践とは何か 振り返り	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク論Ⅰ
時間割コード	0233701001
ナンバリングコード	S130133-L-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	木 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	増田 公香
科目区分	専門科目 社会福祉学科基礎専門科目
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望、増田 公香

詳細情報

授業の目的・到達目標	1.社会福祉士、精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 2.ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成について理解する。 3.ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。
履修上の注意事項	毎回講義資料を配布するので、授業後は教科書の内容とともに復習し、理解しておくこと。 また、わからない用語については調べておくこと（120分） 事後には講義内容を配布資料やテキストをもとに復習し、必要に応じて講義内にて提示される課題に取り組むこと（120分）。
評価方法	試験80%、課題レポート20%により評価する。
テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク学校連盟編『11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規出版（最新版）
参考文献	講義内にて適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	当該科目の理解が深まるよう、授業内で適宜動画等を用いる。 グループワークやディスカッションを取り入れた授業を実施し問題解決型学習を促進する。 また携帯電話等をもちい、ICT学修を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	現代社会の特性から、地域生活における課題を理解できる。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
2	社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について、各身分法の定義と役割から理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
3	社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について、法制度見直しの背景や義務から理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	社会福祉士、精神保健福祉士の専門性を理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
5	ソーシャルワークの概念を、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）の定義から理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
6	ソーシャルワークの構成要素を、知識、技術、価値の側面から理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
7	ソーシャルワークの形成について、基礎確立期をもとに理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
8	ソーシャルワークの形成について、展開期をもとに理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
9	ソーシャルワークの形成について、統合化とジェネラリスト・ソーシャルワークから理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
10	ソーシャルワークの実践について、理念と価値や判断から理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
11	ソーシャルワークの理念として、人権尊重と社会正義、利用者本位、尊厳の保持から理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
12	ソーシャルワークにおける権利擁護の背景・定義・種類・システムを理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
13	ソーシャルワークにおける権利擁護の意義と実践を理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	自己決定と自立支援、エンパワーメントとストレングス視点を理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに，社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
15	ノーマライゼーションや地域生活支援、ソーシャル・インクルージョンを理解する。	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに，社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ
時間割コード	0233701101
ナンバリングコード	S 130133-L-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	増田 公香
科目区分	専門科目 社会福祉学科基礎専門科目
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
増田 公香

詳細情報

授業の目的・到達目標	1.社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 2. ソーシャルワークに関わる専門職の概念と範囲について理解する。 3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と関連性について理解する。 4. 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。
履修上の注意事項	事前に次の講義内容に該当するテキスト部分を読んでおくこと。またわからない用語については調べておくこと（120分） 事後には講義内容を配布資料やテキストをもとに復習し、必要に応じて講義内にて提示される課題に取り組むこと（120分）
評価方法	定期試験及びレポート・平常点で総合評価する。詳細は授業内で提示する。
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編 1 1『ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規（最新版）
参考文献	講義内にて適宜紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	当該科目の理解が深まるよう、授業内で適宜動画等を用いる。 グループワークやディスカッションを取り入れた授業を実施し問題解決型学習を促進する。 また携帯電話等を持ち、ICT学修を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	ソーシャルワーカーである社会福祉士の職域と役割（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
2	ソーシャルワークに関わる専門職の概念と範囲（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	
3	社会福祉士の職域の変遷と拡大（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）。	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	福祉行政等における専門職と民間の施設・組織における専門職（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
5	ソーシャルワークにおける諸外国の動向（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
6	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの意味と対象（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
7	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの介入と関連性（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
8	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの実際（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
9	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
10	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
11	ジェネラリストの視点に基づく多機関による包括的支援体制（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
12	ジェネラリスト視点に基づくソーシャルサポートネットワーキング（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
13	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	ジェネラリストの視点に基づく機関・団体間の合意形成と相互関係（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	
15	ジェネラリストの視点に基づく利用者、家族の参画（増田）	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）．分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）．授業後は授業内容の整理とともに、社会問題と関連させて整理しておくこと（120分）．	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク論Ⅲ
時間割コード	0233900901
ナンバリングコード	S 230333-L-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	月 5
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	増田 公香
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
増田 公香

詳細情報

授業の目的・到達目標	1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解できる。 2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解できる。 3. 相談援助の過程、知識や技術（介護保険及び障害者総合支援のサービス計画等を含む）について理解できる。 4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解できる。 5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解し、支援が展開できる。
履修上の注意事項	1. 社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は、必ず履修する必要がある。 3. 予習については、授業計画のテーマに基づいて、テキストや他の文献等で事前学習すること（30分程度）。 4. 復習については、疑問点や理解不足の部分をテキスト等で再確認すること（30分程度）。
評価方法	試験70%・レポート30%で評価する。
テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』（中央法規）
参考文献	社会福祉士養成講座編『相談援助の基礎と専門職』新・社会福祉士養成講座⑥、中央法規出版。※1年の教科書
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	当該科目の理解が深まるよう、授業内で適宜動画等を用いる。 グループワークやディスカッションを取り入れた授業を実施し問題解決型学習を促進する。 また携帯電話等を持ち、ICT学修を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	人と環境との交互作用に関する理論：システム理論	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
2	人と環境との交互作用に関する理論：生態学理論	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	ソーシャルワークの過程：ケースの発見（インテーク）とエンゲージメント	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
4	ソーシャルワークの過程：アセスメントの意義と目的	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
5	ソーシャルワークの過程：アセスメントの方法と留意点	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
6	ソーシャルワークの過程：プランニングの意義、目的、方法、留意点	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
7	ソーシャルワークの過程：プランニングの効果と限界・支援方針等	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
8	ソーシャルワークの過程：支援の意義、目的、方法、留意点	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
9	ソーシャルワークの過程：モニタリングの意義、目的、方法、留意点	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
10	ソーシャルワークの過程：支援の終結と事後評価の意義、目的、方法、留意点・効果測定	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
11	ソーシャルワークの過程：アフターケアの目的、方法、留意点	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
12	ソーシャルワークの面接と援助関係	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ：医学モデルと生活モデル	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
14	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ：ストレングスモデルとエンパワメントアプローチ	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	
15	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ等	事前：授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと（120分） 事後：授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク論Ⅳ
時間割コード	0233901001
ナンバリングコード	S 230333-L-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	・ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解することができる。 ・コミュニティワークやグループワークの概念とその展開について理解することができる。 ・ソーシャルワークにおけるスーパービジョン・ケアマネジメントについて理解することができる。
履修上の注意事項	・社会福祉士国家試験受験希望者は、必ず履修すること。 ・事前に次の講義内容に該当するテキスト部分を読んでおくこと。また、わからない用語については調べておくこと（120分）。 ・事後には講義内容を配布資料やテキストをもとに復習し、必要に応じて講義内にて提示される課題に取り組むこと（120分）。
評価方法	単位修得試験試験により評価する(100%)。希望者には個別に定期試験内容についてのフィードバックを行う。
テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新 社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版
参考文献	授業の進展に応じて、適宜、提示する。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	各回の内容に応じたグループワークやディスカッションを取り入れた授業を行う。

授業計画

授業計画
・事前に次の講義内容に該当するテキスト部分を読んでおくこと。また、わからない（専門）用語については調べておくこと（120分） ・事後には講義内容を配布資料やテキストをもとに復習し、必要に応じて講義内にて提示される課題に取り組むこと（120分）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	1. ソーシャルワークの過程についての総合的な理解	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	

授業計画

- ・事前に次回の講義内容に該当するテキスト部分を読んでおくこと。また、わからない（専門）用語については調べておくこと（120分）
- ・事後には講義内容を配布資料やテキストをもとに復習し、必要に応じて講義内にて提示される課題に取り組むこと（120分）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	2. ソーシャルワークの記録：記録の意義と目的	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
3	3. ソーシャルワークの記録：記録の方法と実際	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
4	4. ケアマネジメントの原則	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
5	5. ケアマネジメントの意義と方法	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
6	6. 集団を活用した支援：グループワークの意義と目的	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
7	7. 集団を活用した支援：グループワークの原則	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
8	8. 集団を活用した支援：グループワークの展開過程	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
9	9. 集団を活用した支援：セルフヘルプグループ	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れていた専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	

授業計画

- ・事前に次回の講義内容に該当するテキスト部分を読んでおくこと。また、わからない（専門）用語については調べておくこと（120分）
- ・事後には講義内容を配布資料やテキストをもとに復習し、必要に応じて講義内にて提示される課題に取り組むこと（120分）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
10	10. コミュニティワーク：コミュニティワークの意義と目的	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
11	11. コミュニティワーク：地域アセスメント、地域課題の発見・認識・実施計画	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
12	12. コミュニティワーク：社会資源の開発・組織化・評価	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
13	13. スーパービジョンとコンサルテーション：スーパービジョンの意義と目的	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
14	14. スーパービジョンとコンサルテーション：スーパービジョンの方法	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	
15	15. スーパービジョンとコンサルテーション：コンサルテーションの意義、目的，方法	テキストの授業内容に該当する箇所を事前に読んでおくこと（60分）。分からない、忘れている専門用語等について調べておくこと（60分）。授業後は授業内容の整理とともに、社会問題やソーシャルワークの実践と関連させて整理しておくこと（120分）。	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	アセスメントー児童家庭支援における事例から理解する	（事前）アセスメント方法について確認しておく／（事後）アセスメントの手順について確認する	
4	プランニングー児童家庭支援における事例から理解する	（事前）計画立案の方法について確認しておく／（事後）プランニングの手順について確認する	
5	グループワークの準備期ー高齢者支援における事例から理解する	（事前）グループワークの準備期について確認しておく／（事後）準備期の要点について確認する	
6	グループワークの開始期ー高齢者支援の事例から理解する	（事前）グループワークの開始期について確認しておく／（事後）開始期の要点についてまとめる	
7	グループワークの作業期・終結期ー高齢者支援の事例から理解する	（事前）グループワークの作業期について確認しておく／（事後）終結期の要点について確認する	
8	問題の発見とニーズの把握ー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）問題発見について確認しておく／（事後）ニーズの把握の方法についてまとめる	
9	アセスメントの実施と地域ニーズの分析ー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）地域ニーズの分析について確認する／（事後）地域のアセスメント方法についてまとめる	
10	ネットワーキングとコーディネーションー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）ネットワーキングについて確認しておく／（事後）コーディネーションの方法についてまとめる	
11	多くの問題を抱える家族の把握ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）多問題家族について調べておく／（事後）包括的ソーシャルワークについてまとめる	
12	本人主体のサポートシステムの構築ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）本人主体のサポートについて調べておく／（事後）本人主体のサポートについてまとめる	
13	個を支える地域の形成ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）地域社会について確認しておく／（事後）地域の社会資源について確認する	
14	家族全体に対する支援プランの作成ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）家族への支援について確認する／（事後）家族全体へのプランニングについて確認する	
15	まとめーこれまでの自己評価とこれからの課題についてまとめる	（事前）これまでの授業内容について確認する／（事後）これまでの授業内容についてまとめ、演習Ⅳに向けて準備する	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ
時間割コード	0233901301
ナンバリングコード	S 130333-S-14
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習における位置づけは、ソーシャルワークの基礎を学ぶことである。学習方法としてはグループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法やロールプレイ、プレゼンテーションなど多様な方法を用いてソーシャルワーク実践の知識と技能を具体的に学習することを目的とする。授業の達成目標としては以下のとおりである。①自己覚知への取り組みを通じて、自分自身、集団の中での自身、また地域生活における自身について明瞭な説明ができる。②コミュニケーションの構造を理解し、基本的なコミュニケーションを実施することができる。③基本的な面接技術について説明ができる。④ソーシャルワーク・プロセスについて説明することができる。⑤ソーシャルワーク実践に必要となる記録についてその特性を説明することができる。⑥集団（グループ）の特質、グループダイナミクス、グループワークのプロセスについて説明することができる。⑦地域（コミュニティ）に関する理解と、その定義・役割、機能についてプレゼンテーションを実施することができる。
履修上の注意事項	小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし、専門職として就労することを目標にする学生が望ましい。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。
評価方法	授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。
テキスト	授業内で提示する。
参考文献	随時指示する。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワークを中心に授業を行う。

授業計画

授業計画
クラス別に各教員がそれぞれ実施する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーションー学習目標の明確化	（事前）演習Ⅰの授業についてシラバスで確認しておく／（事後）演習Ⅰの目標について確認する	
2	自己覚知（個人）ー専門職である自己の価値観・思考傾向の考察	（事前）自己覚知について調べておく／（事後）自己覚知について改めて考えておく	
3	個人へのコミュニケーションー基本的なコミュニケーションを理解する	（事前）コミュニケーションについて調べておく／（事後）基本的なコミュニケーションについてまとめる	
4	面接技法①ー言語・準言語・非言語の意義と効果について	（事前）言語と非言語について調べておく／（事後）非言語の意義についてまとめる	

授業計画

クラス別に各教員がそれぞれ実施する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	ソーシャルワークのプロセスの全体像について理解する	（事前）ソーシャルワークのプロセスについて確認する／（事後）ソーシャルワークのプロセスについてまとめる	
6	記録の方法と管理を理解する	（事前）記録の方法について調べておく／（事後）記録方法についてまとめる	
7	集団の理解—その定義と機能について理解する	（事前）集団について調べておく／（事後）集団のポイントについてまとめる	
8	グループダイナミクスについて—集団がもたらす支援の効果について理解する	（事前）グループダイナミクスについて調べておく／（事後）グループダイナミクスについてまとめる	
9	グループワークのプロセスとその展開過程について理解する	（事前）グループワークとは何か調べておく／（事後）グループワークのプロセスについて調べる	
10	自己覚知（地域）私たちの生活と地域社会のつながりについて理解する	（事前）自分の地域について確認しておく／（事後）自分の地域の資源についてまとめる	
11	地域（コミュニティ）の定義と概念を理解する	（事前）地域とは何かについて調べる／（事後）地域の定義についてまとめる	
12	地域調査①—特定地域の調査方法について理解する	（事前）地域調査について調べておく／（事後）地域調査の準備をする	
13	地域調査②—プレゼンテーションのための準備	（事前）地域調査の準備をする／（事後）発表の準備をする	
14	地域調査報告—プレゼンテーションの実施	（事前）発表の準備・練習をしておく／（事後）発表内容についてレポートにまとめる	
15	まとめ—自己評価と課題の明確化	（事前）これまでの演習内容について復習する／（事後）自分の課題について確認し、演習Ⅱに備える	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ
時間割コード	0233901302
ナンバリングコード	S 130333-S-14
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	増田 公香
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
増田 公香

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習における位置づけは、ソーシャルワークの基礎を学ぶことである。学習方法としてはグループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法やロールプレイ、プレゼンテーションなど多様な方法を用いてソーシャルワーク実践の知識と技能を具体的に学習することを目的とする。授業の達成目標としては以下のとおりである。①自己覚知への取り組みを通じて、自分自身、集団の中での自身、また地域生活における自身について明瞭な説明ができる。②コミュニケーションの構造を理解し、基本的なコミュニケーションを実施することができる。③基本的な面接技術について説明ができる。④ソーシャルワーク・プロセスについて説明することができる。⑤ソーシャルワーク実践に必要となる記録についてその特性を説明することができる。⑥集団（グループ）の特質、グループダイナミクス、グループワークのプロセスについて説明することができる。⑦地域（コミュニティ）に関する理解と、その定義・役割、機能についてプレゼンテーションを実施することができる。
履修上の注意事項	小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし、専門職として就労することを目標にする学生が望ましい。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。
評価方法	授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。
テキスト	授業内で提示する。
参考文献	随時指示する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	村本浄司：研究員として障害者支援施設に勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	当該科目の理解が深まるよう、授業内で適宜動画等を用いる。 グループワークやディスカッションを取り入れた授業を実施し問題解決型学習を促進する。 また携帯電話等をもちい、ICT学修を行う。

授業計画

授業計画
クラス別に各教員がそれぞれ実施する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーションー学習目標の明確化	（事前）演習Ⅰの授業についてシラバスで確認しておく／（事後）演習Ⅰの目標について確認する	
2	自己覚知（個人）ー専門職である自己の価値観・思考傾向の考察	（事前）自己覚知について調べておく／（事後）自己覚知について改めて考えておく	
3	個人へのコミュニケーションー基本的なコミュニケーションを理解する	（事前）コミュニケーションについて調べておく／（事後）基本的なコミュニケーションについてまとめる	
4	面接技法①ー言語・準言語・非言語の意義と効果について	（事前）言語と非言語について調べておく／（事後）非言語の意義についてまとめる	

授業計画

クラス別に各教員がそれぞれ実施する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	ソーシャルワークのプロセスの全体像について理解する	（事前）ソーシャルワークのプロセスについて確認する／（事後）ソーシャルワークのプロセスについてまとめる	
6	記録の方法と管理を理解する	（事前）記録の方法について調べておく／（事後）記録方法についてまとめる	
7	集団の理解—その定義と機能について理解する	（事前）集団について調べておく／（事後）集団のポイントについてまとめる	
8	グループダイナミクスについて—集団がもたらす支援の効果について理解する	（事前）グループダイナミクスについて調べておく／（事後）グループダイナミクスについてまとめる	
9	グループワークのプロセスとその展開過程について理解する	（事前）グループワークとは何か調べておく／（事後）グループワークのプロセスについて調べる	
10	自己覚知（地域）私たちの生活と地域社会のつながりについて理解する	（事前）自分の地域について確認しておく／（事後）自分の地域の資源についてまとめる	
11	地域（コミュニティ）の定義と概念を理解する	（事前）地域とは何かについて調べる／（事後）地域の定義についてまとめる	
12	地域調査①—特定地域の調査方法について理解する	（事前）地域調査について調べておく／（事後）地域調査の準備をする	
13	地域調査②—プレゼンテーションのための準備	（事前）地域調査の準備をする／（事後）発表の準備をする	
14	地域調査報告—プレゼンテーションの実施	（事前）発表の準備・練習をしておく／（事後）発表内容についてレポートにまとめる	
15	まとめ—自己評価と課題の明確化	（事前）これまでの演習内容について復習する／（事後）自分の課題について確認し、演習Ⅱに備える	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ
時間割コード	0233901303
ナンバリングコード	S 130333-S-14
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習における位置づけは、ソーシャルワークの基礎を学ぶことである。学習方法としてはグループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法やロールプレイ、プレゼンテーションなど多様な方法を用いてソーシャルワーク実践の知識と技能を具体的に学習することを目的とする。授業の達成目標としては以下のとおりである。①自己覚知への取り組みを通じて、自分自身、集団の中での自身、また地域生活における自身について明瞭な説明ができる。②コミュニケーションの構造を理解し、基本的なコミュニケーションを実施することができる。③基本的な面接技術について説明ができる。④ソーシャルワーク・プロセスについて説明することができる。⑤ソーシャルワーク実践に必要となる記録についてその特性を説明することができる。⑥集団（グループ）の特質、グループダイナミクス、グループワークのプロセスについて説明することができる。⑦地域（コミュニティ）に関する理解と、その定義・役割、機能についてプレゼンテーションを実施することができる。
履修上の注意事項	小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし、専門職として就労することを目標にする学生が望ましい。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。
評価方法	授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。
テキスト	授業内で提示する。
参考文献	随時指示する。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	毎回のグループワークを中心に授業を行う。

授業計画

授業計画
クラス別に各教員がそれぞれ実施する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーションー学習目標の明確化	（事前）演習Ⅰの授業についてシラバスで確認しておく／（事後）演習Ⅰの目標について確認する	
2	自己覚知（個人）ー専門職である自己の価値観・思考傾向の考察	（事前）自己覚知について調べておく／（事後）自己覚知について改めて考えておく	
3	個人へのコミュニケーションー基本的なコミュニケーションを理解する	（事前）コミュニケーションについて調べておく／（事後）基本的なコミュニケーションについてまとめる	
4	面接技法①ー言語・準言語・非言語の意義と効果について	（事前）言語と非言語について調べておく／（事後）非言語の意義についてまとめる	

授業計画

クラス別に各教員がそれぞれ実施する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	ソーシャルワークのプロセスの全体像について理解する	（事前）ソーシャルワークのプロセスについて確認する／（事後）ソーシャルワークのプロセスについてまとめる	
6	記録の方法と管理を理解する	（事前）記録の方法について調べておく／（事後）記録方法についてまとめる	
7	集団の理解—その定義と機能について理解する	（事前）集団について調べておく／（事後）集団のポイントについてまとめる	
8	グループダイナミクスについて—集団がもたらす支援の効果について理解する	（事前）グループダイナミクスについて調べておく／（事後）グループダイナミクスについてまとめる	
9	グループワークのプロセスとその展開過程について理解する	（事前）グループワークとは何か調べておく／（事後）グループワークのプロセスについて調べる	
10	自己覚知（地域）私たちの生活と地域社会のつながりについて理解する	（事前）自分の地域について確認しておく／（事後）自分の地域の資源についてまとめる	
11	地域（コミュニティ）の定義と概念を理解する	（事前）地域とは何かについて調べる／（事後）地域の定義についてまとめる	
12	地域調査①—特定地域の調査方法について理解する	（事前）地域調査について調べておく／（事後）地域調査の準備をする	
13	地域調査②—プレゼンテーションのための準備	（事前）地域調査の準備をする／（事後）発表の準備をする	
14	地域調査報告—プレゼンテーションの実施	（事前）発表の準備・練習をしておく／（事後）発表内容についてレポートにまとめる	
15	まとめ—自己評価と課題の明確化	（事前）これまでの演習内容について復習する／（事後）自分の課題について確認し、演習Ⅱに備える	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ
時間割コード	0233901304
ナンバリングコード	S 130333-S-14
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習における位置づけは、ソーシャルワークの基礎を学ぶことである。学習方法としてはグループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法やロールプレイ、プレゼンテーションなど多様な方法を用いてソーシャルワーク実践の知識と技能を具体的に学習することを目的とする。授業の達成目標としては以下のとおりである。①自己覚知への取り組みを通じて、自分自身、集団の中での自身、また地域生活における自身について明瞭な説明ができる。②コミュニケーションの構造を理解し、基本的なコミュニケーションを実施することができる。③基本的な面接技術について説明ができる。④ソーシャルワーク・プロセスについて説明することができる。⑤ソーシャルワーク実践に必要となる記録についてその特性を説明することができる。⑥集団（グループ）の特質、グループダイナミクス、グループワークのプロセスについて説明することができる。⑦地域（コミュニティ）に関する理解と、その定義・役割、機能についてプレゼンテーションを実施することができる。
履修上の注意事項	小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし、専門職として就労することを目標にする学生が望ましい。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。
評価方法	授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。
テキスト	授業内で提示する。
参考文献	随時指示する。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワークを中心に授業を行う。 プレゼンテーション資料等の提出にCampus Squareを活用する。

授業計画

授業計画
クラス別に各教員がそれぞれ実施する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーションー学習目標の明確化	（事前）演習Ⅰの授業についてシラバスで確認しておく／（事後）演習Ⅰの目標について確認する	
2	自己覚知（個人）ー専門職である自己の価値観・思考傾向の考察	（事前）自己覚知について調べておく／（事後）自己覚知について改めて考えておく	
3	個人へのコミュニケーションー基本的なコミュニケーションを理解する	（事前）コミュニケーションについて調べておく／（事後）基本的なコミュニケーションについてまとめる	
4	面接技法①ー言語・準言語・非言語の意義と効果について	（事前）言語と非言語について調べておく／（事後）非言語の意義についてまとめる	

授業計画

クラス別に各教員がそれぞれ実施する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	ソーシャルワークのプロセスの全体像について理解する	（事前）ソーシャルワークのプロセスについて確認する／（事後）ソーシャルワークのプロセスについてまとめる	
6	記録の方法と管理を理解する	（事前）記録の方法について調べておく／（事後）記録方法についてまとめる	
7	集団の理解—その定義と機能について理解する	（事前）集団について調べておく／（事後）集団のポイントについてまとめる	
8	グループダイナミクスについて—集団がもたらす支援の効果について理解する	（事前）グループダイナミクスについて調べておく／（事後）グループダイナミクスについてまとめる	
9	グループワークのプロセスとその展開過程について理解する	（事前）グループワークとは何か調べておく／（事後）グループワークのプロセスについて調べる	
10	自己覚知（地域）私たちの生活と地域社会のつながりについて理解する	（事前）自分の地域について確認しておく／（事後）自分の地域の資源についてまとめる	
11	地域（コミュニティ）の定義と概念を理解する	（事前）地域とは何かについて調べる／（事後）地域の定義についてまとめる	
12	地域調査①—特定地域の調査方法について理解する	（事前）地域調査について調べておく／（事後）地域調査の準備をする	
13	地域調査②—プレゼンテーションのための準備	（事前）地域調査の準備をする／（事後）発表の準備をする	
14	地域調査報告—プレゼンテーションの実施	（事前）発表の準備・練習をしておく／（事後）発表内容についてレポートにまとめる	
15	まとめ—自己評価と課題の明確化	（事前）これまでの演習内容について復習する／（事後）自分の課題について確認し、演習Ⅱに備える	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ
時間割コード	0233901401
ナンバリングコード	S 230333-S-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	水 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習Ⅱは、ソーシャルワークの展開という位置づけとなる。具体的にはソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえ、ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークのプロセス展開と、そこで活用される技術などについて学習する。本授業では以下の目標を達成することを目指す。 ①ソーシャルワークのプロセス（展開過程）について説明ができる。②基本的な面接技術について実践できる。③グループワークのプロセス（展開過程）、ソーシャルワーカーの役割について、明瞭な説明ができる。④グループワークにおける専門技術について実践できる。⑤コミュニティソーシャルワークのプロセス（展開過程）が説明できる。⑥アウトリーチ、チームアプローチ、ネゴシエーション、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発といった援助技術について、その目的と方法について説明できる。
履修上の注意事項	ソーシャルワーク実習に向けて、より実践的な内容となってくるため、実習を念頭に置きながら挑むこと。クライアントや実習場面を想定しながら、演習を行っていくため、教員からの指示待ちではなく、常に問題解決志向を持ちながら、現場で応用できるように整理していくことを望む。
評価方法	演習内への参加姿勢や発言、積極姿勢などの評価30%、演習の提出物の評価30%、課題レポート40%で評価する。
テキスト	特に指示しない。担当教員がその都度、必要な資料を配布する。
参考文献	「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編（2020）はじめてのソーシャルワーク演習。ミネルヴァ書房。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワークを中心に授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	SW演習Ⅰの振り返りー学習内容の確認と自己課題の把握	（事前）SW演習Ⅰの内容について復習する／（事後）自己課題についてまとめる	
2	人間（個人）の理解ーバイオ、サイコ、ソーシャルモデルの視点を学ぶ	（事前）人間の理解方法について調べておく／（事後）生物心理社会モデルについてまとめる	
3	面接技法②ー適切な姿勢と態度について理解する	（事前）面接の姿勢について調べておく／（事後）面接の姿勢についてまとめる	
4	面接技法③ー基本的応答技法について理解する	（事前）面接の応答について調べる／（事後）面接の応答についてまとめる	
5	ソーシャルワークのプロセス②ーワーカーの役割について理解する	（事前）ソーシャルワークのプロセスについて確認する／（事後）ソーシャルワークのプロセスについてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
6	グループワークにおけるワーカーの役割と専門性について理解する	（事前）グループワークにおけるワーカーの役割について確認する／（事後）グループワークのワーカーの役割についてまとめる	
7	グループワークの技法①―準備期と開始期の介入方法を理解する	（事前）グループワークの準備期について確認する／（事後）グループワークの開始期についてまとめる	
8	グループワークの技法②―作業期と終結期の介入方法を理解する	（事前）グループワークの作業期について調べる／（事後）グループワークの終結期についてまとめる	
9	コミュニティ・ソーシャルワークのプロセスとその必要性について理解する	（事前）コミュニティソーシャルワークについて確認する／（事後）コミュニティソーシャルワークのプロセスについてまとめる	
10	アウトリーチの必要性と実践方法について理解する	（事前）アウトリーチについて調べる／（事後）アウトリーチの要点についてまとめる	
11	チームアプローチの必要性と実践方法について理解する	（事前）チームアプローチについて調べる／（事後）チームアプローチの要点についてまとめる	
12	コーディネーションの必要性と実践方法について理解する	（事前）コーディネーションについて調べる／（事後）コーディネーションの要点をまとめる	
13	ネットワーキングの必要性と実践方法について理解する	（事前）ネットワーキングについて調べる／（事後）ネットワーキングの必要性についてまとめる	
14	社会資源の活用・調整・開発について理解する	（事前）社会資源について確認する／（事後）社会資源の調整についての要点についてまとめる	
15	まとめ―SW演習Ⅱにおける自己評価と課題の明確化を図る	（事前）これまでの授業内容について確認する／（事後）自身の課題について確認し、演習Ⅱに向けて準備する	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ
時間割コード	0233901402
ナンバリングコード	S 230333-S-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	水 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	増田 公香
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
増田 公香

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習Ⅱは、ソーシャルワークの展開という位置づけとなる。具体的にはソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえ、ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークのプロセス展開と、そこで活用される技術などについて学習する。本授業では以下の目標を達成することを目指す。 ①ソーシャルワークのプロセス（展開過程）について説明ができる。②基本的な面接技術について実践できる。③グループワークのプロセス（展開過程）、ソーシャルワーカーの役割について、明瞭な説明ができる。④グループワークにおける専門技術について実践できる。⑤コミュニティソーシャルワークのプロセス（展開過程）が説明できる。⑥アウトリーチ、チームアプローチ、ネゴシエーション、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発といった援助技術について、その目的と方法について説明できる。
履修上の注意事項	ソーシャルワーク実習に向けて、より実践的な内容となってくるため、実習を念頭に置きながら挑むこと。クライアントや実習場面を想定しながら、演習を行っていくため、教員からの指示待ちではなく、常に問題解決志向を持ちながら、現場で応用できるように整理していくことを望む。
評価方法	演習内への参加姿勢や発言、積極姿勢などの評価30%、演習の提出物の評価30%、課題レポート40%で評価する。
テキスト	特に指示しない。担当教員がその都度、必要な資料を配布する。
参考文献	「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編（2020）はじめてのソーシャルワーク演習。ミネルヴァ書房。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	当該科目の理解が深まるよう、授業内で適宜動画等を用いる。 グループワークやディスカッションを取り入れた授業を実施し問題解決型学習を促進する。 また携帯電話等をもちい、ICT学修を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	SW演習Ⅰの振り返りー学習内容の確認と自己課題の把握	（事前）SW演習Ⅰの内容について復習する／（事後）自己課題についてまとめる	
2	人間（個人）の理解ーバイオ、サイコ、ソーシャルモデルの視点を学ぶ	（事前）人間の理解方法について調べておく／（事後）生物心理社会モデルについてまとめる	
3	面接技法②ー適切な姿勢と態度について理解する	（事前）面接の姿勢について調べておく／（事後）面接の姿勢についてまとめる	
4	面接技法③ー基本的応答技法について理解する	（事前）面接の応答について調べる／（事後）面接の応答についてまとめる	
5	ソーシャルワークのプロセス②ーワーカーの役割について理解する	（事前）ソーシャルワークのプロセスについて確認する／（事後）ソーシャルワークのプロセスについてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
6	グループワークにおけるワーカーの役割と専門性について理解する	（事前）グループワークにおけるワーカーの役割について確認する／（事後）グループワークのワーカーの役割についてまとめる	
7	グループワークの技法①―準備期と開始期の介入方法を理解する	（事前）グループワークの準備期について確認する／（事後）グループワークの開始期についてまとめる	
8	グループワークの技法②―作業期と終結期の介入方法を理解する	（事前）グループワークの作業期について調べる／（事後）グループワークの終結期についてまとめる	
9	コミュニティ・ソーシャルワークのプロセスとその必要性について理解する	（事前）コミュニティソーシャルワークについて確認する／（事後）コミュニティソーシャルワークのプロセスについてまとめる	
10	アウトリーチの必要性と実践方法について理解する	（事前）アウトリーチについて調べる／（事後）アウトリーチの要点についてまとめる	
11	チームアプローチの必要性と実践方法について理解する	（事前）チームアプローチについて調べる／（事後）チームアプローチの要点についてまとめる	
12	コーディネーションの必要性と実践方法について理解する	（事前）コーディネーションについて調べる／（事後）コーディネーションの要点をまとめる	
13	ネットワーキングの必要性と実践方法について理解する	（事前）ネットワーキングについて調べる／（事後）ネットワーキングの必要性についてまとめる	
14	社会資源の活用・調整・開発について理解する	（事前）社会資源について確認する／（事後）社会資源の調整についての要点についてまとめる	
15	まとめ―SW演習Ⅱにおける自己評価と課題の明確化を図る	（事前）これまでの授業内容について確認する／（事後）自身の課題について確認し、演習Ⅱに向けて準備する	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ
時間割コード	0233901403
ナンバリングコード	S 230333-S-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	水 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習Ⅱは、ソーシャルワークの展開という位置づけとなる。具体的にはソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえ、ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークのプロセス展開と、そこで活用される技術などについて学習する。本授業では以下の目標を達成することを目指す。 ①ソーシャルワークのプロセス（展開過程）について説明ができる。②基本的な面接技術について実践できる。③グループワークのプロセス（展開過程）、ソーシャルワーカーの役割について、明瞭な説明ができる。④グループワークにおける専門技術について実践できる。⑤コミュニティソーシャルワークのプロセス（展開過程）が説明できる。⑥アウトリーチ、チームアプローチ、ネゴシエーション、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発といった援助技術について、その目的と方法について説明できる。
履修上の注意事項	ソーシャルワーク実習に向けて、より実践的な内容となってくるため、実習を念頭に置きながら挑むこと。クライアントや実習場面を想定しながら、演習を行っていくため、教員からの指示待ちではなく、常に問題解決志向を持ちながら、現場で応用できるように整理していくことを望む。
評価方法	演習内への参加姿勢や発言、積極姿勢などの評価30%、演習の提出物の評価30%、課題レポート40%で評価する。
テキスト	特に指示しない。担当教員がその都度、必要な資料を配布する。
参考文献	「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編（2020）はじめてのソーシャルワーク演習。ミネルヴァ書房。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	毎回のグルーワークを中心に授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	SW演習Ⅰの振り返りー学習内容の確認と自己課題の把握	（事前）SW演習Ⅰの内容について復習する／（事後）自己課題についてまとめる	
2	人間（個人）の理解ーバイオ、サイコ、ソーシャルモデルの視点を学ぶ	（事前）人間の理解方法について調べておく／（事後）生物心理社会モデルについてまとめる	
3	面接技法②ー適切な姿勢と態度について理解する	（事前）面接の姿勢について調べておく／（事後）面接の姿勢についてまとめる	
4	面接技法③ー基本的応答技法について理解する	（事前）面接の応答について調べる／（事後）面接の応答についてまとめる	
5	ソーシャルワークのプロセス②ーワーカーの役割について理解する	（事前）ソーシャルワークのプロセスについて確認する／（事後）ソーシャルワークのプロセスについてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
6	グループワークにおけるワーカーの役割と専門性について理解する	（事前）グループワークにおけるワーカーの役割について確認する／（事後）グループワークのワーカーの役割についてまとめる	
7	グループワークの技法①―準備期と開始期の介入方法を理解する	（事前）グループワークの準備期について確認する／（事後）グループワークの開始期についてまとめる	
8	グループワークの技法②―作業期と終結期の介入方法を理解する	（事前）グループワークの作業期について調べる／（事後）グループワークの終結期についてまとめる	
9	コミュニティ・ソーシャルワークのプロセスとその必要性について理解する	（事前）コミュニティソーシャルワークについて確認する／（事後）コミュニティソーシャルワークのプロセスについてまとめる	
10	アウトリーチの必要性と実践方法について理解する	（事前）アウトリーチについて調べる／（事後）アウトリーチの要点についてまとめる	
11	チームアプローチの必要性と実践方法について理解する	（事前）チームアプローチについて調べる／（事後）チームアプローチの要点についてまとめる	
12	コーディネーションの必要性と実践方法について理解する	（事前）コーディネーションについて調べる／（事後）コーディネーションの要点をまとめる	
13	ネットワーキングの必要性と実践方法について理解する	（事前）ネットワーキングについて調べる／（事後）ネットワーキングの必要性についてまとめる	
14	社会資源の活用・調整・開発について理解する	（事前）社会資源について確認する／（事後）社会資源の調整についての要点についてまとめる	
15	まとめ―SW演習Ⅱにおける自己評価と課題の明確化を図る	（事前）これまでの授業内容について確認する／（事後）自身の課題について確認し、演習Ⅱに向けて準備する	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ
時間割コード	0233901404
ナンバリングコード	S 230333-S-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	水 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習Ⅱは、ソーシャルワークの展開という位置づけとなる。具体的にはソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえ、ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークのプロセス展開と、そこで活用される技術などについて学習する。本授業では以下の目標を達成することを目指す。 ①ソーシャルワークのプロセス（展開過程）について説明ができる。②基本的な面接技術について実践できる。③グループワークのプロセス（展開過程）、ソーシャルワーカーの役割について、明瞭な説明ができる。④グループワークにおける専門技術について実践できる。⑤コミュニティソーシャルワークのプロセス（展開過程）が説明できる。⑥アウトリーチ、チームアプローチ、ネゴシエーション、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発といった援助技術について、その目的と方法について説明できる。
履修上の注意事項	ソーシャルワーク実習に向けて、より実践的な内容となってくるため、実習を念頭に置きながら挑むこと。クライアントや実習場面を想定しながら、演習を行っていくため、教員からの指示待ちではなく、常に問題解決志向を持ちながら、現場で応用できるように整理していくことを望む。
評価方法	演習内への参加姿勢や発言、積極姿勢などの評価30%、演習の提出物の評価30%、課題レポート40%で評価する。
テキスト	特に指示しない。担当教員がその都度、必要な資料を配布する。
参考文献	「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編（2020）はじめてのソーシャルワーク演習。ミネルヴァ書房。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワークを中心に授業を行う。 プレゼンテーションでの資料提出などCampus Squareを活用する。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	SW演習Ⅰの振り返りー学習内容の確認と自己課題の把握	（事前）SW演習Ⅰの内容について復習する／（事後）自己課題についてまとめる	
2	人間（個人）の理解ーバイオ、サイコ、ソーシャルモデルの視点を学ぶ	（事前）人間の理解方法について調べておく／（事後）生物心理社会モデルについてまとめる	
3	面接技法②ー適切な姿勢と態度について理解する	（事前）面接の姿勢について調べておく／（事後）面接の姿勢についてまとめる	
4	面接技法③ー基本的応答技法について理解する	（事前）面接の応答について調べる／（事後）面接の応答についてまとめる	
5	ソーシャルワークのプロセス②ーワーカーの役割について理解する	（事前）ソーシャルワークのプロセスについて確認する／（事後）ソーシャルワークのプロセスについてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
6	グループワークにおけるワーカーの役割と専門性について理解する	（事前）グループワークにおけるワーカーの役割について確認する／（事後）グループワークのワーカーの役割についてまとめる	
7	グループワークの技法①―準備期と開始期の介入方法を理解する	（事前）グループワークの準備期について確認する／（事後）グループワークの開始期についてまとめる	
8	グループワークの技法②―作業期と終結期の介入方法を理解する	（事前）グループワークの作業期について調べる／（事後）グループワークの終結期についてまとめる	
9	コミュニティ・ソーシャルワークのプロセスとその必要性について理解する	（事前）コミュニティソーシャルワークについて確認する／（事後）コミュニティソーシャルワークのプロセスについてまとめる	
10	アウトリーチの必要性と実践方法について理解する	（事前）アウトリーチについて調べる／（事後）アウトリーチの要点についてまとめる	
11	チームアプローチの必要性と実践方法について理解する	（事前）チームアプローチについて調べる／（事後）チームアプローチの要点についてまとめる	
12	コーディネーションの必要性と実践方法について理解する	（事前）コーディネーションについて調べる／（事後）コーディネーションの要点をまとめる	
13	ネットワーキングの必要性と実践方法について理解する	（事前）ネットワーキングについて調べる／（事後）ネットワーキングの必要性についてまとめる	
14	社会資源の活用・調整・開発について理解する	（事前）社会資源について確認する／（事後）社会資源の調整についての要点についてまとめる	
15	まとめ―SW演習Ⅱにおける自己評価と課題の明確化を図る	（事前）これまでの授業内容について確認する／（事後）自身の課題について確認し、演習Ⅲに向けて準備する	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ
時間割コード	0233901501
ナンバリングコード	S 230333-S-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習Ⅲでは、これまでの相談援助演習Ⅰ、Ⅱでの学びの内容を踏まえて、それらの知識と実践技術を、事例を通じてより実践的に活用し、「総合的かつ包括的な相談援助（ソーシャルワーク）」の展開について理解を深めていくことを目的とする。本授業では「総合的かつ包括的な相談援助」の主要な方法論となっている「個人に対するソーシャルワーク実践（ケースワーク）」「グループを活用したソーシャルワーク実践（グループワーク）」「地域（コミュニティ）に対するソーシャルワーク実践（コミュニティソーシャルワーク）」について実践における展開過程を具体的に理解し、その上で理論的な基盤となっている「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」の特質を踏まえて、個人、グループ、地域を対象とした横断的・総合的な専門知識・技術の実践展開を具体的に理解していく。本授業の目標として、次の4つを達成することを目指す。 ①ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。②ソーシャルワークに関する事例を用いて、グループを活用したソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。③ソーシャルワークに関する事例を用いて、地域に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。④ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人、グループ、地域を対象とした横断的・総合的な専門知識・技術の活用を理解することができる。
履修上の注意事項	演習Ⅰ、演習Ⅱに続き、演習Ⅲではさらに応用的な内容となる。また、ソーシャルワーク実習に向けて、より実践的な内容となっていくため、これまでと同様に積極的に授業に参加することを望む。具体的な事例を紹介し、その事例にたいして、これまで培ったソーシャルワークの方法論が展開できることが望まれる。
評価方法	授業内での発言や積極的参加度30%、毎回の授業の提出物30%、レポート40%で評価する。
テキスト	毎回、授業で教員が資料を配布する。
参考文献	「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編（2020）はじめてのソーシャルワーク演習、ミネルヴァ書房。 「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会編（2021）学びが深まるソーシャルワーク演習、ミネルヴァ書房
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワークを中心に授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、演習Ⅱの振り返り	（事前）演習Ⅱの内容についてまとめておく／（事後）今後の予定について確認する	
2	インテークー児童家庭支援における展開から理解する	（事前）インテークの方法について確認しておく／（事後）インテークについてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	アセスメントー児童家庭支援における事例から理解する	（事前）アセスメント方法について確認しておく／（事後）アセスメントの手順について確認する	
4	プランニングー児童家庭支援における事例から理解する	（事前）計画立案の方法について確認しておく／（事後）プランニングの手順について確認する	
5	グループワークの準備期ー高齢者支援における事例から理解する	（事前）グループワークの準備期について確認しておく／（事後）準備期の要点について確認する	
6	グループワークの開始期ー高齢者支援の事例から理解する	（事前）グループワークの開始期について確認しておく／（事後）開始期の要点についてまとめる	
7	グループワークの作業期・終結期ー高齢者支援の事例から理解する	（事前）グループワークの作業期について確認しておく／（事後）終結期の要点について確認する	
8	問題の発見とニーズの把握ー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）問題発見について確認しておく／（事後）ニーズの把握の方法についてまとめる	
9	アセスメントの実施と地域ニーズの分析ー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）地域ニーズの分析について確認する／（事後）地域のアセスメント方法についてまとめる	
10	ネットワーキングとコーディネーションー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）ネットワーキングについて確認しておく／（事後）コーディネーションの方法についてまとめる	
11	多くの問題を抱える家族の把握ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）多問題家族について調べておく／（事後）包括的ソーシャルワークについてまとめる	
12	本人主体のサポートシステムの構築ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）本人主体のサポートについて調べておく／（事後）本人主体のサポートについてまとめる	
13	個を支える地域の形成ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）地域社会について確認しておく／（事後）地域の社会資源について確認する	
14	家族全体に対する支援プランの作成ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）家族への支援について確認する／（事後）家族全体へのプランニングについて確認する	
15	まとめーこれまでの自己評価とこれからの課題についてまとめる	（事前）これまでの授業内容について確認する／（事後）これまでの授業内容についてまとめ、演習Ⅳに向けて準備する	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ
時間割コード	0233901502
ナンバリングコード	S 230333-S-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	村本 浄司
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
村本 浄司

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習Ⅲでは、これまでの相談援助演習Ⅰ、Ⅱでの学びの内容を踏まえて、それらの知識と実践技術を、事例を通じてより実践的に活用し、「総合的かつ包括的な相談援助（ソーシャルワーク）」の展開について理解を深めていくことを目的とする。本授業では「総合的かつ包括的な相談援助」の主要な方法論となっている「個人に対するソーシャルワーク実践（ケースワーク）」「グループを活用したソーシャルワーク実践（グループワーク）」「地域（コミュニティ）に対するソーシャルワーク実践（コミュニティソーシャルワーク）」について実践における展開過程を具体的に理解し、その上で理論的な基盤となっている「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」の特質を踏まえて、個人、グループ、地域を対象とした横断的・総合的な専門知識・技術の実践展開を具体的に理解していく。本授業の目標として、次の4つを達成することを目指す。 ①ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。②ソーシャルワークに関する事例を用いて、グループを活用したソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。③ソーシャルワークに関する事例を用いて、地域に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。④ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人、グループ、地域を対象とした横断的・総合的な専門知識・技術の活用を理解することができる。
履修上の注意事項	演習Ⅰ、演習Ⅱに続き、演習Ⅲではさらに応用的な内容となる。また、ソーシャルワーク実習に向けて、より実践的な内容となっていくため、これまでと同様に積極的に授業に参加することを望む。具体的な事例を紹介し、その事例にたいして、これまで培ったソーシャルワークの方法論が展開できることが望まれる。
評価方法	授業内での発言や積極的参加度30%、毎回の授業の提出物30%、レポート40%で評価する。
テキスト	毎回、授業で教員が資料を配布する。
参考文献	「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編（2020）はじめてのソーシャルワーク演習、ミネルヴァ書房。 「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会編（2021）学びが深まるソーシャルワーク演習、ミネルヴァ書房
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	村本浄司：障害者支援施設において研究員として勤務経験があるため、その経験を活かしたソーシャルワークについて教授可能
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	（アクティブラーニング） 専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくためにグループワークにおける対話をとおして理解を深める。 （ICT） 該当なし

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、演習Ⅱの振り返り	（事前）演習Ⅱの内容についてまとめておく／（事後）今後の予定について確認する	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	インテークー児童家庭支援における展開から理解する	（事前）インテークの方法について確認しておく／（事後）インテークについてまとめる	
3	アセスメントー児童家庭支援における事例から理解する	（事前）アセスメント方法について確認しておく／（事後）アセスメントの手順について確認する	
4	プランニングー児童家庭支援における事例から理解する	（事前）計画立案の方法について確認しておく／（事後）プランニングの手順について確認する	
5	グループワークの準備期ー高齢者支援における事例から理解する	（事前）グループワークの準備期について確認しておく／（事後）準備期の要点について確認する	
6	グループワークの開始期ー高齢者支援の事例から理解する	（事前）グループワークの開始期について確認しておく／（事後）開始期の要点についてまとめる	
7	グループワークの作業期・終結期ー高齢者支援の事例から理解する	（事前）グループワークの作業期について確認しておく／（事後）終結期の要点について確認する	
8	問題の発見とニーズの把握ー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）問題発見について確認しておく／（事後）ニーズの把握の方法についてまとめる	
9	アセスメントの実施と地域ニーズの分析ー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）地域ニーズの分析について確認する／（事後）地域のアセスメント方法についてまとめる	
10	ネットワーキングとコーディネーションー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）ネットワーキングについて確認しておく／（事後）コーディネーションの方法についてまとめる	
11	多くの問題を抱える家族の把握ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）多問題家族について調べておく／（事後）包括的ソーシャルワークについてまとめる	
12	本人主体のサポートシステムの構築ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）本人主体のサポートについて調べておく／（事後）本人主体のサポートについてまとめる	
13	個を支える地域の形成ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）地域社会について確認しておく／（事後）地域の社会資源について確認する	
14	家族全体に対する支援プランの作成ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）家族への支援について確認する／（事後）家族全体へのプランニングについて確認する	
15	まとめーこれまでの自己評価とこれからの課題についてまとめる	（事前）これまでの授業内容について確認する／（事後）これまでの授業内容についてまとめ、演習Ⅳに向けて準備する	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ
時間割コード	0233901503
ナンバリングコード	S 230333-S-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習Ⅲでは、これまでの相談援助演習Ⅰ、Ⅱでの学びの内容を踏まえて、それらの知識と実践技術を、事例を通じてより実践的に活用し、「総合的かつ包括的な相談援助（ソーシャルワーク）」の展開について理解を深めていくことを目的とする。本授業では「総合的かつ包括的な相談援助」の主要な方法論となっている「個人に対するソーシャルワーク実践（ケースワーク）」「グループを活用したソーシャルワーク実践（グループワーク）」「地域（コミュニティ）に対するソーシャルワーク実践（コミュニティソーシャルワーク）」について実践における展開過程を具体的に理解し、その上で理論的な基盤となっている「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」の特質を踏まえて、個人、グループ、地域を対象とした横断的・総合的な専門知識・技術の実践展開を具体的に理解していく。本授業の目標として、次の4つを達成することを目指す。 ①ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。②ソーシャルワークに関する事例を用いて、グループを活用したソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。③ソーシャルワークに関する事例を用いて、地域に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。④ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人、グループ、地域を対象とした横断的・総合的な専門知識・技術の活用を理解することができる。
履修上の注意事項	演習Ⅰ、演習Ⅱに続き、演習Ⅲではさらに応用的な内容となる。また、ソーシャルワーク実習に向けて、より実践的な内容となっていくため、これまでと同様に積極的に授業に参加することを望む。具体的な事例を紹介し、その事例にたいして、これまで培ったソーシャルワークの方法論が展開できることが望まれる。
評価方法	授業内での発言や積極的参加度30%、毎回の授業の提出物30%、レポート40%で評価する。
テキスト	毎回、授業で教員が資料を配布する。
参考文献	「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編（2020）はじめてのソーシャルワーク演習、ミネルヴァ書房。 「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会編（2021）学びが深まるソーシャルワーク演習、ミネルヴァ書房
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	毎回のグループワークを中心に授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、演習Ⅱの振り返り	（事前）演習Ⅱの内容についてまとめておく／（事後）今後の予定について確認する	
2	インテークー児童家庭支援における展開から理解する	（事前）インテークの方法について確認しておく／（事後）インテークについてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	アセスメントー児童家庭支援における事例から理解する	（事前）アセスメント方法について確認しておく／（事後）アセスメントの手順について確認する	
4	プランニングー児童家庭支援における事例から理解する	（事前）計画立案の方法について確認しておく／（事後）プランニングの手順について確認する	
5	グループワークの準備期ー高齢者支援における事例から理解する	（事前）グループワークの準備期について確認しておく／（事後）準備期の要点について確認する	
6	グループワークの開始期ー高齢者支援の事例から理解する	（事前）グループワークの開始期について確認しておく／（事後）開始期の要点についてまとめる	
7	グループワークの作業期・終結期ー高齢者支援の事例から理解する	（事前）グループワークの作業期について確認しておく／（事後）終結期の要点について確認する	
8	問題の発見とニーズの把握ー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）問題発見について確認しておく／（事後）ニーズの把握の方法についてまとめる	
9	アセスメントの実施と地域ニーズの分析ー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）地域ニーズの分析について確認する／（事後）地域のアセスメント方法についてまとめる	
10	ネットワーキングとコーディネーションー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）ネットワーキングについて確認しておく／（事後）コーディネーションの方法についてまとめる	
11	多くの問題を抱える家族の把握ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）多問題家族について調べておく／（事後）包括的ソーシャルワークについてまとめる	
12	本人主体のサポートシステムの構築ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）本人主体のサポートについて調べておく／（事後）本人主体のサポートについてまとめる	
13	個を支える地域の形成ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）地域社会について確認しておく／（事後）地域の社会資源について確認する	
14	家族全体に対する支援プランの作成ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）家族への支援について確認する／（事後）家族全体へのプランニングについて確認する	
15	まとめーこれまでの自己評価とこれからの課題についてまとめる	（事前）これまでの授業内容について確認する／（事後）これまでの授業内容についてまとめ、演習Ⅳに向けて準備する	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ
時間割コード	0233901504
ナンバリングコード	S 230333-S-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク演習Ⅲでは、これまでの相談援助演習Ⅰ、Ⅱでの学びの内容を踏まえて、それらの知識と実践技術を、事例を通じてより実践的に活用し、「総合的かつ包括的な相談援助（ソーシャルワーク）」の展開について理解を深めていくことを目的とする。本授業では「総合的かつ包括的な相談援助」の主要な方法論となっている「個人に対するソーシャルワーク実践（ケースワーク）」「グループを活用したソーシャルワーク実践（グループワーク）」「地域（コミュニティ）に対するソーシャルワーク実践（コミュニティソーシャルワーク）」について実践における展開過程を具体的に理解し、その上で理論的な基盤となっている「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」の特質を踏まえて、個人、グループ、地域を対象とした横断的・総合的な専門知識・技術の実践展開を具体的に理解していく。本授業の目標として、次の4つを達成することを目指す。 ①ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。②ソーシャルワークに関する事例を用いて、グループを活用したソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。③ソーシャルワークに関する事例を用いて、地域に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。④ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人、グループ、地域を対象とした横断的・総合的な専門知識・技術の活用を理解することができる。
履修上の注意事項	演習Ⅰ、演習Ⅱに続き、演習Ⅲではさらに応用的な内容となる。また、ソーシャルワーク実習に向けて、より実践的な内容となっていくため、これまでと同様に積極的に授業に参加することを望む。具体的な事例を紹介し、その事例にたいして、これまで培ったソーシャルワークの方法論が展開できることが望まれる。
評価方法	授業内での発言や積極的参加度30%、毎回の授業の提出物30%、レポート40%で評価する。
テキスト	毎回、授業で教員が資料を配布する。
参考文献	「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編（2020）はじめてのソーシャルワーク演習、ミネルヴァ書房。 「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会編（2021）学びが深まるソーシャルワーク演習、ミネルヴァ書房
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワークを中心に授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、演習Ⅱの振り返り	（事前）演習Ⅱの内容についてまとめておく／（事後）今後の予定について確認する	
2	インテークー児童家庭支援における展開から理解する	（事前）インテークの方法について確認しておく／（事後）インテークについてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	アセスメントー児童家庭支援における事例から理解する	（事前）アセスメント方法について確認しておく／（事後）アセスメントの手順について確認する	
4	プランニングー児童家庭支援における事例から理解する	（事前）計画立案の方法について確認しておく／（事後）プランニングの手順について確認する	
5	グループワークの準備期ー高齢者支援における事例から理解する	（事前）グループワークの準備期について確認しておく／（事後）準備期の要点について確認する	
6	グループワークの開始期ー高齢者支援の事例から理解する	（事前）グループワークの開始期について確認しておく／（事後）開始期の要点についてまとめる	
7	グループワークの作業期・終結期ー高齢者支援の事例から理解する	（事前）グループワークの作業期について確認しておく／（事後）終結期の要点について確認する	
8	問題の発見とニーズの把握ー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）問題発見について確認しておく／（事後）ニーズの把握の方法についてまとめる	
9	アセスメントの実施と地域ニーズの分析ー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）地域ニーズの分析について確認する／（事後）地域のアセスメント方法についてまとめる	
10	ネットワーキングとコーディネーションー地域を基盤としたソーシャルワークから理解する	（事前）ネットワーキングについて確認しておく／（事後）コーディネーションの方法についてまとめる	
11	多くの問題を抱える家族の把握ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）多問題家族について調べておく／（事後）包括的ソーシャルワークについてまとめる	
12	本人主体のサポートシステムの構築ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）本人主体のサポートについて調べておく／（事後）本人主体のサポートについてまとめる	
13	個を支える地域の形成ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）地域社会について確認しておく／（事後）地域の社会資源について確認する	
14	家族全体に対する支援プランの作成ー総合的・包括的なソーシャルワークから理解する	（事前）家族への支援について確認する／（事後）家族全体へのプランニングについて確認する	
15	まとめーこれまでの自己評価とこれからの課題についてまとめる	（事前）これまでの授業内容について確認する／（事後）これまでの授業内容についてまとめ、演習Ⅳに向けて準備する	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ
時間割コード	0233901601
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	火 5
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	村本 浄司
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
村本 浄司

詳細情報

授業の目的・到達目標	他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる項目を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング、モデリング等）を中心とする援助形態により実施し、ソーシャルワーク実践力をつける。
履修上の注意事項	グループによる学習が中心となるので積極的な姿勢で授業に参加すること。参加型の授業形態ということで、毎回の授業での積極的発言を求める。福祉にかかわる相談援助関連科目の学びを活かしつつ、与えられた課題に積極的に取り組み、予習・復習を行い、次の講義に臨むこと。
評価方法	出席日数が3分の2以上あり、授業参加態度（予習・復習を活かした発表など）30%、課題レポート等40%、毎回の授業終了後の提出物30%で評価する。
テキスト	授業時に教員が資料を配布する。
参考文献	ソーシャルワーク演習研究会編（2018）すぐに使える学生教員実践者のためのソーシャルワーク演習・ミネルヴァ書房。 「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会編（2021）学びが深まるソーシャルワーク演習・ミネルヴァ書房。 田中英樹・中野伸彦（編）（2013）ソーシャルワーク演習のための88事例：実践につなぐ理論と技法を学ぶ。中央法規。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	村本浄司：研究員として障害者支援施設に勤務経験があるため、その経験を活かしたソーシャルワークについて教授することが可能
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	（アクティブラーニング） 専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくためにグループワークにおける対話をとおして理解を深める。 （ICT） 該当なし

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション・演習Ⅳについての概要説明、アウトリーチ地域包括支援センターにおける支援拒否事例	（事前）演習Ⅲの復習をしておく／（事後）今後の予定から全体を概観する、アウトリーチの手法についてまとめる	
2	ネットワーキングー1人暮らしの高齢者の事例から理解する	（事前）ネットワーキングについて確認しておく／（事後）ネットワーキングの手法についてまとめる	
3	ソーシャルアクションー重度障害児の事例から理解する	（事前）アウトリーチについて確認して（事前）ソーシャルアクションについて確認しておく／（事後）ソーシャルアクションの手法についてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	社会資源開発—家族会の活動事例から理解する	（事前）自分の地域の社会資源について調べておく／（事後）社会資源開発の手法についてまとめる	
5	事例を通して支援計画を立案する①—要介護高齢者の自立生活を支えるケアマネジメントと家族への支援	（事前）要介護高齢者に必要な介護サービスについて調べておく／（事後）要介護高齢者の在宅生活について調べ、まとめる	
6	事例を通して支援計画を立案する②—自宅がゴミ屋敷となり近隣からの苦情が絶えない高齢者への支援	（事前）セルフネグレクトについて調べておく／（事後）安全な住環境にするための支援案についてまとめる	
7	事例を通して支援計画を立案する③—発達が気になる子どもを抱える家族への支援	（事前）発達が気になる子どもについて調べておく／（事後）障害児福祉サービスについてまとめる	
8	事例を通して支援計画を立案する④—脳内出血を発症した患者の在宅への退院支援	（事前）医療ソーシャルワーカーの役割について調べておく／（事後）退院支援についてまとめる	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ
時間割コード	0233901602
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	火 5
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる項目を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング、モデリング等）を中心とする援助形態により実施し、ソーシャルワーク実践力をつける。
履修上の注意事項	グループによる学習が中心となるので積極的な姿勢で授業に参加すること。参加型の授業形態ということで、毎回の授業での積極的発言を求める。福祉にかかわる相談援助関連科目の学びを活かしつつ、与えられた課題に積極的に取り組み、予習・復習を行い、次の講義に臨むこと。
評価方法	出席日数が3分の2以上あり、授業参加態度（予習・復習を活かした発表など）30%、課題レポート等40%、毎回の授業終了後の提出物30%で評価する。
テキスト	授業時に教員が資料を配布する。
参考文献	ソーシャルワーク演習研究会編（2018）すぐに使える学生教員実践者のためのソーシャルワーク演習・ミネルヴァ書房。 「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会編（2021）学びが深まるソーシャルワーク演習・ミネルヴァ書房。 田中英樹・中野伸彦（編）（2013）ソーシャルワーク演習のための88事例：実践につなぐ理論と技法を学ぶ。中央法規。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	毎回のグループワークを中心とした授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション・演習Ⅳについての概要説明、アウトリーチ地域包括支援センターにおける支援拒否事例	（事前）演習Ⅲの復習をしておく／（事後）今後の予定から全体を概観する、アウトリーチの手法についてまとめる	
2	ネットワーキング1人暮らしの高齢者の事例から理解する	（事前）ネットワーキングについて確認しておく／（事後）ネットワーキングの手法についてまとめる	
3	ソーシャルアクションー重度障害児の事例から理解する	（事前）アウトリーチについて確認して（事前）ソーシャルアクションについて確認しておく／（事後）ソーシャルアクションの手法についてまとめる	
4	社会資源開発ー家族会の活動事例から理解する	（事前）自分の地域の社会資源について調べておく／（事後）社会資源開発の手法についてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	事例を通して支援計画を立案する①―要介護高齢者の自立生活を支えるケアマネジメントと家族への支援	（事前）要介護高齢者に必要な介護サービスについて調べておく／（事後）要介護高齢者の在宅生活について調べ、まとめる	
6	事例を通して支援計画を立案する②―自宅がゴミ屋敷となり近隣からの苦情が絶えない高齢者への支援	（事前）セルフネグレクトについて調べておく／（事後）安全な住環境にするための支援案についてまとめる	
7	事例を通して支援計画を立案する③―発達が気になる子どもを抱える家族への支援	（事前）発達が気になる子どもについて調べておく／（事後）障害児福祉サービスについてまとめる	
8	事例を通して支援計画を立案する④―脳内出血を発症した患者の在宅への退院支援	（事前）医療ソーシャルワーカーの役割について調べておく／（事後）退院支援についてまとめる	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ
時間割コード	0233901603
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	火 5
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる項目を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング、モデリング等）を中心とする援助形態により実施し、ソーシャルワーク実践力をつける。
履修上の注意事項	グループによる学習が中心となるので積極的な姿勢で授業に参加すること。参加型の授業形態ということで、毎回の授業での積極的発言を求める。福祉にかかわる相談援助関連科目の学びを活かしつつ、与えられた課題に積極的に取り組み、予習・復習を行い、次の講義に臨むこと。
評価方法	出席日数が3分の2以上あり、授業参加態度（予習・復習を活かした発表など）30%、課題レポート等40%、毎回の授業終了後の提出物30%で評価する。
テキスト	授業時に教員が資料を配布する。
参考文献	ソーシャルワーク演習研究会編（2018）すぐに使える学生教員実践者のためのソーシャルワーク演習・ミネルヴァ書房。 「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会編（2021）学びが深まるソーシャルワーク演習・ミネルヴァ書房。 田中英樹・中野伸彦（編）（2013）ソーシャルワーク演習のための88事例：実践につなぐ理論と技法を学ぶ。中央法規。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワークを中心に授業を行う。 プレゼンテーション資料の提出などCampus Squareを活用する。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション・演習Ⅳについての概要説明、アウトリーチ地域包括支援センターにおける支援拒否事例	（事前）演習Ⅲの復習をしておく／（事後）今後の予定から全体を概観する、アウトリーチの手法についてまとめる	
2	ネットワーキングー1人暮らしの高齢者の事例から理解する	（事前）ネットワーキングについて確認しておく／（事後）ネットワーキングの手法についてまとめる	
3	ソーシャルアクションー重度障害児の事例から理解する	（事前）アウトリーチについて確認して（事前）ソーシャルアクションについて確認しておく／（事後）ソーシャルアクションの手法についてまとめる	
4	社会資源開発ー家族会の活動事例から理解する	（事前）自分の地域の社会資源について調べておく／（事後）社会資源開発の手法についてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	事例を通して支援計画を立案する①―要介護高齢者の自立生活を支えるケアマネジメントと家族への支援	（事前）要介護高齢者に必要な介護サービスについて調べておく／（事後）要介護高齢者の在宅生活について調べ、まとめる	
6	事例を通して支援計画を立案する②―自宅がゴミ屋敷となり近隣からの苦情が絶えない高齢者への支援	（事前）セルフネグレクトについて調べておく／（事後）安全な住環境にするための支援案についてまとめる	
7	事例を通して支援計画を立案する③―発達が気になる子どもを抱える家族への支援	（事前）発達が気になる子どもについて調べておく／（事後）障害児福祉サービスについてまとめる	
8	事例を通して支援計画を立案する④―脳内出血を発症した患者の在宅への退院支援	（事前）医療ソーシャルワーカーの役割について調べておく／（事後）退院支援についてまとめる	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ
時間割コード	0233901604
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	火 5
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる項目を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング、モデリング等）を中心とする援助形態により実施し、ソーシャルワーク実践力をつける。
履修上の注意事項	グループによる学習が中心となるので積極的な姿勢で授業に参加すること。参加型の授業形態ということで、毎回の授業での積極的発言を求める。福祉にかかわる相談援助関連科目の学びを活かしつつ、与えられた課題に積極的に取り組み、予習・復習を行い、次の講義に臨むこと。
評価方法	出席日数が3分の2以上あり、授業参加態度（予習・復習を活かした発表など）30%、課題レポート等40%、毎回の授業終了後の提出物30%で評価する。
テキスト	授業時に教員が資料を配布する。
参考文献	ソーシャルワーク演習研究会編（2018）すぐに使える学生教員実践者のためのソーシャルワーク演習・ミネルヴァ書房。 「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会編（2021）学びが深まるソーシャルワーク演習・ミネルヴァ書房。 田中英樹・中野伸彦（編）（2013）ソーシャルワーク演習のための88事例：実践につなぐ理論と技法を学ぶ。中央法規。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループワークを中心に授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション・演習Ⅳについての概要説明、アウトリーチ地域包括支援センターにおける支援拒否事例	（事前）演習Ⅲの復習をしておく／（事後）今後の予定から全体を概観する、アウトリーチの手法についてまとめる	
2	ネットワーキングー1人暮らしの高齢者の事例から理解する	（事前）ネットワーキングについて確認しておく／（事後）ネットワーキングの手法についてまとめる	
3	ソーシャルアクションー重度障害児の事例から理解する	（事前）アウトリーチについて確認して（事前）ソーシャルアクションについて確認しておく／（事後）ソーシャルアクションの手法についてまとめる	
4	社会資源開発ー家族会の活動事例から理解する	（事前）自分の地域の社会資源について調べておく／（事後）社会資源開発の手法についてまとめる	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	事例を通して支援計画を立案する①―要介護高齢者の自立生活を支えるケアマネジメントと家族への支援	（事前）要介護高齢者に必要な介護サービスについて調べておく／（事後）要介護高齢者の在宅生活について調べ、まとめる	
6	事例を通して支援計画を立案する②―自宅がゴミ屋敷となり近隣からの苦情が絶えない高齢者への支援	（事前）セルフネグレクトについて調べておく／（事後）安全な住環境にするための支援案についてまとめる	
7	事例を通して支援計画を立案する③―発達が気になる子どもを抱える家族への支援	（事前）発達が気になる子どもについて調べておく／（事後）障害児福祉サービスについてまとめる	
8	事例を通して支援計画を立案する④―脳内出血を発症した患者の在宅への退院支援	（事前）医療ソーシャルワーカーの役割について調べておく／（事後）退院支援についてまとめる	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ
時間割コード	0233901701
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	1. ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 2. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 3. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。
履修上の注意事項	①演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。 ②実習内容の整理をしておくこと（60分）。 ③演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。 ④履修の前提として、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワーク実習Ⅰを終えていること。 ⑤ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習Ⅱの履修をすること。
評価方法	①講義中のレポート提出及びグループワークへの参加（30%） ②個別および集団での発表に際して、発表内容やプレゼンテーションの評価（70%） ①，②合計で評価する。
テキスト	テキストは使用しません。必要な資料等は講義内にて適宜、案内・配布します。
参考文献	講義内にて適宜案内します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくためにグループワークにおける対話をとおして理解を深める。また、グループワークで事例検討し、まとめたパワーポイントのスライドをプロジェクターを活用して発表（プレゼンテーション）してもらう。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	演習のオリエンテーション（演習の目的、評価方法等について説明する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	
2	実習先での事例を発表し、事例検討（1）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
4	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
5	実習先での事例を発表し、事例検討 （4）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
6	実習先での事例を発表し、事例検討 （1）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
7	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
8	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
9	実習先での事例を発表し、事例検討 （4）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
10	実習先での事例を発表し、事例検討 （1）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
11	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
12	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	実習先での事例を発表し、事例検討（４）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
14	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、発表させて理解させる	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
15	全体総括（スーパービジョンについて体験的に理解する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理するとともに自身の実践に向けた課題についても整理しておくこと（120分）．	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ
時間割コード	0233901702
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	1. ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 2. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 3. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。
履修上の注意事項	①演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。 ②実習内容の整理をしておくこと（60分）。 ③演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。 ④履修の前提として、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワーク実習Ⅰを終えていること。 ⑤ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習Ⅱの履修をすること。
評価方法	①講義中のレポート提出及びグループワークへの参加（30%） ②個別および集団での発表に際して、発表内容やプレゼンテーションの評価（70%） ①，②合計で評価する。
テキスト	テキストは使用しません。必要な資料等は講義内にて適宜、案内・配布します。
参考文献	講義内にて適宜案内します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくためにグループワークにおける対話をとおして理解を深める。また、グループワークで事例検討し、まとめたパワーポイントのスライドをプロジェクターを活用して発表（プレゼンテーション）してもらう。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	演習のオリエンテーション（演習の目的、評価方法等について説明する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	
2	実習先での事例を発表し、事例検討（1）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
4	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
5	実習先での事例を発表し、事例検討 （4）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
6	実習先での事例を発表し、事例検討 （1）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
7	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
8	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
9	実習先での事例を発表し、事例検討 （4）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
10	実習先での事例を発表し、事例検討 （1）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
11	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
12	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	実習先での事例を発表し、事例検討（４）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
14	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、発表させて理解させる	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
15	全体総括（スーパービジョンについて体験的に理解する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理するとともに自身の実践に向けた課題についても整理しておくこと（120分）．	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ
時間割コード	0233901703
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	1. ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 2. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 3. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。
履修上の注意事項	①演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。 ②実習内容の整理をしておくこと（60分）。 ③演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。 ④履修の前提として、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワーク実習Ⅰを終えていること。 ⑤ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習Ⅱの履修をすること。
評価方法	①講義中のレポート提出及びグループワークへの参加（30%） ②個別および集団での発表に際して、発表内容やプレゼンテーションの評価（70%） ①，②合計で評価する。
テキスト	テキストは使用しません。必要な資料等は講義内にて適宜、案内・配布します。
参考文献	講義内にて適宜案内します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくためにグループワークにおける対話をとおして理解を深める。また、グループワークで事例検討し、まとめたパワーポイントのスライドをプロジェクターを活用して発表（プレゼンテーション）してもらう。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	演習のオリエンテーション（演習の目的、評価方法等について説明する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	
2	実習先での事例を発表し、事例検討（1）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
4	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
5	実習先での事例を発表し、事例検討 （4）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
6	実習先での事例を発表し、事例検討 （1）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
7	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
8	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
9	実習先での事例を発表し、事例検討 （4）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
10	実習先での事例を発表し、事例検討 （1）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
11	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
12	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	実習先での事例を発表し、事例検討（４）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
14	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、発表させて理解させる	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
15	全体総括（スーパービジョンについて体験的に理解する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理するとともに自身の実践に向けた課題についても整理しておくこと（120分）．	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅵ
時間割コード	0233901801
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	木 4
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	4
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	1. ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 2. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 3. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。
履修上の注意事項	① 演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。 ② 実習内容の整理をしておくこと（60分）。 ③ 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。 ④ 履修の前提として、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ，ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱを終えていること。
評価方法	① 講義中のレポート提出及びグループワークへの参加（30%） ② 個別および集団での発表に際して、発表内容やプレゼンテーションの評価（70%） ①，②合計で評価する。
テキスト	テキストは使用しません。必要な資料等は講義内にて適宜、案内・配布します。
参考文献	講義内にて適宜案内します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくためにグループワークにおける対話をとおして理解を深める。また、グループワークで事例検討し、まとめたパワーポイントのスライドをプロジェクターを活用して発表（プレゼンテーション）してもらう。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	演習のオリエンテーション（演習の目的、評価方法等について説明する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	
2	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
4	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
5	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（地域関係）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
6	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、クラス内で発表させて理解させる	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
7	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、全クラスの前で発表させて理解させる	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
8	全体総括（スーパービジョンについて体験的に理解する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅵ
時間割コード	0233901802
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	木 4
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	4
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	1.ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 2.実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 3.実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。
履修上の注意事項	①事前：演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。 ②事前：実習内容の整理をしておくこと（60分）。 ③事後：演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。 ④履修の前提として、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ，ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱを終えていること。
評価方法	①講義中のレポート提出及びグループワークへの参加（30%） ②個別および集団での発表に際して、発表内容やプレゼンテーションの評価（70%） ①，②合計で評価する。
テキスト	テキストは使用しません。必要な資料等は講義内にて適宜、案内・配布します。
参考文献	講義内にて適宜案内します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくためにグループワークにおける対話をとおして理解を深める。また、グループワークで事例検討し、まとめたパワーポイントのスライドをプロジェクターを活用して発表（プレゼンテーション）してもらう。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	演習のオリエンテーション（演習の目的、評価方法等について説明する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	
2	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
4	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
5	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（地域関係）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
6	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、クラス内で発表させて理解させる	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
7	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、全クラスの前で発表させて理解させる	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
8	全体総括（スーパービジョンについて体験的に理解する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅵ
時間割コード	0233901803
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	木 4
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	4
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	1. ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 2. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 3. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。
履修上の注意事項	①演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。 ②実習内容の整理をしておくこと（60分）。 ③演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。 ④履修の前提として、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ，ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱを終えていること。
評価方法	①講義中のレポート提出及びグループワークへの参加（30%） ②個別および集団での発表に際して、発表内容やプレゼンテーションの評価（70%） ①，②合計で評価する。
テキスト	テキストは使用しません。必要な資料等は講義内にて適宜、案内・配布します。
参考文献	講義内にて適宜案内します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくためにグループワークにおける対話をとおして理解を深める。また、グループワークで事例検討し、まとめたパワーポイントのスライドをプロジェクターを活用して発表（プレゼンテーション）してもらう。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	演習のオリエンテーション（演習の目的、評価方法等について説明する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	
2	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
4	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
5	実習で体験した事例をまとめ、事例検討（地域関係）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
6	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、クラス内で発表させて理解させる	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
7	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、全クラスの前で発表させて理解させる	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
8	全体総括（スーパービジョンについて体験的に理解する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	

基本情報

科目名	介護の理論と技術
時間割コード	0234100201
ナンバリングコード	S 230533-L-11
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	瀬川 綾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
瀬川 綾

詳細情報

授業の目的・到達目標	1. 介護に必要な基本的知識・技術を正しく理解し、実施できるようになる 2. 介護を必要とする人々の身体的・心理的状況に配慮し、自立を支援できるようになる 3. 生活支援技術（介護技術）におけるICFの意義と枠組みを理解できるようになる 4. 安全で安楽な基本的介護技術を展開できるようになる
履修上の注意事項	授業で使用する物品は忘れずに持参すること。
評価方法	筆記試験：80% 発表、積極的な授業態度：20% フィードバックとして、発表・課題・小テストについては、コメントをして返却するか、直接アドバイスを行う。
テキスト	資料を配布します。
参考文献	最新 介護福祉士養成講座6～8「生活支援技術6～8」中央法規 ※購入の必要はありません。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	准看護師として病院勤務経験あり。 社会福祉士として病院にて医療ソーシャルワーカー業務経験あり。 現在機能訓練指導員として地域密着型通所介護勤務。 看護と福祉の資格を取得し、様々な視点から現状や課題について考えることができるため、実践力を養う授業を展開していく。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	なし。

授業計画

授業計画
介護に必要な基礎知識を知り、食事・入浴・排泄等生活行為ごとの基本的な介護技術を学ぶ。また、障害や疾患別に応じた具体的な支援技術を学ぶ。 毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	居住環境の整備・福祉用具の意義	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
2	応急手当の知識と技術	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	

授業計画

介護に必要な基礎知識を知り、食事・入浴・排泄等生活行為ごとの基本的な介護技術を学ぶ。また、障害や疾患別に応じた具体的な支援技術を学ぶ。

毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間）

毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	災害時における生活支援	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
4	自立に向けた身支度の介護	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
5	自立に向けた食事の介護	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
6	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
7	自立に向けた排泄の介護	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
8	終末期介護の役割	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
9	肢体不自由に応じた介護	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
10	聴覚・視覚・言語障害に応じた介護	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
11	内部障害に応じた介護	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	

授業計画

介護に必要な基礎知識を知り、食事・入浴・排泄等生活行為ごとの基本的な介護技術を学ぶ。また、障害や疾患別に応じた具体的な支援技術を学ぶ。

毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間）

毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
12	知的障害に応じた介護	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
13	精神障害に応じた介護	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
14	事例を通して適切な介護方法を考えるⅠ	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	
15	事例を通して適切な介護方法を考えるⅡ	毎回の事前学習はその講義の内容についてテキストを熟読し、わからない語句等を調べておく（2時間） 毎回の事後学修は講義でわからない箇所を整理しておくそして教科書等で自分で調べておく（2時間）	

基本情報

科目名	介護の基本Ⅰ
時間割コード	0234100701
ナンバリングコード	S 130501-L-13
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	月 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰

詳細情報

授業の目的・到達目標	ディプロマ・ポリシーにある「現代社会における諸課題を、福祉の視点を基軸としつつも、教育学、心理学、社会学などの近隣他領域も意識した分野横断型の観点から捉える力」を養うために、介護の視点から現代社会から捉える。また、生活者であることの理解について、人と社会の関係から社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。 1．介護の歴史を踏まえ、介護問題の背景にある課題を理解し、介護にかかわる動向と介護福祉士の役割と機能を把握し介護の原理原則を学び、説明することができる。 2．介護の社会化の形成過程の理解から介護福祉士の役割と活動について学び、専門職としての自覚を深めることができる。 3．専門職としての介護福祉士の自覚と実践を展開できる視点と方法を身につけることができる
履修上の注意事項	2単位90時間＝授業30時間＋事前事後学修60時間（1週あたり4時間）となります。 事前学習として、単元のテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（30分） 事後学習として、講義中のノート・学びをまとめること。指示された課題に取り組むこと。（30分）
評価方法	期末試験80％ 課題レポート提出10％ 講義における積極性10％ ※課題レポートについては、コメントして返却するか直接アドバイスを行う
テキスト	『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規 最新版
参考文献	講義のなかで、適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場：介護福祉士として回復期病院や在宅支援の経験から在宅復帰される利用者本人とのかかわり、家族の支援・多職種連携について介護福祉士の必要性、役割や専門性を一緒に考えながら、支援者に必要な思考力・実践力が身につけるよう授業を展開していく。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。

授業計画

授業計画
「介護福祉士」について学びを深めていきます。 生活を支援することとはどんなことなのか疑問を持ちながら学習をしていきます。 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	介護の歴史（介護福祉の形成を学ぶ意義）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
2	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

「介護福祉士」について学びを深めていきます。

生活を支援することとはどんなことなのか疑問を持ちながら学習をしていきます。

事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。

事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（明治・大正時代）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
4	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（戦前・戦後）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
5	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（老人福祉法制定）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
6	介護福祉を取り巻く近年の動向（新介護システム ADLとQOL）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
7	介護福祉を取り巻く近年の動向（自立支援に向けた尊厳と自己実現）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
8	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ（介護福祉士資格成立前史）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
9	介護福祉士の役割と機能（社会的役割としての介護ニーズ）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
10	介護福祉士の役割と機能（法的資格への期待）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
11	介護福祉士の役割と機能（史的における介護福祉士の役割の理解）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
12	介護福祉士の役割と機能（求められる介護福祉士に向けた知識・技術修得の意義）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
13	介護福祉形成の理解①〈演習〉（「介護」の見方・考え方の変化）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
14	介護福祉形成の理解①〈演習〉（社会的に求められる専門的な介護）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
15	介護福祉形成から今後の介護福祉士の役割と課題	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

基本情報

科目名	介護の基本Ⅱ
時間割コード	0234100801
ナンバリングコード	S 130501-L-13
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	金 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰

詳細情報

授業の目的・到達目標	ディプロマ・ポリシーにある「現代社会における諸課題を、福祉の視点を基軸としつつも、教育学、心理学、社会学などの近隣他領域も意識した分野横断型の観点から捉える力」を養うために、介護の観点から現代社会から捉える。また、生活者であることの理解について、人と社会の関係から社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。 1．尊厳ある介護の理解と、援助理念を学び、人権尊重の観点を踏まえて職業倫理を身につけることができる。 2．人間の尊厳を支援する理念としてノーマライゼーション・利用者主体・プライバシーの保護・虐待防止等を学び、職業倫理を身につけることができる。 3．介護福祉士が専門職として身につけておくべき、理念や職業倫理の理解を深めつつ、介護場面での援助関係構築の意義について学び、説明することができる。
履修上の注意事項	2単位90時間＝授業30時間＋事前事後学修60時間（1週あたり4時間）となります。 事前学習として、単元のテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（30分） 事後学習として、講義中のノート・学びをまとめること。指示された課題に取り組むこと。（30分）
評価方法	期末試験80％ 課題レポート提出10％ 講義における積極性10％ ※課題レポートについては、コメントして返却するか直接アドバイスを行う
テキスト	『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規 最新版
参考文献	講義のなかで、適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場：介護福祉士として回復期病院や在宅支援の経験から在宅復帰される利用者本人とのかかわり、家族の支援・多職種連携について介護福祉士の必要性、役割や専門性を一緒に考えながら、支援者に必要な思考力・実践力が身につけるよう授業を展開していく。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。

授業計画

授業計画
「介護福祉士」について学びを深めていきます。 生活を支援することとはどんなことなのか疑問を持ちながら学習をしていきます。 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	尊厳を支える介護とは	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
2	利用者への生活支援と尊厳を支える介護	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

「介護福祉士」について学びを深めていきます。

生活を支援することとはどんなことなのか疑問を持ちながら学習をしていきます。

事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。

事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	生活支援に必要なノーマライゼーションとQOLの考え方	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
4	尊厳を支える介護の実際	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
5	利用者主体の介護	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
6	利用者主体の介護の実際	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
7	事例を通して考える「利用者主体の介護」	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
8	介護の倫理（職業倫理、介護従事者の倫理）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
9	介護福祉士にとって必要な「倫理」の理解	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
10	倫理とプライバシー	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
11	演習を通して考える「倫理とプライバシー」	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
12	利用者の人権尊重の意義（介護場面における虐待の背景）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
13	介護に必要な人権尊重の考え方	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
14	利用者の人権を尊重した介護の実際	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
15	尊厳を支える介護の考え方＜演習＞	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

基本情報

科目名	介護の基本III
時間割コード	0234100901
ナンバリングコード	S 130501-L-13
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他, 他 5
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	川俣 幹雄
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目 (第3群)
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
川俣 幹雄、小阪 勝己

詳細情報

授業の目的・到達目標	学修者は、介護職の立場からリハビリテーションの理念について説明できるようになる。また、障害とは何か、障害を持った方の家族支援の在り方や介護における多職種連携の在り方について説明できるようになる。
履修上の注意事項	事前にテキストの該当箇所の予習・復習を徹底すること (120分) 演習問題は、2回以上、解いてください。
評価方法	期末試験100%で評価する。演習等を通じて、理解内容や学修到達度をフィードバックする。
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規 (最新版)
参考文献	適宜講義中に紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	川俣幹雄：理学療法士として実務経験あり
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション、反転学習等のアクティブ・ラーニングを実施する。 Forms等を用いて理解度を確認しながら授業を展開する。

授業計画

授業計画
以下の15回の授業を実施する。

No.	内容 (担当)	事前・事後学修	備考
1	リハビリテーションとは？ (川俣:理学療法士として病院勤務)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
2	障害の理解 (川俣:理学療法士として病院勤務)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
3	ICFの概念 (川俣:理学療法士として病院勤務)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
4	介護を必要とする人の理解 (小阪)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
5	介護を必要とする人の理解2 (小阪)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
6	尊厳を考える～羞恥心を守る介護の重要性を通して～ (小阪)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
7	障がいと生活環境 (小阪)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
8	家族支援について (介護負担、虐待発生のメカニズム) (小阪)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
9	家族支援について (家族支援の実践と精神的ケアの重要性) (小阪)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
10	組織が職員に与える影響 (小阪)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
11	リスクマネジメント、感染症対策の重要性と実際 (小阪)	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	

授業計画

以下の15回の授業を実施する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
12	多職種連携の重要性（小阪）	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
13	アドバンスケアプランニングの重要性（小阪）	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
14	人生の最終段階における介護福祉士の役割（小阪）	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	
15	これからの介護福祉士に求められるものとは何か（小阪）	授業テーマの事前学修2時間。ノートの整理、復習等、2時間。	

基本情報

科目名	介護の基本Ⅴ
時間割コード	0234101101
ナンバリングコード	S 230501-L-11
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	木 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	瀬川 綾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
瀬川 綾

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力を養う。また、実際に現場で起こりうる事故を想定し、事故が起きないようにどう取り組むべきかを考える力を身に付けることができる。
履修上の注意事項	実際に現場で起こりうるであろう事故や感染についてどんなものがあるかを調べてくること。また、そのような事故を起こさないためには、どんなことに注意が必要なのかを考え、自分の意見をはっきり発言できるようにして下さい。
評価方法	試験60% 小テスト10% 発表 20% 学習態度 10% 発表、課題レポートや小テストについては、コメントをして返却するか、直接アドバイスをを行う。
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」
参考文献	特になし。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	准看護師として通所リハビリテーション、病院勤務経験 社会福祉士（医療ソーシャルワーカー）として病院勤務経験 現在、地域密着型通所介護にて機能訓練指導員として勤務 看護職と福祉職の資格を取得し、多角的な視点から現状や課題について考えることができるため、専門職としての実践力を養う授業を展開していく。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	なし。

授業計画

授業計画
実際に介護現場で起こりうる事故や感染についての予防策や対応策について学ぶ。
毎回の事前学習は事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（2時間） 毎回の事後学修は授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（2時間）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性を理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
2	安全の確保のための基礎的な知識を理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
3	ヒヤリハット・事故報告書の必要性を学び、事故が起きてしまった時の対応について理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
4	地域における生活支援の実践を学び、生活の多様性や社会との関わりを理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	

授業計画

実際に介護現場で起こりうる事故や感染についての予防策や対応策について学ぶ。

毎回の事前学習は事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（2時間）

毎回の事後学修は授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（2時間）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
6	保健・医療・福祉に関する他職種の専門性や役割、機能を理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
7	チームマネジメントの必要性を理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
8	自立支援のための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の対応について理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
9	地域における災害時等の介護福祉士の役割と機能を理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
10	利用者、家族間との信頼関係づくりの方法を学び、苦情処理の対応策を理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
11	感染症の種類、症状を学び、発生時の対応について理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
12	誤嚥予防のための食事介助を体験し、テクニックを学ぶ	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
13	転倒、転落の予防策を理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
14	高齢者を詐欺などの被害から守るために必要な知識、対策を理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	
15	介護従事者の健康管理や、労働環境の管理について理解する	事前にテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組むこと。（各2時間程度）	

基本情報

科目名	生活支援技術Ⅰ
時間割コード	0234101501
ナンバリングコード	S 130501-L-13
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	金 4
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰

詳細情報

授業の目的・到達目標	ディプロマ・ポリシーにある「現代社会における諸課題を、福祉の視点を基軸としつつも、教育学、心理学、社会学などの近隣他領域も意識した分野横断型の観点から捉える力」を養うために、介護の視点から現代社会から捉える。また、生活者であることの理解について、人と社会の関係から社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。 1. どのような障害や生活の困難さがあっても生活そのものが個人としての自立・自律するために必要な援助や支援を学ぶ。 2. 生活の理解と支援の方法について、基本的な視点としてのICFの理解を深めると同時に介護サービス提供の対象や場を把握しながら、基本的な介護の知識・技術を養う。 3. 生活の仕組みの理解を深め、生活支援の考え方としてICFの視点を身につける。
履修上の注意事項	2単位90時間＝授業30時間＋事前事後学修60時間（1週あたり4時間）となります。 事前学習として、単元のテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（30分） 事後学習として、講義中のノート・学びをまとめること。指示された課題に取り組むこと。（30分）
評価方法	期末試験80% 課題レポート提出10% 講義における積極性10% ※課題レポートについては、コメントして返却するか直接アドバイスを行う
テキスト	『生活支援技術Ⅰ』『生活支援技術Ⅱ』中央法規 最新版
参考文献	授業のなかで適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場：介護福祉士として回復期病院や在宅支援の経験から在宅復帰される利用者本人とのかかわり、家族の支援・多職種連携について介護福祉士の必要性、役割や専門性を一緒に考えながら、支援者に必要な思考力・実践力が身につけるよう授業を展開していく。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。

授業計画

授業計画
項目ごとに、講義して演習を行います。 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	生活支援に必要な生活の理解	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
2	生活と生活習慣（生活の主体性）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

項目ごとに、講義して演習を行います。
 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。
 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。
 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。
 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。
 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	生活形成のプロセスとアイデンティティ	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
4	生活の構成と要素	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
5	事例を通して考える「生活形成のプロセス」	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
6	生活の継続性	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
7	生活支援が必要な人の理解(生活関連動作と日常生活)	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
8	生活支援の理解	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
9	生活支援の考え方①（意義・目的）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
10	生活支援の考え方②（生活障害による生活のしづらさ）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
11	生活支援とICFの視点	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
12	ICFの視点にもとづくアセスメント	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
13	ICFにおける「活動・参加」	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
14	利用者の生活と生活支援	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
15	生活支援の実際	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

基本情報

科目名	生活支援技術Ⅱ
時間割コード	0234101601
ナンバリングコード	S 130501-L-13
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰

詳細情報

授業の目的・到達目標	ディプロマ・ポリシーにある「現代社会における諸課題を、福祉の視点を基軸としつつも、教育学、心理学、社会学などの近隣他領域も意識した分野横断型の観点から捉える力」を養うために、介護の視点から現代社会から捉える。また、生活者であることの理解について、人と社会の関係から社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。 1.自立に向けた生活空間としての「生活の場」「暮らし」について学び考えることができる。 2.居住環境の整備は、介護を必要とする者にとって安全で快適であることが整備されていることを知る。 3.快適な居住環境の確保に必要な視点と方法を身につけ、施設・在宅における環境整備を他職種とともに協働して取り組むことの必要性を理解できる。
履修上の注意事項	2単位90時間＝授業30時間＋事前事後学修60時間（1週あたり4時間）となります。 事前学習として、単元のテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（30分） 事後学習として、講義中のノート・学びをまとめること。指示された課題に取り組むこと。（30分） ※施設見学予定 利用者の生活の場をを環境面からの側面で学習を深めます。施設の都合がありますので予定です。
評価方法	期末試験80％ 課題レポート提出10％ 講義における積極性10％ ※課題レポートについては、コメントして返却するか直接アドバイスを行う
テキスト	『生活支援技術Ⅰ』中央法規 最新版
参考文献	講義中に適宜提示する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場：介護福祉士として回復期病院や在宅支援の経験から在宅復帰される利用者本人とのかかわり、家族の支援・多職種連携について介護福祉士の必要性、役割や専門性を一緒に考えながら、支援者に必要な思考力・実践力が身につけるよう授業を展開していく。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。

授業計画

授業計画
項目ごとに、講義して演習を行います。 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	居住環境整備の意義と目的	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

項目ごとに、講義して演習を行います。
 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。
 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。
 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。
 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。
 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	生活空間と介護①（居場所とアイデンティティ、生活の場）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
3	生活空間と介護②（すまい、住み慣れた地域での生活の保障）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
4	居住環境のアセスメント①（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
5	居住環境のアセスメント②（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
6	安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫①	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
7	安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫②	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
8	安全で心地よい生活の場づくり①（住宅改修、住宅のバリアフリー化）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
9	安全で心地よい生活の場づくり②（ユニバーサルデザイン、その他）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
10	施設等での集住の場合の工夫と留意点①（ユニットケア、居室の個室化）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
11	施設等での集住の場合の工夫と留意点②（なじみの生活空間づくり、その他）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
12	居住環境整備と生活支援技術①（事例検討①…施設における住環境の整備）※施設見学	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
13	居住環境整備と生活支援技術②（事例検討②…在宅における住環境の整備）※施設見学	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
14	他の職種の役割と協働	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
15	生活の場とは、何か 学期末振り返り	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

基本情報

科目名	生活支援技術III
時間割コード	0234101701
ナンバリングコード	S 230501-L-11
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	火 4, 火 5
開講区分	第1学期
単位数	4.0
学年	2
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、未定

詳細情報

授業の目的・到達目標	ディプロマ・ポリシーにある「現代社会における諸課題を、福祉の視点を基軸としつつも、教育学、心理学、社会学などの近隣他領域も意識した分野横断型の観点から捉える力」を養うために、介護の観点から現代社会から捉える。また、生活者であることの理解について、人と社会の関係から社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。 1. 生活支援の考え方について考えることができる。 2. 自立支援の観点から、身じたく・移動・食事・排泄にかかわる基本的な態度と方法について学び、 演習を通じて具体的な方法について理解を深めることができる。 3. 利用者体験を通して、利用者の気持ちを考えることができる。
履修上の注意事項	演習では、決められた服装等を準備すること。 事前学習として、単元のテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（30分） 事後学習として、講義中のノート・学びをまとめること。指示された課題に取り組むこと。（30分）
評価方法	期末試験60%、実技試験20%、課題提出10% 講義における積極性10% ※課題レポートについては、コメントして返却するか直接アドバイスを行う
テキスト	『生活支援技術I』『生活支援技術II』中央法規 最新版
参考文献	適宜提示する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場：介護福祉士として病院勤務経験・在宅支援勤務経験、介護福祉士養成校教員 他 吉岡：大学病院（看護師）、一般病院（看護師長）、訪問看護ステーション（訪問看護師・管理者）、介護福祉士養成校教員 他
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。 演習では、利用者体験を通して、利用者のことを考える力を身につけることができます。 援助者体験を通して、自分自身の関わり方を振り返ることの必要性を身につけることができます。

授業計画

授業計画
項目ごとに、講義して演習を行います。 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	身じたくの意義と目的（馬場）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

項目ごとに、講義して演習を行います。
 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。
 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。
 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。
 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。
 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	身じたくに関する利用者のアセスメント〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
3	生活習慣と装いの楽しみを支える介護〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
4	整容行動、衣生活を調整するアセスメント〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
5	身じたくの介助の留意点(洗面)〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
6	身じたくの介助（整髪）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
7	身じたくの介助（髭剃り他）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
8	身じたくの介助（爪切り他）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
9	身じたくの介助（口腔ケア）見守り一部介助〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
10	身じたくの介助（口腔ケア他）全介助〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
11	身じたくの介助（衣服着脱介護他）一部介助〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
12	身じたくの介助（衣服着脱介護他）全介助〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
13	移動の意義と目的〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
14	移動に関する利用者のアセスメント〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
15	状態状況別留意点〈上方・水平移動等演習〉〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

項目ごとに、講義して演習を行います。
 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。
 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。
 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。
 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。
 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
16	状態状況別留意点〈上方・水平移動等演習〉〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
17	状態状況別留意点〈仰臥位から側臥位等〉〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
18	状態状況別留意点〈起居から端座位等演習〉〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
19	状態状況別留意点〈端座位から立位等演習〉〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
20	利用者の状態と状況に応じた移動介護の方法〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
21	食事の意義・目的〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
22	食事介護の留意点〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
23	利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
24	利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
25	排泄介護の意義と目的（気持ちよい排泄）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
26	排泄介護の留意点（安全・的確な排泄介助）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
27	排泄介助の状態状況別留意点〈見守り〉〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
28	排泄介助の状態状況別留意点〈一部介助〉〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
29	排泄介助の状態状況別留意点〈全介助〉〈馬場・吉岡〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

項目ごとに、講義して演習を行います。
 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。
 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。
 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。
 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。
 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
30	入浴に関するアセスメントの視点と方法 〈馬場・吉岡〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を 読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回 への課題を明確にしましょう。	

基本情報

科目名	生活支援技術Ⅳ
時間割コード	0234101801
ナンバリングコード	S 230501-L-11
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他 4, 他 5
開講区分	第2学期
単位数	4.0
学年	2
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、未定

詳細情報

授業の目的・到達目標	ディプロマ・ポリシーにある「現代社会における諸課題を、福祉の視点を基軸としつつも、教育学、心理学、社会学などの近隣他領域も意識した分野横断型の観点から捉える力」を養うために、介護の観点から現代社会から捉える。また、生活者であることの理解について、人と社会の関係から社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。 1.利用者体験を通して、援助者としての資質向上に努めることができる。 2.入浴介助における生活支援の技術について、具体的な方法と支援を学び、安全の確保と快適な支援について理解を深めると同時に援助場面でのスキルを身につける。
履修上の注意事項	演習では、決められた服装等を準備すること。 事前学習として、単元のテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（30分） 事後学習として、講義演習中のノート・学びをまとめること。指示された課題に取り組むこと。（30分）
評価方法	期末試験60%、実技試験20%、課題レポート提出10% 講義における積極性10% ※課題レポートについては、コメントして返却するか直接アドバイスを行う
テキスト	『生活支援技術Ⅱ』中央法規 最新版
参考文献	適宜提示する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場：介護福祉士として病院勤務経験・在宅支援勤務経験、介護福祉士養成校教員 他
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。 演習では、利用者体験を通して、利用者のことを考える力を身につけることができます。 援助者体験を通して、自分自身の関わり方を振り返ることの必要性を身につけることができます。

授業計画

授業計画
項目ごとに、講義して演習を行います。 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	一連の生活支援技術（見守り 一部介助）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
2	一連の生活支援技術（全介助）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

項目ごとに、講義して演習を行います。
 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。
 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。
 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。
 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。
 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	自立に向けた入浴のアセスメント〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
4	ICFの視点にもとづいたアセスメント〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
5	爽快感・安楽を支える入浴介護の意義〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
6	爽快感・安楽を支える介護の工夫〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
7	清潔保持の介助の技法（入浴介護の留意点）〈馬場・未定〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
8	清潔保持の介助の技法（入浴介護の方法）〈馬場・未定〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
9	清潔保持の介助（シャワー浴介護の留意点）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
10	清潔保持の介助（シャワー浴介護の方法）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
11	清潔保持の介助の技法（清拭介護の留意点）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
12	清潔保持の介助の技法（清拭介護の方法）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
13	清潔保持の介助（部分浴介護の留意点）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
14	清潔保持の介助の技法（部分浴介護の方法）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
15	清潔保持の介助の技法（洗髪介護の留意点）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
16	清潔保持の介助の技法（洗髪介護の方法）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

項目ごとに、講義して演習を行います。
 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。
 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。
 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。
 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。
 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
17	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
18	利用者の状態・状況に応じた介助の方法〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
19	利用者の状態・状況に応じた介助の演習〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
20	利用者の状態・状況に応じた介助のまとめ〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
21	一連の生活支援技術（見守り 一部介助）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
22	一連の生活支援技術（全介助）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
23	健康状態確認技法〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
24	状態状況別生活支援技術（視覚障害）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
25	状態状況別生活支援技術（聴覚・言語障害）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
26	状態状況別生活支援技術（グループ演習）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
27	状態状況別支援技術 運動機能障害の理解〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
28	状態状況別生活支援技術（発達障害）〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
29	状態状況別支援技術 運動器疾患による障害〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
30	状態状況別支援技術 脳血管障害・神経疾患〈馬場〉	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

基本情報

科目名	生活支援技術Ⅴ
時間割コード	0234101901
ナンバリングコード	S 230501-L-11
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他 2, 他 3
開講区分	第2学期
単位数	4.0
学年	2
主担当教員	有馬 留以子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
有馬 留以子

詳細情報

授業の目的・到達目標	家庭生活に必要な基礎知識を学び、健康で自立した生活に必要なものは何かについて考えていく。施設や1人暮らしの高齢者が本人主体の生活を送るためにどのような生活支援をすればよいのか考えられるようにする。
履修上の注意事項	テキストを事前に学習すること。生活に関連する授業なので、新聞なども読むこと。
評価方法	期末テスト70%、作品20%、実習レポート10% フィードバックとして、作品及び実習レポートにコメントをして返却。
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』中央法規
参考文献	なし
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	調理実習、被服実習を行う。授業でも最後の10分ほどディスカッションを行う。

授業計画

授業計画
・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。 他の方法も考えてみる（2時間）。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	自立した生活を支える家事	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
2	家事の一連の流れ	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	

授業計画

- ・事前学修
テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。
- ・事後学修
ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。
他の方法も考えてみる（2時間）。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	調理の意義	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
4	調理の介助方法	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
5	嚥下食・治療食の作り方	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
6	食品の保存、衛生管理	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
7	調理実習Ⅰ 調理の基本	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
8	調理実習Ⅱ 高齢者に食べやすく	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
9	調理実習Ⅲ 煮物	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
10	調理実習Ⅳ 揚げ物	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	

授業計画

- ・事前学修
テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。
- ・事後学修
ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。
他の方法も考えてみる（2時間）。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
11	調理実習Ⅴ 電子レンジを使って	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
12	調理実習Ⅵ 蒸し器を使う	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
13	調理実習Ⅶ 圧力鍋を使う	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
14	調理実習Ⅷ ミキサーを使う	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
15	洗濯の意義	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
16	洗濯の介助方法	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
17	掃除・ゴミ捨ての介助	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
18	裁縫 衣類の補修	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	

授業計画

- ・事前学修
テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。
- ・事後学修
ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。
他の方法も考えてみる（2時間）。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
19	衣類の衛生管理	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
20	衣類の整理整頓	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
21	寝具の衛生管理	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
22	被服実習Ⅰ 基本的な縫い方	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
23	被服実習Ⅱ ミシンを使って	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
24	被服実習Ⅲ いろんな縫い方	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
25	被服実習Ⅳ ロックミシンを使う	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
26	買い物の意義と支援の方法	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	

授業計画

- ・事前学修
テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。
- ・事後学修
ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。
他の方法も考えてみる（2時間）。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
27	家庭経営	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
28	家計の管理	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
29	多職種連携の必要性（在宅）	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	
30	多職種連携の必要性（施設）	・事前学修 テキストを読んでおくこと。下調べをする（2時間）。 ・事後学修 ノートの整理と実習で習った事は家庭でできるだけ復習すること。他の方法も考えてみる（2時間）。	

基本情報

科目名	生活支援技術Ⅵ
時間割コード	0234102001
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	水 1, 水 2, 金 1, 金 2
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	4.0
学年	3
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰

詳細情報

授業の目的・到達目標	ディプロマ・ポリシーにある「現代社会における諸課題を、福祉の視点を基軸としつつも、教育学、心理学、社会学などの近隣他領域も意識した分野横断型の観点から捉える力」を養うために、介護の視点から現代社会から捉える。また、生活者であることの理解について、人と社会の関係から社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。 1. 生活支援の考え方について考えることができる。 2. 利用者体験を通して、利用者の気持ちを考えることができる。 3. 利用者にとっての睡眠の確保と安眠への支援が、快適な生活を考えることができる。 4. 「生」「死」とは何かを考え、人間の尊厳について考えることができる。 5. 「終末期」における医療と地域福祉との連携の必要性を理解し、介護福祉士としての役割を身につけることができる。
履修上の注意事項	演習では、決められた服装等を準備すること。 事前学習として、単元のテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（30分） 事後学習として、講義中のノート・学びをまとめること。指示された課題に取り組むこと。（30分） 4単位180時間＝授業60時間＋事前事後学修120時間となります。
評価方法	期末試験80％ 課題提出10％ 講義における積極性10％ ※課題レポートについては、コメントして返却するか直接アドバイスを行う
テキスト	『生活支援技術Ⅱ』中央法規
参考文献	『生活支援技術Ⅲ』適宜提示する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場：介護福祉士として回復期病院や在宅支援の経験から在宅復帰される利用者本人とのかかわり、家族の支援・多職種連携について介護福祉士の必要性、役割や専門性を一緒に考えながら、支援者に必要な思考力・実践力が身につけるよう授業を展開していく。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。 演習では、利用者体験を通して、利用者のことを考える力を身につけることができます。 援助者体験を通して、自分自身の関わり方を振り返ることの必要性を身につけることができます。

授業計画

授業計画
項目ごとに、講義して演習を行います。 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

項目ごとに、講義して演習を行います。
 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。
 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。
 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。
 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。
 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	心臓・呼吸機能低下傾向の人の生活理解	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
2	心臓・呼吸機能低下傾向の人への介護方法	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
3	腎臓機能、膀胱直腸低下傾向の人の生活理解	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
4	腎臓機能、膀胱・直腸低下傾向の人への介護	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
5	認知・知覚機能低下傾向の人への介護留意点	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
6	認知・知覚機能低下傾向の人への介護方法	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
7	精神障害の人の生活理解と介護方法	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
8	精神障害の人への介護方法	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
9	発達障害者支援技法	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
10	重複障害（重症心身障害）への介護方法	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
11	自立に向けた睡眠の介護（意義・目的）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
12	睡眠に関するICFの視点によるアセスメント	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
13	安眠のための介護の留意点	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
14	安眠のための介護の方法と工夫	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

項目ごとに、講義して演習を行います。
 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。
 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。
 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。
 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。
 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	終末期の介護（意義・目的）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
16	終末期の介護（尊厳の保持）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
17	終末期におけるアセスメントの視点	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
18	ICfの視点にもとづく終末期のアセスメント	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
19	終末期における医療との連携の意義と実際	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
20	終末期における介護（援助の基本姿勢）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
21	終末期における介護（他職種との連携等）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
22	終末期における介護（具体的援助）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
23	臨終期の介護（症状の変化への援助）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
24	死別期の介護の留意点と方法 死後のケア含	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
25	グリーフケア 意義・目的 援助者の役割等	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
26	他の職種の役割と協働	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
27	多職種間の連携と介護福祉士の役割	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
28	一連の生活支援技術（施設生活）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

授業計画

項目ごとに、講義して演習を行います。
 演習は、援助の基本的なポイントを中心に演習します。
 特に利用者体験を多く体験してほしいと考えています。
 利用者体験を通して、介護福祉士としての関わり方を深めていきます。
 事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。
 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
29	一連の生活支援技術（在宅生活）	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	
30	尊厳ある支援を提供するための方法の理解	事前学修は、30分程度テキストの項目を読んでおいてください。 事後学修は、30分程度復習を行い、次回への課題を明確にしましょう。	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ
時間割コード	0233901901
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	5.0
学年	3
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク実習の目的（ねらい）及び到達目標は以下の通り。 【目的】 ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の技術と知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う ・施設・機関等が地域の中で果たす役割を実践的に理解する ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する 【到達目標】 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成ができる ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価までを実践できる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価ができる ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて理解できる ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関して理解できる ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）を理解できる ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解できる ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習Ⅰの履修にあたっては、先修科目を満たしておかなければならない。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰにおいては、上記ソーシャルワーク実習の目的や到達目標を網羅的に経験し、ソーシャルワーク機能の実践力を有する社会福祉士を養成する。 ・実習Ⅰは原則で25日間、200時間以上の実習となり、3年次7～8月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。 ・実習中のアルバイトは原則禁止とする。
評価方法	200時間（一日8時間・25日）以上の実習時間、実習記録、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画	
・健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。 ・実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。 ・実習プログラムや実習計画を基に、巡回指導や帰学指導等を通して、以下の①～⑩の内容について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況についての把握とともに個別指導を十分に行う。 ※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。 ①. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等），施設・事業者・機関・団体，住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。 ②. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。 ③. 利用者や地域の状況を理解し，その生活上の課題（ニーズ）の把握，支援計画の作成と実施及び評価。 ④. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価。 ⑤. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。 ⑥. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。 ⑦. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 ⑧. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。 ⑩. ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ，ネットワーキング，コーディネーション，ネゴシエーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ソーシャルアクション	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ
時間割コード	0233901902
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	5.0
学年	3
主担当教員	村本 浄司
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
村本 浄司

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク実習の目的（ねらい）及び到達目標は以下の通り。 【目的】 ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の技術と知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う ・施設・機関等が地域の中で果たす役割を実践的に理解する ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する 【到達目標】 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成ができる ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価までを実践できる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価ができる ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて理解できる ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関して理解できる ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）を理解できる ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解できる ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習Ⅰの履修にあたっては、先修科目を満たしておかなければならない。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰにおいては、上記ソーシャルワーク実習の目的や到達目標を網羅的に経験し、ソーシャルワーク機能の実践力を有する社会福祉士を養成する。 ・実習Ⅰは原則で25日間、200時間以上の実習となり、3年次7～8月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。 ・実習中のアルバイトは原則禁止とする。
評価方法	200時間（一日8時間・25日）以上の実習時間、実習記録、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画	
・健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。 ・実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。 ・実習プログラムや実習計画を基に、巡回指導や帰学指導等を通して、以下の①～⑩の内容について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況についての把握とともに個別指導を十分に行う。 ※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。 ①. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等），施設・事業者・機関・団体，住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。 ②. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。 ③. 利用者や地域の状況を理解し，その生活上の課題（ニーズ）の把握，支援計画の作成と実施及び評価。 ④. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価。 ⑤. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。 ⑥. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。 ⑦. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 ⑧. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。 ⑩. ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ，ネットワーキング，コーディネーション，ネゴシエーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ソーシャルアクション	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ
時間割コード	0233901903
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	5.0
学年	3
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク実習の目的（ねらい）及び到達目標は以下の通り。 【目的】 ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の技術と知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う ・施設・機関等が地域の中で果たす役割を実践的に理解する ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する 【到達目標】 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成ができる ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価までを実践できる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価ができる ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて理解できる ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関して理解できる ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）を理解できる ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解できる ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習Ⅰの履修にあたっては、先修科目を満たしておかなければならない。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰにおいては、上記ソーシャルワーク実習の目的や到達目標を網羅的に経験し、ソーシャルワーク機能の実践力を有する社会福祉士を養成する。 ・実習Ⅰは原則で25日間、200時間以上の実習となり、3年次7～8月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。 ・実習中のアルバイトは原則禁止とする。
評価方法	200時間（一日8時間・25日）以上の実習時間、実習記録、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画	
・健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。 ・実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。 ・実習プログラムや実習計画を基に、巡回指導や帰学指導等を通して、以下の①～⑩の内容について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況についての把握とともに個別指導を十分に行う。 ※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。 ①. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等），施設・事業者・機関・団体，住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。 ②. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。 ③. 利用者や地域の状況を理解し，その生活上の課題（ニーズ）の把握，支援計画の作成と実施及び評価。 ④. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価。 ⑤. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。 ⑥. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。 ⑦. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 ⑧. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。 ⑩. ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ，ネットワーキング，コーディネーション，ネゴシエーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ソーシャルアクション	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ
時間割コード	0233901904
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	5.0
学年	3
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク実習の目的（ねらい）及び到達目標は以下の通り。 【目的】 ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の技術と知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う ・施設・機関等が地域の中で果たす役割を実践的に理解する ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する 【到達目標】 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成ができる ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価までを実践できる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価ができる ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて理解できる ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関して理解できる ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）を理解できる ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解できる ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習Ⅰの履修にあたっては、先修科目を満たしておかなければならない。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰにおいては、上記ソーシャルワーク実習の目的や到達目標を網羅的に経験し、ソーシャルワーク機能の実践力を有する社会福祉士を養成する。 ・実習Ⅰは原則で25日間、200時間以上の実習となり、3年次7～8月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。 ・実習中のアルバイトは原則禁止とする。
評価方法	200時間（一日8時間・25日）以上の実習時間、実習記録、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画	
・健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。 ・実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。 ・実習プログラムや実習計画を基に、巡回指導や帰学指導等を通して、以下の①～⑩の内容について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況についての把握とともに個別指導を十分に行う。 ※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。 ①. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等），施設・事業者・機関・団体，住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。 ②. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。 ③. 利用者や地域の状況を理解し，その生活上の課題（ニーズ）の把握，支援計画の作成と実施及び評価。 ④. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価。 ⑤. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。 ⑥. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。 ⑦. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 ⑧. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。 ⑩. ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ，ネットワーキング，コーディネーション，ネゴシエーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ソーシャルアクション	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ
時間割コード	0233901905
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	5.0
学年	3
主担当教員	米田 政葉
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
米田 政葉

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク実習の目的（ねらい）及び到達目標は以下の通り。 【目的】 ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の技術と知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う ・施設・機関等が地域の中で果たす役割を実践的に理解する ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する 【到達目標】 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成ができる ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価までを実践できる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価ができる ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて理解できる ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関して理解できる ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）を理解できる ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解できる ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習Ⅰの履修にあたっては、先修科目を満たしておかなければならない。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰにおいては、上記ソーシャルワーク実習の目的や到達目標を網羅的に経験し、ソーシャルワーク機能の実践力を有する社会福祉士を養成する。 ・実習Ⅰは原則で25日間、200時間以上の実習となり、3年次7～8月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。 ・実習中のアルバイトは原則禁止とする。
評価方法	200時間（一日8時間・25日）以上の実習時間、実習記録、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画	
・健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。 ・実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。 ・実習プログラムや実習計画を基に、巡回指導や帰学指導等を通して、以下の①～⑩の内容について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況についての把握とともに個別指導を十分に行う。 ※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。 ①. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等），施設・事業者・機関・団体，住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。 ②. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。 ③. 利用者や地域の状況を理解し，その生活上の課題（ニーズ）の把握，支援計画の作成と実施及び評価。 ④. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価。 ⑤. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。 ⑥. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。 ⑦. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 ⑧. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。 ⑩. ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ，ネットワーキング，コーディネーション，ネゴシエーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ソーシャルアクション	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ
時間割コード	0233902001
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク実習の目的（ねらい）及び到達目標は以下の通り。 【目的】 ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の技術と知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う ・施設・機関等が地域の中で果たす役割を実践的に理解する ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する 【到達目標】 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成ができる ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価までを実践できる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価ができる ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて理解できる ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関して理解できる ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）を理解できる ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解できる ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習Ⅱの履修にあたっては、先修科目を満たすこと、実習Ⅰを修得していること。 ・ソーシャルワーク実習Ⅱにおいては、実習Ⅰにおける上記ソーシャルワーク実習の目標達成状況を確認し、残された課題や自身の課題を見出し、目標設定を行うこと。実習Ⅰを踏まえた主体的な実習を通して、ソーシャルワーク機能の実践力を有する社会福祉士を養成する。 ・実習Ⅱは原則で5日間、40時間以上の実習となり、実習Ⅰとは機能の異なる施設等へ、3年次2～3月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。 ・実習中のアルバイトは原則禁止とする。
評価方法	40時間（一日8時間・5日）以上の実習時間、実習記録、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画	
・健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。 ・実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。 ・実習プログラムや実習計画を基に、巡回指導や帰学指導等を通して、以下の①～⑩の内容について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況についての把握とともに個別指導を十分に行う。 ※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。 ①. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等），施設・事業者・機関・団体，住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。 ②. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。 ③. 利用者や地域の状況を理解し，その生活上の課題（ニーズ）の把握，支援計画の作成と実施及び評価。 ④. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価。 ⑤. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。 ⑥. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。 ⑦. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 ⑧. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。 ⑩. ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ，ネットワーキング，コーディネーション，ネゴシエーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ソーシャルアクション	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ
時間割コード	0233902002
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	村本 浄司
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
村本 浄司

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク実習の目的（ねらい）及び到達目標は以下の通り。 【目的】 ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の技術と知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う ・施設・機関等が地域の中で果たす役割を実践的に理解する ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する 【到達目標】 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成ができる ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価までを実践できる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価ができる ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて理解できる ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関して理解できる ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）を理解できる ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解できる ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習Ⅱの履修にあたっては、先修科目を満たすこと、実習Ⅰを修得していること。 ・ソーシャルワーク実習Ⅱにおいては、実習Ⅰにおける上記ソーシャルワーク実習の目標達成状況を確認し、残された課題や自身の課題を見出し、目標設定を行うこと。実習Ⅰを踏まえた主体的な実習を通して、ソーシャルワーク機能の実践力を有する社会福祉士を養成する。 ・実習Ⅱは原則で5日間、40時間以上の実習となり、実習Ⅰとは機能の異なる施設等へ、3年次2～3月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。 ・実習中のアルバイトは原則禁止とする。
評価方法	40時間（一日8時間・5日）以上の実習時間、実習記録、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画	
・健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。 ・実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。 ・実習プログラムや実習計画を基に、巡回指導や帰学指導等を通して、以下の①～⑩の内容について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況についての把握とともに個別指導を十分に行う。 ※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。 ①. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等），施設・事業者・機関・団体，住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。 ②. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。 ③. 利用者や地域の状況を理解し，その生活上の課題（ニーズ）の把握，支援計画の作成と実施及び評価。 ④. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価。 ⑤. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。 ⑥. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。 ⑦. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 ⑧. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。 ⑩. ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ，ネットワーキング，コーディネーション，ネゴシエーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ソーシャルアクション	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ
時間割コード	0233902003
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク実習の目的（ねらい）及び到達目標は以下の通り。 【目的】 ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の技術と知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う ・施設・機関等が地域の中で果たす役割を実践的に理解する ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する 【到達目標】 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成ができる ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価までを実践できる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価ができる ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて理解できる ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関して理解できる ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）を理解できる ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解できる ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習Ⅱの履修にあたっては、先修科目を満たすこと、実習Ⅰを修得していること。 ・ソーシャルワーク実習Ⅱにおいては、実習Ⅰにおける上記ソーシャルワーク実習の目標達成状況を確認し、残された課題や自身の課題を見出し、目標設定を行うこと。実習Ⅰを踏まえた主体的な実習を通して、ソーシャルワーク機能の実践力を有する社会福祉士を養成する。 ・実習Ⅱは原則で5日間、40時間以上の実習となり、実習Ⅰとは機能の異なる施設等へ、3年次2～3月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。 ・実習中のアルバイトは原則禁止とする。
評価方法	40時間（一日8時間・5日）以上の実習時間、実習記録、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画	
・健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。 ・実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。 ・実習プログラムや実習計画を基に、巡回指導や帰学指導等を通して、以下の①～⑩の内容について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況についての把握とともに個別指導を十分に行う。 ※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。 ①. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等），施設・事業者・機関・団体，住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。 ②. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。 ③. 利用者や地域の状況を理解し，その生活上の課題（ニーズ）の把握，支援計画の作成と実施及び評価。 ④. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価。 ⑤. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。 ⑥. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。 ⑦. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 ⑧. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。 ⑩. ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ，ネットワーキング，コーディネーション，ネゴシエーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ソーシャルアクション	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ
時間割コード	0233902004
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	ソーシャルワーク実習の目的（ねらい）及び到達目標は以下の通り。 【目的】 ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の技術と知識を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う ・施設・機関等が地域の中で果たす役割を実践的に理解する ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する 【到達目標】 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成ができる ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価までを実践できる ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価ができる ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができる ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて理解できる ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関して理解できる ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）を理解できる ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について理解できる ・ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習Ⅱの履修にあたっては、先修科目を満たすこと、実習Ⅰを修得していること。 ・ソーシャルワーク実習Ⅱにおいては、実習Ⅰにおける上記ソーシャルワーク実習の目標達成状況を確認し、残された課題や自身の課題を見出し、目標設定を行うこと。実習Ⅰを踏まえた主体的な実習を通して、ソーシャルワーク機能の実践力を有する社会福祉士を養成する。 ・実習Ⅱは原則で5日間、40時間以上の実習となり、実習Ⅰとは機能の異なる施設等へ、3年次2～3月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。 ・実習中のアルバイトは原則禁止とする。
評価方法	40時間（一日8時間・5日）以上の実習時間、実習記録、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	該当なし

授業計画	
・健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。 ・実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。 ・実習プログラムや実習計画を基に、巡回指導や帰学指導等を通して、以下の①～⑩の内容について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況についての把握とともに個別指導を十分に行う。 ※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。 ①. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等），施設・事業者・機関・団体，住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。 ②. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。 ③. 利用者や地域の状況を理解し，その生活上の課題（ニーズ）の把握，支援計画の作成と実施及び評価。 ④. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価。 ⑤. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。 ⑥. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ。 ⑦. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解。 ⑧. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解。 ⑩. ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解。 アウトリーチ，ネットワーキング，コーディネーション，ネゴシエーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ソーシャルアクション	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ
時間割コード	0233902005
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	3
主担当教員	米田 政葉
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
米田 政葉

詳細情報

授業の目的・到達目標	1. ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 2. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 3. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。
履修上の注意事項	① 演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。 ② 実習内容の整理をしておくこと（60分）。 ③ 演習後は、体験上學んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。 ④ 履修の前提として、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワーク実習Ⅰを終えていること。 ⑤ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習Ⅱの履修をすること。
評価方法	① 講義中のレポート提出及びグループワークへの参加（30%） ② 個別および集団での発表に際して、発表内容やプレゼンテーションの評価（70%） ①，②合計で評価する。
テキスト	テキストは使用しません。必要な資料等は講義内にて適宜、案内・配布します。
参考文献	講義内にて適宜案内します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくためにグループワークにおける対話をとおして理解を深める。また、グループワークで事例検討し、まとめたパワーポイントのスライドをプロジェクターを活用して発表（プレゼンテーション）してもらう。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	演習のオリエンテーション（演習の目的、評価方法等について説明する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。 演習後は、体験上學んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	
2	実習先での事例を発表し、事例検討（1）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）。実習内容の整理をしておくこと（60分）。 演習後は、体験上學んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）。	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
4	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
5	実習先での事例を発表し、事例検討 （4）（児童関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
6	実習先での事例を発表し、事例検討 （1）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
7	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
8	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
9	実習先での事例を発表し、事例検討 （4）（障害関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
10	実習先での事例を発表し、事例検討 （1）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
11	実習先での事例を発表し、事例検討 （2）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
12	実習先での事例を発表し、事例検討 （3）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	実習先での事例を発表し、事例検討（４）（高齢関係事業所）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
14	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、発表させて理解させる	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと（120分）．	適宜、スーパービジョンを入れる。
15	全体総括（スーパービジョンについて体験的に理解する）	演習の基となるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと（60分）．実習内容の整理をしておくこと（60分）． 演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理するとともに自身の実践に向けた課題についても整理しておくこと（120分）．	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
時間割コード	0233902101
ナンバリングコード	S 230333-T-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力，他職種と連携，協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識について学習する。そのための本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 【到達目標】 ・実習及び実習指導の意義についての理解 ・多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解
履修上の注意事項	ソーシャルワーク実習は、これまでに講義や演習等で学んできたことを基盤として、実習施設・機関における経験を通して実践的な学びを深めていくものである。そのため、実習指導に臨む前にソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習（法律や制度、専門用語等）しておくこと。 また、実習先指導者からの講義や見学実習、ボランティア活動を通し実習やソーシャルワークへの理解を深め、ソーシャルワークの実践能力を涵養するよう事前事後学習を行うこと。
評価方法	指導に対する積極的応答と関与（30%）、ボランティア体験報告書提出（30%）、レポート（記録を含む）提出・内容（40%）で評価する。
テキスト	「ケアマネジャー」編集部（最新版）『ケアマネ・相談援助必携 これだけは押さえておきたい！社会保障制度の用語辞典』中央法規出版
参考文献	必要に応じて適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	外部講師による講義をもとにした記録の作成，実習仮配属に向けたエントリーシート等の作成及び面接の実施を通して，学生自身が実習に向けた動機や課題を確認する同時に，基本的スキルを獲得する。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習マニュアルに基づき、実習および実習指導の意義や目的、方法、留意点について理解する。	・事前：実習に臨む動機、希望領域等について整理・検討する（120分） ・事後：講義をふまえて実習指導の意義や目的等を整理する（120分）	
2	専門職に求められる資質と価値、倫理等について理解する。	・事前：社会福祉士の倫理綱領や行動規範を確認する（120分） ・事後：倫理綱領や行動規範について理解できていない内容や用語についてまとめる（120分）	
3	専門職に求められる知識・技術について理解する。	事前：ソーシャルワークの専門的知識・技術について調べる（120分） ・事後：社会福祉士に求められる専門性についてまとめる（120分）	
4	障害者福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：障がい者福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
5	高齢者福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：高齢者福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
6	児童福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：児童福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
7	地域福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：地域福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
8	医療機関分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：医療福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
9	実習における個人のプライバシー保護、専門職の守秘義務について理解する。	・事前：個人情報保護法等プライバシーの権利に関して調べる（120分） ・事後：専門職としての守秘義務についてまとめる（120分）	
10	希望実習先の課題レポートを作成を通して、歴史的背景や事業概要、サービス概要を理解する。	・事前：希望実習先を検討し調べる（120分） ・事後：レポートの作成を通して、希望実習先について理解する（120分）	
11	希望実習先の課題レポートを作成を通して、サービス利用の手続きや利用者を理解する。	・事前：希望実習先を検討し調べる（120分） ・事後：レポートの作成を通して、希望実習先について理解する（120分）	
12	希望実習先の課題レポートを基に、実習対する姿勢や準備について説明することができる。	・事前：レポート作成内容をふり返り学びを整理する（120分） ・事後：実習に臨むにあたっての課題を明確にする（120分）	
13	見学実習の事前学習としてレポートを作成し、利用者や法制度、地域の状況等を理解する。	・事前：見学実習先について調べる（120分） ・事後：講義等を学んだ内容を整理する（120分）	
14	見学実習を通して、利用者やサービス、社会福祉士の業務や役割等を理解する。	・事前：事前学習内容をふり返り、不足している内容を調べる（120分） ・見学実習を通しての学びを整理しておく（120分）	
15	見学実習の事後指導として、学習課題を確認する。	・事前：見学実習後の自身の課題についてまとめる（120分） ・事後：課題に基づいた学習課題をまとめる（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
時間割コード	0233902102
ナンバリングコード	S 230333-T-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力，他職種と連携，協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識について学習する。そのための本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 【到達目標】 ・実習及び実習指導の意義についての理解 ・多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解
履修上の注意事項	ソーシャルワーク実習は、これまでに講義や演習等で学んできたことを基盤として、実習施設・機関における経験を通して実践的な学びを深めていくものである。そのため、実習指導に臨む前にソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習（法律や制度、専門用語等）しておくこと。 また、実習先指導者からの講義や見学実習、ボランティア活動を通し実習やソーシャルワークへの理解を深め、ソーシャルワークの実践能力を涵養するよう事前事後学習を行うこと。
評価方法	指導に対する積極的応答と関与（30%）、ボランティア体験報告書提出（30%）、レポート（記録を含む）提出・内容（40%）で評価する。
テキスト	「ケアマネジャー」編集部（最新版）『ケアマネ・相談援助必携 これだけは押さえておきたい！社会保障制度の用語辞典』中央法規出版
参考文献	必要に応じて適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	外部講師による講義をもとにした記録の作成，実習仮配属に向けたエントリーシート等の作成及び面接の実施を通して，学生自身が実習に向けた動機や課題を確認する同時に，基本的スキルを獲得する。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習マニュアルに基づき、実習および実習指導の意義や目的、方法、留意点について理解する。	・事前：実習に臨む動機、希望領域等について整理・検討する（120分） ・事後：講義をふまえて実習指導の意義や目的等を整理する（120分）	
2	専門職に求められる資質と価値、倫理等について理解する。	・事前：社会福祉士の倫理綱領や行動規範を確認する（120分） ・事後：倫理綱領や行動規範について理解できていない内容や用語についてまとめる（120分）	
3	専門職に求められる知識・技術について理解する。	事前：ソーシャルワークの専門的知識・技術について調べる（120分） ・事後：社会福祉士に求められる専門性についてまとめる（120分）	
4	障害者福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：障がい者福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
5	高齢者福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：高齢者福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
6	児童福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：児童福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
7	地域福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：地域福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
8	医療機関分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：医療福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
9	実習における個人のプライバシー保護、専門職の守秘義務について理解する。	・事前：個人情報保護法等プライバシーの権利に関して調べる（120分） ・事後：専門職としての守秘義務についてまとめる（120分）	
10	希望実習先の課題レポートを作成を通して、歴史的背景や事業概要、サービス概要を理解する。	・事前：希望実習先を検討し調べる（120分） ・事後：レポートの作成を通して、希望実習先について理解する（120分）	
11	希望実習先の課題レポートを作成を通して、サービス利用の手続きや利用者を理解する。	・事前：希望実習先を検討し調べる（120分） ・事後：レポートの作成を通して、希望実習先について理解する（120分）	
12	希望実習先の課題レポートを基に、実習対する姿勢や準備について説明することができる。	・事前：レポート作成内容をふり返り学びを整理する（120分） ・事後：実習に臨むにあたっての課題を明確にする（120分）	
13	見学実習の事前学習としてレポートを作成し、利用者や法制度、地域の状況等を理解する。	・事前：見学実習先について調べる（120分） ・事後：講義等を学んだ内容を整理する（120分）	
14	見学実習を通して、利用者やサービス、社会福祉士の業務や役割等を理解する。	・事前：事前学習内容をふり返り、不足している内容を調べる（120分） ・見学実習を通しての学びを整理しておく（120分）	
15	見学実習の事後指導として、学習課題を確認する。	・事前：見学実習後の自身の課題についてまとめる（120分） ・事後：課題に基づいた学習課題をまとめる（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
時間割コード	0233902103
ナンバリングコード	S 230333-T-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	村本 浄司
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
村本 浄司

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力，他職種と連携，協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識について学習する。そのための本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 【到達目標】 ・実習及び実習指導の意義についての理解 ・多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解
履修上の注意事項	ソーシャルワーク実習は、これまでに講義や演習等で学んできたことを基盤として、実習施設・機関における経験を通して実践的な学びを深めていくものである。そのため、実習指導に臨む前にソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習（法律や制度、専門用語等）しておくこと。 また、実習先指導者からの講義や見学実習、ボランティア活動を通し実習やソーシャルワークへの理解を深め、ソーシャルワークの実践能力を涵養するよう事前事後学習を行うこと。
評価方法	指導に対する積極的応答と関与（30%）、ボランティア体験報告書提出（30%）、レポート（記録を含む）提出・内容（40%）で評価する。
テキスト	「ケアマネジャー」編集部（最新版）『ケアマネ・相談援助必携 これだけは押さえておきたい！社会保障制度の用語辞典』中央法規出版
参考文献	必要に応じて適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	外部講師による講義をもとにした記録の作成，実習仮配属に向けたエントリーシート等の作成及び面接の実施を通して，学生自身が実習に向けた動機や課題を確認する同時に，基本的スキルを獲得する。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習マニュアルに基づき、実習および実習指導の意義や目的、方法、留意点について理解する。	・事前：実習に臨む動機、希望領域等について整理・検討する（120分） ・事後：講義をふまえて実習指導の意義や目的等を整理する（120分）	
2	専門職に求められる資質と価値、倫理等について理解する。	・事前：社会福祉士の倫理綱領や行動規範を確認する（120分） ・事後：倫理綱領や行動規範について理解できていない内容や用語についてまとめる（120分）	
3	専門職に求められる知識・技術について理解する。	事前：ソーシャルワークの専門的知識・技術について調べる（120分） ・事後：社会福祉士に求められる専門性についてまとめる（120分）	
4	障害者福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：障がい者福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
5	高齢者福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：高齢者福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
6	児童福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：児童福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
7	地域福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：地域福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
8	医療機関分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：医療福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
9	実習における個人のプライバシー保護、専門職の守秘義務について理解する。	・事前：個人情報保護法等プライバシーの権利に関して調べる（120分） ・事後：専門職としての守秘義務についてまとめる（120分）	
10	希望実習先の課題レポートを作成を通して、歴史的背景や事業概要、サービス概要を理解する。	・事前：希望実習先を検討し調べる（120分） ・事後：レポートの作成を通して、希望実習先について理解する（120分）	
11	希望実習先の課題レポートを作成を通して、サービス利用の手続きや利用者を理解する。	・事前：希望実習先を検討し調べる（120分） ・事後：レポートの作成を通して、希望実習先について理解する（120分）	
12	希望実習先の課題レポートを基に、実習対する姿勢や準備について説明することができる。	・事前：レポート作成内容をふり返り学びを整理する（120分） ・事後：実習に臨むにあたっての課題を明確にする（120分）	
13	見学実習の事前学習としてレポートを作成し、利用者や法制度、地域の状況等を理解する。	・事前：見学実習先について調べる（120分） ・事後：講義等を学んだ内容を整理する（120分）	
14	見学実習を通して、利用者やサービス、社会福祉士の業務や役割等を理解する。	・事前：事前学習内容をふり返り、不足している内容を調べる（120分） ・見学実習を通しての学びを整理しておく（120分）	
15	見学実習の事後指導として、学習課題を確認する。	・事前：見学実習後の自身の課題についてまとめる（120分） ・事後：課題に基づいた学習課題をまとめる（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
時間割コード	0233902104
ナンバリングコード	S 230333-T-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力，他職種と連携，協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識について学習する。そのための本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 【到達目標】 ・実習及び実習指導の意義についての理解 ・多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解
履修上の注意事項	ソーシャルワーク実習は、これまでに講義や演習等で学んできたことを基盤として、実習施設・機関における経験を通して実践的な学びを深めていくものである。そのため、実習指導に臨む前にソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習（法律や制度、専門用語等）しておくこと。 また、実習先指導者からの講義や見学実習、ボランティア活動を通し実習やソーシャルワークへの理解を深め、ソーシャルワークの実践能力を涵養するよう事前事後学習を行うこと。
評価方法	指導に対する積極的応答と関与（30%）、ボランティア体験報告書提出（30%）、レポート（記録を含む）提出・内容（40%）で評価する。
テキスト	「ケアマネジャー」編集部（最新版）『ケアマネ・相談援助必携 これだけは押さえておきたい！社会保障制度の用語辞典』中央法規出版
参考文献	必要に応じて適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	外部講師による講義をもとにした記録の作成，実習仮配属に向けたエントリーシート等の作成及び面接の実施を通して，学生自身が実習に向けた動機や課題を確認する同時に，基本的スキルを獲得する。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習マニュアルに基づき、実習および実習指導の意義や目的、方法、留意点について理解する。	・事前：実習に臨む動機、希望領域等について整理・検討する（120分） ・事後：講義をふまえて実習指導の意義や目的等を整理する（120分）	
2	専門職に求められる資質と価値、倫理等について理解する。	・事前：社会福祉士の倫理綱領や行動規範を確認する（120分） ・事後：倫理綱領や行動規範について理解できていない内容や用語についてまとめる（120分）	
3	専門職に求められる知識・技術について理解する。	事前：ソーシャルワークの専門的知識・技術について調べる（120分） ・事後：社会福祉士に求められる専門性についてまとめる（120分）	
4	障害者福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：障がい者福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
5	高齢者福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：高齢者福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
6	児童福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：児童福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
7	地域福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：地域福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
8	医療機関分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：医療福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
9	実習における個人のプライバシー保護、専門職の守秘義務について理解する。	・事前：個人情報保護法等プライバシーの権利に関して調べる（120分） ・事後：専門職としての守秘義務についてまとめる（120分）	
10	希望実習先の課題レポートを作成を通して、歴史的背景や事業概要、サービス概要を理解する。	・事前：希望実習先を検討し調べる（120分） ・事後：レポートの作成を通して、希望実習先について理解する（120分）	
11	希望実習先の課題レポートを作成を通して、サービス利用の手続きや利用者を理解する。	・事前：希望実習先を検討し調べる（120分） ・事後：レポートの作成を通して、希望実習先について理解する（120分）	
12	希望実習先の課題レポートを基に、実習対する姿勢や準備について説明することができる。	・事前：レポート作成内容をふり返り学びを整理する（120分） ・事後：実習に臨むにあたっての課題を明確にする（120分）	
13	見学実習の事前学習としてレポートを作成し、利用者や法制度、地域の状況等を理解する。	・事前：見学実習先について調べる（120分） ・事後：講義等を学んだ内容を整理する（120分）	
14	見学実習を通して、利用者やサービス、社会福祉士の業務や役割等を理解する。	・事前：事前学習内容をふり返り、不足している内容を調べる（120分） ・見学実習を通しての学びを整理しておく（120分）	
15	見学実習の事後指導として、学習課題を確認する。	・事前：見学実習後の自身の課題についてまとめる（120分） ・事後：課題に基づいた学習課題をまとめる（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
時間割コード	0233902105
ナンバリングコード	S 230333-T-12
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	米田 政葉
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
米田 政葉

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力，他職種と連携，協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識について学習する。そのための本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 【到達目標】 ・実習及び実習指導の意義についての理解 ・多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解
履修上の注意事項	ソーシャルワーク実習は、これまでに講義や演習等で学んできたことを基盤として、実習施設・機関における経験を通して実践的な学びを深めていくものである。そのため、実習指導に臨む前にソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習（法律や制度、専門用語等）しておくこと。 また、実習先指導者からの講義や見学実習、ボランティア活動を通し実習やソーシャルワークへの理解を深め、ソーシャルワークの実践能力を涵養するよう事前事後学習を行うこと。
評価方法	指導に対する積極的応答と関与（30%）、ボランティア体験報告書提出（30%）、レポート（記録を含む）提出・内容（40%）で評価する。
テキスト	「ケアマネジャー」編集部（最新版）『ケアマネ・相談援助必携 これだけは押さえておきたい！社会保障制度の用語辞典』中央法規出版
参考文献	必要に応じて適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	外部講師による講義をもとにした記録の作成，実習仮配属に向けたエントリーシート等の作成及び面接の実施を通して，学生自身が実習に向けた動機や課題を確認する同時に，基本的スキルを獲得する。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習マニュアルに基づき、実習および実習指導の意義や目的、方法、留意点について理解する。	・事前：実習に臨む動機、希望領域等について整理・検討する（120分） ・事後：講義をふまえて実習指導の意義や目的等を整理する（120分）	
2	専門職に求められる資質と価値、倫理等について理解する。	・事前：社会福祉士の倫理綱領や行動規範を確認する（120分） ・事後：倫理綱領や行動規範について理解できていない内容や用語についてまとめる（120分）	
3	専門職に求められる知識・技術について理解する。	事前：ソーシャルワークの専門的知識・技術について調べる（120分） ・事後：社会福祉士に求められる専門性についてまとめる（120分）	
4	障害者福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：障がい者福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
5	高齢者福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：高齢者福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
6	児童福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：児童福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
7	地域福祉分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：地域福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
8	医療機関分野の指導者からの講話をもとに、利用者や施設・機関および実践活動を理解する。	・事前：医療福祉分野の法制度・現状や課題について調べる（120分） ・事後：講義を通しての学びについてまとめる（120分）	
9	実習における個人のプライバシー保護、専門職の守秘義務について理解する。	・事前：個人情報保護法等プライバシーの権利に関して調べる（120分） ・事後：専門職としての守秘義務についてまとめる（120分）	
10	希望実習先の課題レポートを作成を通して、歴史的背景や事業概要、サービス概要を理解する。	・事前：希望実習先を検討し調べる（120分） ・事後：レポートの作成を通して、希望実習先について理解する（120分）	
11	希望実習先の課題レポートを作成を通して、サービス利用の手続きや利用者を理解する。	・事前：希望実習先を検討し調べる（120分） ・事後：レポートの作成を通して、希望実習先について理解する（120分）	
12	希望実習先の課題レポートを基に、実習対する姿勢や準備について説明することができる。	・事前：レポート作成内容をふり返り学びを整理する（120分） ・事後：実習に臨むにあたっての課題を明確にする（120分）	
13	見学実習の事前学習としてレポートを作成し、利用者や法制度、地域の状況等を理解する。	・事前：見学実習先について調べる（120分） ・事後：講義等を学んだ内容を整理する（120分）	
14	見学実習を通して、利用者やサービス、社会福祉士の業務や役割等を理解する。	・事前：事前学習内容をふり返り、不足している内容を調べる（120分） ・見学実習を通しての学びを整理しておく（120分）	
15	見学実習の事後指導として、学習課題を確認する。	・事前：見学実習後の自身の課題についてまとめる（120分） ・事後：課題に基づいた学習課題をまとめる（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
時間割コード	0233902201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	木 1, 木 2
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力、他職種と連携、協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識について、実習指導Ⅰを踏まえた学びの深化、実習Ⅰに向けた本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 【到達目標】 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修するものは、ソーシャルワーク実習指導Ⅰを修得していること。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰに向けたより具体的な準備に取り組むため、実習先施設・機関に関連する領域ごとの学習をはじめとして、ソーシャルワークや社会保障制度、自治体に関して学びを深めておく。 ・実習先への事前訪問やボランティア活動、実習先との協議等を通して、施設・機関やクライアント、ソーシャルワーク機能についての理解を深め、ソーシャルワークの実践能力が涵養できるように事前学習に取り組むこと。
評価方法	指導に対する姿勢と事前準備の状況（30％）およびレポート課題や計画書の作成・提出・内容（70％）で評価する。
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	実習計画作成に向けたグループワークや事前学習に関するプレゼンテーションを取り入れた授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習先の法的根拠、利用手続き等を理解する	・事前：実習先の法的根拠、利用手続き等について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、必要な制度やサービス等について整理する（120分）	
2	実習先の職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する	・事前：職員配置基準等について整理する（120分） ・事後：指導を通しての学びを整理する（120分）	
3	実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する	・事前：資料等を用いて地域の状況等について整理する（120分） ・事後：講義を指導を踏まえてさらに必要な知識について整理する（120分）	
4	アセスメント、支援プラン作成指導	・事前：ソーシャルワークの過程と各段階における内容について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、アセスメントやプランニングのポイントや自身の課題等を整理する（120分）	
5	実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する	・事前：実習計画作成方法、作成の意義や目的について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、自身の達成目標等について検討する（120分）	
6	実習計画書を作成する	・事前：評価表等を用いて、実習における達成目標等を確認する（120分） ・事後：指導を踏まえ、計画書を修正・完成させる（120分）	
7	実習記録の内容および記録方法等を理解する	・事前：ソーシャルワークの記録について整理する（120分） ・事後：指導をふまえ、実習記録の内容や方法等についてポイントを整理する（120分）	
8	プライバシー保護や個人情報保護、守秘義務について理解する	・事前：個人情報保護法等プライバシーの権利に関して調べる（120分） ・事後：専門職としての守秘義務についてまとめる（120分）	
9	感染症の予防方法について理解する	・事前：実習における感染症予防の意義や方法について調べる（120分） ・事後：専門職としての感染症要望方法についてまとめる（120分）	
10	実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する	・事前：事前訪問に向けた提出物等の準備・確認を行う（120分） ・事後：事前訪問を踏まえ利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する（120分）	
11	三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する	・事前：三者協議内容について整理しておく（120分） ・事後：指導・報告を踏まえ実習計画の修正や自催の課題をまとめる（120分）	
12	巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する	・事前：実習中や実習後の指導方法や目的について理解する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習中の連絡方法、必要書類等を整理する（120分）	
13	実習先における巡回指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等を作成する（120分）	
14	帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等の作成、計画の修正等を行う（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	実習体験の報告を参考に実習をふり返り、課題を整理する	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
時間割コード	0233902202
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	木 1, 木 2
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	村本 浄司
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
村本 浄司

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力、他職種と連携、協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識について、実習指導Ⅰを踏まえた学びの深化、実習Ⅰに向けた本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 【到達目標】 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修するものは、ソーシャルワーク実習指導Ⅰを修得していること。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰに向けたより具体的な準備に取り組むため、実習先施設・機関に関連する領域ごとの学習をはじめとして、ソーシャルワークや社会保障制度、自治体に関して学びを深めておく。 ・実習先への事前訪問やボランティア活動、実習先との協議等を通して、施設・機関やクライアント、ソーシャルワーク機能についての理解を深め、ソーシャルワークの実践能力が涵養できるように事前学習に取り組むこと。
評価方法	指導に対する姿勢と事前準備の状況（30%）およびレポート課題や計画書の作成・提出・内容（70%）で評価する。
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	（アクティブラーニング） 実習計画作成に向けたグループワークや事前学習に関するプレゼンテーションを取り入れた授業を行う。 （ICT） 該当なし

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習先の法的根拠、利用手続き等を理解する	・事前：実習先の法的根拠、利用手続き等について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、必要な制度やサービス等について整理する（120分）	
2	実習先の職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する	・事前：職員配置基準等について整理する（120分） ・事後：指導を通しての学びを整理する（120分）	
3	実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する	・事前：資料等を用いて地域の状況等について整理する（120分） ・事後：講義を指導を踏まえてさらに必要な知識について整理する（120分）	
4	アセスメント、支援プラン作成指導	・事前：ソーシャルワークの過程と各段階における内容について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、アセスメントやプランニングのポイントや自身の課題等を整理する（120分）	
5	実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する	・事前：実習計画作成方法、作成の意義や目的について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、自身の達成目標等について検討する（120分）	
6	実習計画書を作成する	・事前：評価表等を用いて、実習における達成目標等を確認する（120分） ・事後：指導を踏まえ、計画書を修正・完成させる（120分）	
7	実習記録の内容および記録方法等を理解する	・事前：ソーシャルワークの記録について整理する（120分） ・事後：指導をふまえ、実習記録の内容や方法等についてポイントを整理する（120分）	
8	プライバシー保護や個人情報保護、守秘義務について理解する	・事前：個人情報保護法等プライバシーの権利に関して調べる（120分） ・事後：専門職としての守秘義務についてまとめる（120分）	
9	感染症の予防方法について理解する	・事前：実習における感染症予防の意義や方法について調べる（120分） ・事後：専門職としての感染症要望方法についてまとめる（120分）	
10	実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する	・事前：事前訪問に向けた提出物等の準備・確認を行う（120分） ・事後：事前訪問を踏まえ利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する（120分）	
11	三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する	・事前：三者協議内容について整理しておく（120分） ・事後：指導・報告を踏まえ実習計画の修正や自催の課題をまとめる（120分）	
12	巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する	・事前：実習中や実習後の指導方法や目的について理解する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習中の連絡方法、必要書類等を整理する（120分）	
13	実習先における巡回指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等を作成する（120分）	
14	帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等の作成、計画の修正等を行う（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	実習体験の報告を参考に実習をふり返り、課題を整理する	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
時間割コード	0233902203
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	木 1, 木 2
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力、他職種と連携、協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識について、実習指導Ⅰを踏まえた学びの深化、実習Ⅰに向けた本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 【到達目標】 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修するものは、ソーシャルワーク実習指導Ⅰを修得していること。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰに向けたより具体的な準備に取り組むため、実習先施設・機関に関連する領域ごとの学習をはじめとして、ソーシャルワークや社会保障制度、自治体に関して学びを深めておく。 ・実習先への事前訪問やボランティア活動、実習先との協議等を通して、施設・機関やクライアント、ソーシャルワーク機能についての理解を深め、ソーシャルワークの実践能力が涵養できるように事前学習に取り組むこと。
評価方法	指導に対する姿勢と事前準備の状況（30%）およびレポート課題や計画書の作成・提出・内容（70%）で評価する。
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	実習計画作成に向けたグループワークや事前学習に関するプレゼンテーションを取り入れた授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習先の法的根拠、利用手続き等を理解する	・事前：実習先の法的根拠、利用手続き等について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、必要な制度やサービス等について整理する（120分）	
2	実習先の職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する	・事前：職員配置基準等について整理する（120分） ・事後：指導を通しての学びを整理する（120分）	
3	実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する	・事前：資料等を用いて地域の状況等について整理する（120分） ・事後：講義を指導を踏まえてさらに必要な知識について整理する（120分）	
4	アセスメント、支援プラン作成指導	・事前：ソーシャルワークの過程と各段階における内容についてについて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、アセスメントやプランニングのポイントや自身の課題等を整理する（120分）	
5	実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する	・事前：実習計画作成方法、作成の意義や目的について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、自身の達成目標等について検討する（120分）	
6	実習計画書を作成する	・事前：評価表等を用いて、実習における達成目標等を確認する（120分） ・事後：指導を踏まえ、計画書を修正・完成させる（120分）	
7	実習記録の内容および記録方法等を理解する	・事前：ソーシャルワークの記録について整理する（120分） ・事後：指導をふまえ、実習記録の内容や方法等についてポイントを整理する（120分）	
8	プライバシー保護や個人情報保護、守秘義務について理解する	・事前：個人情報保護法等プライバシーの権利に関して調べる（120分） ・事後：専門職としての守秘義務についてまとめる（120分）	
9	感染症の予防方法について理解する	・事前：実習における感染症予防の意義や方法について調べる（120分） ・事後：専門職としての感染症要望方法についてまとめる（120分）	
10	実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する	・事前：事前訪問に向けた提出物等の準備・確認を行う（120分） ・事後：事前訪問を踏まえ利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する（120分）	
11	三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する	・事前：三者協議内容について整理しておく（120分） ・事後：指導・報告を踏まえ実習計画の修正や自催の課題をまとめる（120分）	
12	巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する	・事前：実習中や実習後の指導方法や目的について理解する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習中の連絡方法、必要書類等を整理する（120分）	
13	実習先における巡回指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等を作成する（120分）	
14	帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等の作成、計画の修正等を行う（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	実習体験の報告を参考に実習をふり返り、課題を整理する	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
時間割コード	0233902204
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	木 1, 木 2
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力、他職種と連携、協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識について、実習指導Ⅰを踏まえた学びの深化、実習Ⅰに向けた本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 【到達目標】 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修するものは、ソーシャルワーク実習指導Ⅰを修得していること。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰに向けたより具体的な準備に取り組むため、実習先施設・機関に関連する領域ごとの学習をはじめとして、ソーシャルワークや社会保障制度、自治体に関して学びを深めておく。 ・実習先への事前訪問やボランティア活動、実習先との協議等を通して、施設・機関やクライアント、ソーシャルワーク機能についての理解を深め、ソーシャルワークの実践能力が涵養できるように事前学習に取り組むこと。
評価方法	指導に対する姿勢と事前準備の状況（30%）およびレポート課題や計画書の作成・提出・内容（70%）で評価する。
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	実習計画作成に向けたグループワークや事前学習に関するプレゼンテーションを取り入れた授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習先の法的根拠、利用手続き等を理解する	・事前：実習先の法的根拠、利用手続き等について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、必要な制度やサービス等について整理する（120分）	
2	実習先の職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する	・事前：職員配置基準等について整理する（120分） ・事後：指導を通しての学びを整理する（120分）	
3	実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する	・事前：資料等を用いて地域の状況等について整理する（120分） ・事後：講義を指導を踏まえてさらに必要な知識について整理する（120分）	
4	アセスメント、支援プラン作成指導	・事前：ソーシャルワークの過程と各段階における内容について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、アセスメントやプランニングのポイントや自身の課題等を整理する（120分）	
5	実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する	・事前：実習計画作成方法、作成の意義や目的について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、自身の達成目標等について検討する（120分）	
6	実習計画書を作成する	・事前：評価表等を用いて、実習における達成目標等を確認する（120分） ・事後：指導を踏まえ、計画書を修正・完成させる（120分）	
7	実習記録の内容および記録方法等を理解する	・事前：ソーシャルワークの記録について整理する（120分） ・事後：指導をふまえ、実習記録の内容や方法等についてポイントを整理する（120分）	
8	プライバシー保護や個人情報保護、守秘義務について理解する	・事前：個人情報保護法等プライバシーの権利に関して調べる（120分） ・事後：専門職としての守秘義務についてまとめる（120分）	
9	感染症の予防方法について理解する	・事前：実習における感染症予防の意義や方法について調べる（120分） ・事後：専門職としての感染症要望方法についてまとめる（120分）	
10	実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する	・事前：事前訪問に向けた提出物等の準備・確認を行う（120分） ・事後：事前訪問を踏まえ利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する（120分）	
11	三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する	・事前：三者協議内容について整理しておく（120分） ・事後：指導・報告を踏まえ実習計画の修正や自催の課題をまとめる（120分）	
12	巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する	・事前：実習中や実習後の指導方法や目的について理解する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習中の連絡方法、必要書類等を整理する（120分）	
13	実習先における巡回指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等を作成する（120分）	
14	帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等の作成、計画の修正等を行う（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	実習体験の報告を参考に実習をふり返り、課題を整理する	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
時間割コード	0233902205
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	木 1, 木 2
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	米田 政葉
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
米田 政葉

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力、他職種と連携、協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識について、実習指導Ⅰを踏まえた学びの深化、実習Ⅰに向けた本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 【到達目標】 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修するものは、ソーシャルワーク実習指導Ⅰを修得していること。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰに向けたより具体的な準備に取り組むため、実習先施設・機関に関連する領域ごとの学習をはじめとして、ソーシャルワークや社会保障制度、自治体に関して学びを深めておく。 ・実習先への事前訪問やボランティア活動、実習先との協議等を通して、施設・機関やクライアント、ソーシャルワーク機能についての理解を深め、ソーシャルワークの実践能力が涵養できるように事前学習に取り組むこと。
評価方法	指導に対する姿勢と事前準備の状況（30%）およびレポート課題や計画書の作成・提出・内容（70%）で評価する。
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	実習計画作成に向けたグループワークや事前学習に関するプレゼンテーションを取り入れた授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習先の法的根拠、利用手続き等を理解する	・事前：実習先の法的根拠、利用手続き等について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、必要な制度やサービス等について整理する（120分）	
2	実習先の職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する	・事前：職員配置基準等について整理する（120分） ・事後：指導を通しての学びを整理する（120分）	
3	実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する	・事前：資料等を用いて地域の状況等について整理する（120分） ・事後：講義を指導を踏まえてさらに必要な知識について整理する（120分）	
4	アセスメント、支援プラン作成指導	・事前：ソーシャルワークの過程と各段階における内容について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、アセスメントやプランニングのポイントや自身の課題等を整理する（120分）	
5	実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する	・事前：実習計画作成方法、作成の意義や目的について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、自身の達成目標等について検討する（120分）	
6	実習計画書を作成する	・事前：評価表等を用いて、実習における達成目標等を確認する（120分） ・事後：指導を踏まえ、計画書を修正・完成させる（120分）	
7	実習記録の内容および記録方法等を理解する	・事前：ソーシャルワークの記録について整理する（120分） ・事後：指導をふまえ、実習記録の内容や方法等についてポイントを整理する（120分）	
8	プライバシー保護や個人情報保護、守秘義務について理解する	・事前：個人情報保護法等プライバシーの権利に関して調べる（120分） ・事後：専門職としての守秘義務についてまとめる（120分）	
9	感染症の予防方法について理解する	・事前：実習における感染症予防の意義や方法について調べる（120分） ・事後：専門職としての感染症要望方法についてまとめる（120分）	
10	実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する	・事前：事前訪問に向けた提出物等の準備・確認を行う（120分） ・事後：事前訪問を踏まえ利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する（120分）	
11	三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する	・事前：三者協議内容について整理しておく（120分） ・事後：指導・報告を踏まえ実習計画の修正や自催の課題をまとめる（120分）	
12	巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する	・事前：実習中や実習後の指導方法や目的について理解する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習中の連絡方法、必要書類等を整理する（120分）	
13	実習先における巡回指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等を作成する（120分）	
14	帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等の作成、計画の修正等を行う（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	実習体験の報告を参考に実習をふり返り、課題を整理する	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
時間割コード	0233902301
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力、他職種と連携、協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識等について、実習Ⅰを踏まえた学びの深化、実習Ⅱに向けた本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 ・実習をふり返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 【到達目標】 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習指導Ⅲを履修する者は、ソーシャルワーク実習Ⅰを修得していること ・ソーシャルワーク実習Ⅱに向けたより具体的な準備に取り組むため、実習先施設・機関に関連する領域ごとの学習をはじめとして、ソーシャルワークや社会保障制度、自治体に関して学びを深めておく。また、実習Ⅰをレポートの作成や報告等を通してふり返り、達成目標の達成度等を評価し、実習Ⅱに向けた課題を見出す。 ・実習先への事前訪問やボランティア活動、実習先との協議等を通して、施設・機関やクライアント、ソーシャルワーク機能についての理解を深め、ソーシャルワークの実践能力を総合的に涵養できるように事前学習に取り組むこと。
評価方法	指導に対する姿勢と事前準備の状況（30%）およびレポート課題や計画書の作成・提出・内容（70%）で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	実習内容の報告・共有を目的としたプレゼンテーションや実習計画作成に向けたグループワークを取り入れた授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習先の法的根拠、利用手続き、職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する	・事前：実習先の法的根拠、利用手続き等について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、必要な制度やサービス等について整理する（120分）	
2	実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する	・事前：職員配置基準等について整理する（120分） ・事後：指導を通しての学びを整理する（120分）	
3	アセスメント、支援プラン作成指導	・事前：ソーシャルワークの過程と各段階における内容についてについて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、アセスメントやプランニングのポイントや自身の課題等を整理する（120分）	
4	実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する	・事前：実習計画作成方法、作成の意義や目的について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、自身の達成目標等について検討する（120分）	
5	実習計画書を作成する	・事前：評価表等を用いて、実習における達成目標等を確認する（120分） ・事後：指導を踏まえ、計画書を修正・完成させる（120分）	
6	実習記録の内容・記録方法等を確認し、プライバシー保護や守秘義務について理解する	・事前：ソーシャルワークの記録について整理する（120分） ・事後：指導をふまえ、実習記録の内容や方法等についてポイントを整理する（120分）	
7	実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する	・事前：事前訪問に向けた提出物等の準備・確認を行う（120分） ・事後：事前訪問を踏まえ利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する（120分）	
8	三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する	・事前：三者協議内容について整理しておく（120分） ・事後：指導・報告を踏まえ実習計画の修正や自催の課題をまとめる（120分）	
9	巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する	・事前：実習中や実習後の指導方法や目的について理解する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習中の連絡方法、必要書類等を整理する（120分）	
10	実習先における巡回指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等を作成する（120分）	
11	帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等の作成、計画の修正等を行う（120分）	
12	実習体験の報告を参考に実習をふり返る	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	
13	記録等を参考に実習課題を整理する	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	実習総括レポートの作成指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	
15	実習の全体総括会および実習評価を行う	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習全体をふり返り評価する（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
時間割コード	0233902302
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	村本 浄司
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
村本 浄司

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力、他職種と連携、協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識等について、実習Ⅰを踏まえた学びの深化、実習Ⅱに向けた本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 ・実習をふり返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 【到達目標】 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習指導Ⅲを履修する者は、ソーシャルワーク実習Ⅰを修得していること ・ソーシャルワーク実習Ⅱに向けたより具体的な準備に取り組むため、実習先施設・機関に関連する領域ごとの学習をはじめとして、ソーシャルワークや社会保障制度、自治体に関して学びを深めておく。また、実習Ⅰをレポートの作成や報告等を通してふり返り、達成目標の達成度等を評価し、実習Ⅱに向けた課題を見出す。 ・実習先への事前訪問やボランティア活動、実習先との協議等を通して、施設・機関やクライアント、ソーシャルワーク機能についての理解を深め、ソーシャルワークの実践能力を総合的に涵養できるように事前学習に取り組むこと。
評価方法	指導に対する姿勢と事前準備の状況（30%）およびレポート課題や計画書の作成・提出・内容（70%）で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	（アクティブラーニング） 実習内容の報告・共有を目的としたプレゼンテーションや実習計画作成に向けたグループワークを取り入れた授業を行う。 （ICT） 該当なし

授業計画

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習先の法的根拠、利用手続き、職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する	・事前：実習先の法的根拠、利用手続き等について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、必要な制度やサービス等について整理する（120分）	
2	実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する	・事前：職員配置基準等について整理する（120分） ・事後：指導を通しての学びを整理する（120分）	
3	アセスメント、支援プラン作成指導	・事前：ソーシャルワークの過程と各段階における内容についてについて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、アセスメントやプランニングのポイントや自身の課題等を整理する（120分）	
4	実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する	・事前：実習計画作成方法、作成の意義や目的について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、自身の達成目標等について検討する（120分）	
5	実習計画書を作成する	・事前：評価表等を用いて、実習における達成目標等を確認する（120分） ・事後：指導を踏まえ、計画書を修正・完成させる（120分）	
6	実習記録の内容・記録方法等を確認し、プライバシー保護や守秘義務について理解する	・事前：ソーシャルワークの記録について整理する（120分） ・事後：指導をふまえ、実習記録の内容や方法等についてポイントを整理する（120分）	
7	実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する	・事前：事前訪問に向けた提出物等の準備・確認を行う（120分） ・事後：事前訪問を踏まえ利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する（120分）	
8	三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する	・事前：三者協議内容について整理しておく（120分） ・事後：指導・報告を踏まえ実習計画の修正や自催の課題をまとめる（120分）	
9	巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する	・事前：実習中や実習後の指導方法や目的について理解する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習中の連絡方法、必要書類等を整理する（120分）	
10	実習先における巡回指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等を作成する（120分）	
11	帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等の作成、計画の修正等を行う（120分）	
12	実習体験の報告を参考に実習をふり返る	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	
13	記録等を参考に実習課題を整理する	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	実習総括レポートの作成指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	
15	実習の全体総括会および実習評価を行う	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習全体をふり返り評価する（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
時間割コード	0233902303
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	隈 直子
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
隈 直子

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力，他職種と連携，協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識等について、実習Ⅰを踏まえた学びの深化，実習Ⅱに向けた本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 ・実習をふり返り，実習で得た具体的な体験や援助活動を，専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 【到達目標】 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習指導Ⅲを履修する者は、ソーシャルワーク実習Ⅰを修得していること ・ソーシャルワーク実習Ⅱに向けたより具体的な準備に取り組むため、実習先施設・機関に関連する領域ごとの学習をはじめとして、ソーシャルワークや社会保障制度、自治体に関して学びを深めておく。また、実習Ⅰをレポートの作成や報告等を通してふり返り、達成目標の達成度等を評価し、実習Ⅱに向けた課題を見出す。 ・実習先への事前訪問やボランティア活動、実習先との協議等を通して、施設・機関やクライアント、ソーシャルワーク機能についての理解を深め、ソーシャルワークの実践能力を総合的に涵養できるように事前学習に取り組むこと。
評価方法	指導に対する姿勢と事前準備の状況（30%）およびレポート課題や計画書の作成・提出・内容（70%）で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	実習内容の報告・共有を目的としたプレゼンテーションや実習計画作成に向けたグループワークを取り入れた授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習先の法的根拠、利用手続き、職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する	・事前：実習先の法的根拠、利用手続き等について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、必要な制度やサービス等について整理する（120分）	
2	実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する	・事前：職員配置基準等について整理する（120分） ・事後：指導を通しての学びを整理する（120分）	
3	アセスメント、支援プラン作成指導	・事前：ソーシャルワークの過程と各段階における内容についてについて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、アセスメントやプランニングのポイントや自身の課題等を整理する（120分）	
4	実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する	・事前：実習計画作成方法、作成の意義や目的について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、自身の達成目標等について検討する（120分）	
5	実習計画書を作成する	・事前：評価表等を用いて、実習における達成目標等を確認する（120分） ・事後：指導を踏まえ、計画書を修正・完成させる（120分）	
6	実習記録の内容・記録方法等を確認し、プライバシー保護や守秘義務について理解する	・事前：ソーシャルワークの記録について整理する（120分） ・事後：指導をふまえ、実習記録の内容や方法等についてポイントを整理する（120分）	
7	実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する	・事前：事前訪問に向けた提出物等の準備・確認を行う（120分） ・事後：事前訪問を踏まえ利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する（120分）	
8	三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する	・事前：三者協議内容について整理しておく（120分） ・事後：指導・報告を踏まえ実習計画の修正や自催の課題をまとめる（120分）	
9	巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する	・事前：実習中や実習後の指導方法や目的について理解する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習中の連絡方法、必要書類等を整理する（120分）	
10	実習先における巡回指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等を作成する（120分）	
11	帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等の作成、計画の修正等を行う（120分）	
12	実習体験の報告を参考に実習をふり返る	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	
13	記録等を参考に実習課題を整理する	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	実習総括レポートの作成指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	
15	実習の全体総括会および実習評価を行う	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習全体をふり返り評価する（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
時間割コード	0233902304
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	黒木 真吾
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
黒木 真吾

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力，他職種と連携，協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識等について、実習Ⅰを踏まえた学びの深化，実習Ⅱに向けた本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 ・実習をふり返り，実習で得た具体的な体験や援助活動を，専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 【到達目標】 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習指導Ⅲを履修する者は、ソーシャルワーク実習Ⅰを修得していること ・ソーシャルワーク実習Ⅱに向けたより具体的な準備に取り組むため、実習先施設・機関に関連する領域ごとの学習をはじめとして、ソーシャルワークや社会保障制度、自治体に関して学びを深めておく。また、実習Ⅰをレポートの作成や報告等を通してふり返り、達成目標の達成度等を評価し、実習Ⅱに向けた課題を見出す。 ・実習先への事前訪問やボランティア活動、実習先との協議等を通して、施設・機関やクライアント、ソーシャルワーク機能についての理解を深め、ソーシャルワークの実践能力を総合的に涵養できるように事前学習に取り組むこと。
評価方法	指導に対する姿勢と事前準備の状況（30%）およびレポート課題や計画書の作成・提出・内容（70%）で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	実習内容の報告・共有を目的としたプレゼンテーションや実習計画作成に向けたグループワークを取り入れた授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習先の法的根拠、利用手続き、職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する	・事前：実習先の法的根拠、利用手続き等について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、必要な制度やサービス等について整理する（120分）	
2	実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する	・事前：職員配置基準等について整理する（120分） ・事後：指導を通しての学びを整理する（120分）	
3	アセスメント、支援プラン作成指導	・事前：ソーシャルワークの過程と各段階における内容についてについて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、アセスメントやプランニングのポイントや自身の課題等を整理する（120分）	
4	実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する	・事前：実習計画作成方法、作成の意義や目的について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、自身の達成目標等について検討する（120分）	
5	実習計画書を作成する	・事前：評価表等を用いて、実習における達成目標等を確認する（120分） ・事後：指導を踏まえ、計画書を修正・完成させる（120分）	
6	実習記録の内容・記録方法等を確認し、プライバシー保護や守秘義務について理解する	・事前：ソーシャルワークの記録について整理する（120分） ・事後：指導をふまえ、実習記録の内容や方法等についてポイントを整理する（120分）	
7	実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する	・事前：事前訪問に向けた提出物等の準備・確認を行う（120分） ・事後：事前訪問を踏まえ利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する（120分）	
8	三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する	・事前：三者協議内容について整理しておく（120分） ・事後：指導・報告を踏まえ実習計画の修正や自催の課題をまとめる（120分）	
9	巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する	・事前：実習中や実習後の指導方法や目的について理解する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習中の連絡方法、必要書類等を整理する（120分）	
10	実習先における巡回指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等を作成する（120分）	
11	帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等の作成、計画の修正等を行う（120分）	
12	実習体験の報告を参考に実習をふり返る	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	
13	記録等を参考に実習課題を整理する	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	実習総括レポートの作成指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	
15	実習の全体総括会および実習評価を行う	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習全体をふり返り評価する（120分）	

基本情報

科目名	ソーシャルワーク実習指導III
時間割コード	0233902305
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	米田 政葉
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第1群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
米田 政葉

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目は、福祉専門職として、その分野のニーズに対応できる高い知識と優れた技術を身につけ、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力，他職種と連携，協力しながら対象者の個性を尊重した支援ができる能力に関する基礎的知識等について、実習Ⅰを踏まえた学びの深化，実習Ⅱに向けた本科目の目的（ねらい）と具体的な到達目標としては、以下の通り。 【目的（ねらい）】 ・ソーシャルワーク実習の意義を理解できる。 ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を身につけることができる。 ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得することができる。 ・実習をふり返り，実習で得た具体的な体験や援助活動を，専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 【到達目標】 ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ・実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解 ・実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ・実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
履修上の注意事項	・ソーシャルワーク実習指導IIIを履修する者は、ソーシャルワーク実習Ⅰを修得していること ・ソーシャルワーク実習Ⅱに向けたより具体的な準備に取り組むため、実習先施設・機関に関連する領域ごとの学習をはじめとして、ソーシャルワークや社会保障制度、自治体に関して学びを深めておく。また、実習Ⅰをレポートの作成や報告等を通してふり返り、達成目標の達成度等を評価し、実習Ⅱに向けた課題を見出す。 ・実習先への事前訪問やボランティア活動、実習先との協議等を通して、施設・機関やクライアント、ソーシャルワーク機能についての理解を深め、ソーシャルワークの実践能力を総合的に涵養できるように事前学習に取り組むこと。
評価方法	指導に対する姿勢と事前準備の状況（30%）およびレポート課題や計画書の作成・提出・内容（70%）で評価する。
テキスト	なし
参考文献	適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	実習内容の報告・共有を目的としたプレゼンテーションや実習計画作成に向けたグループワークを取り入れた授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	実習先の法的根拠、利用手続き、職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する	・事前：実習先の法的根拠、利用手続き等について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、必要な制度やサービス等について整理する（120分）	
2	実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する	・事前：職員配置基準等について整理する（120分） ・事後：指導を通しての学びを整理する（120分）	
3	アセスメント、支援プラン作成指導	・事前：ソーシャルワークの過程と各段階における内容についてについて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、アセスメントやプランニングのポイントや自身の課題等を整理する（120分）	
4	実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する	・事前：実習計画作成方法、作成の意義や目的について整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ、自身の達成目標等について検討する（120分）	
5	実習計画書を作成する	・事前：評価表等を用いて、実習における達成目標等を確認する（120分） ・事後：指導を踏まえ、計画書を修正・完成させる（120分）	
6	実習記録の内容・記録方法等を確認し、プライバシー保護や守秘義務について理解する	・事前：ソーシャルワークの記録について整理する（120分） ・事後：指導をふまえ、実習記録の内容や方法等についてポイントを整理する（120分）	
7	実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する	・事前：事前訪問に向けた提出物等の準備・確認を行う（120分） ・事後：事前訪問を踏まえ利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する（120分）	
8	三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する	・事前：三者協議内容について整理しておく（120分） ・事後：指導・報告を踏まえ実習計画の修正や自催の課題をまとめる（120分）	
9	巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する	・事前：実習中や実習後の指導方法や目的について理解する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習中の連絡方法、必要書類等を整理する（120分）	
10	実習先における巡回指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等を作成する（120分）	
11	帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ記録等の作成、計画の修正等を行う（120分）	
12	実習体験の報告を参考に実習をふり返る	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	
13	記録等を参考に実習課題を整理する	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	実習総括レポートの作成指導	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ事後レポート等を作成する（120分）	
15	実習の全体総括会および実習評価を行う	・事前：それまでの実習内容や疑問について実習記録等を用いて整理する（120分） ・事後：指導を踏まえ実習全体をふり返り評価する（120分）	

基本情報

科目名	介護実習Ⅰ
時間割コード	0234103301
ナンバリングコード	S 130501-T-13
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、吉岡 久美

詳細情報

授業の目的・到達目標	基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、心身機能における課題を探究し問題を解決できる能力を養う。 通所施設や居宅施設を利用する日常生活援助が必要な人を知り、その介護の目的や機能並びに施設職員の役割について説明できる。
履修上の注意事項	実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること。 実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと。各120分
評価方法	施設指導者による評価 60% 実習担当教員による評価30% 実習への総合的な積極性 10% フィードバックとして、実習巡回中に指導を行うとともに、終了後に日誌他の記録を基に振り返りを行い、ポイントを伝える。
テキスト	新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規
参考文献	本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	吉岡久美：看護師・管理者として病院勤務経験 訪問看護師・管理者として訪問看護ステーション勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験 馬場敏彰：介護福祉士として介護施設等勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。

授業計画

授業計画
実習概要 ・利用者とかかわることでその人を知り、講義、演習、学内実習で学んだ知識を基に介護ニーズを考える 5日間の実習を行うにあたり、実習先における実践に関する事前学習を毎日行い、その日に体験した実践を振り返り整理すること（事前事後学習を合わせて90分を目安とする）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	介護実習Ⅱ
時間割コード	0234103401
ナンバリングコード	S 130501-T-13
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、未定

詳細情報

授業の目的・到達目標	社会福祉、特に介護福祉に関わる様々な課題を、地域の中で他職種の人々と連携・協力しつつ、解決に向けて取り組もうとする力を養うことを目指す。 ・学内で学んだ講義、演習、学内実習を基にして、施設実習に応用する。 ・生活障害を有する高齢者の施設を実習施設とし、要介護に応じて求められる介護技術の適正な用い方を身につけ、利用者の権利を尊重する態度を養う。 ・利用者の自立支援の観点から、利用者の全人格的理解と福祉サービスの全体像を把握でき、適切な援助ができる能力を身につける。
履修上の注意事項	実習生として相応しい学修態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと 実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること(120分) 実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと（120分）
評価方法	施設評価60%、教員評価30%、その他10% フィードバックとして、実習巡回中に指導を行うとともに、終了後に日誌他の記録を基に振り返りを行い、ポイントを伝える。
テキスト	新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規
参考文献	本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場敏彰：介護福祉士として介護施設等勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います

授業計画

授業計画
実習概要 ・利用者への適正な介護技術が援助でき、カンファレンスの意義やありかた、連携の必要性を理解して積極的な参加ができる ・福祉機器や福祉用具の知識と活用を学ぶ 15日間の実習を行うにあたり、実習先における実践に関する事前学習を毎日行い、その日に体験した実践を振り返り整理すること（事前事後学習を合わせて90分を目安とする）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	介護実習III
時間割コード	0234103501
ナンバリングコード	S 230501-T-11
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、吉岡 久美

詳細情報

授業の目的・到達目標	基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、心身機能における課題を探究し問題を解決できる能力を養う。 講義・演習における学びを基本とし、高齢者および障がい者施設で生活する利用者を理解し、その介護を具体的にアセスメントする。また、日常生活に必要な支援技術を実践することで、介護技術を習得する。
履修上の注意事項	実習生としてふさわしい学習態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと 実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること（2） 実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと（2）
評価方法	施設評価：60% 教員評価：30% その他提出物等：10%フィードバックとして、実習巡回中に指導を行うとともに、終了後に日誌他の記録を基に振り返りを行い、ポイントを伝える。
テキスト	介護福祉士養成講座編集「介護総合演習・介護実習」 中央法規
参考文献	本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	吉岡久美：看護師・管理者として病院勤務経験 訪問看護師・管理者として訪問看護ステーション勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験 馬場敏彰：介護福祉士として介護施設等勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。

授業計画

授業計画
実習の概要 生活支援技術が必要な高齢者及び障害者の生活を夜間の状況を含めて理解する 適正な介護技術の提供のための利用者理解とアセスメントを行い、課題の抽出と目標の設定を行うことで、尊厳に基づいた個性のある介護を考える カンファレンスの意義やあり方、連携の必要性を理解し、チームアプローチを学ぶ 15日間の実習を通してこれらを学習する 15日間の実習を行うにあたり、実習先における実践に関する事前学習を毎日行い、その日に体験した実践を振り返り整理すること（事前事後学習を合わせて90分を目安とする）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	介護実習Ⅳ
時間割コード	0234103601
ナンバリングコード	S 230501-T-11
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、未定

詳細情報

授業の目的・到達目標	社会福祉、特に介護に関わる様々な課題を、地域の中で他職種の人々と連携・協力しつつ、解決に向けて取り組もうとする力を養うことを目指す。 福祉施設職員の組織を理解し、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。
履修上の注意事項	実習生としてふさわしい学習態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと 実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること(120分) 実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと(120分)
評価方法	施設評価：60% 教員評価：30% その他提出物等：10% フィードバックとして、実習巡回中に指導を行うとともに、終了後に日誌他の記録を基に振り返りを行い、ポイントを伝える。
テキスト	介護福祉士養成講座編集「介護総合演習・介護実習」 中央法規
参考文献	本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場敏彰：介護福祉士として介護施設等勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います

授業計画

授業計画
実習概要 ・施設運営のプログラムに参加し、福祉サービスについて理解する ・施設の通所サービスの実際と入所との関係を知り、地域、家族、施設の関係について学ぶ 15日間の実習を行うにあたり、実習先における実践に関する事前学習を毎日行い、その日に体験した実践を振り返り整理すること（事前事後学習を合わせて90分を目安とする）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	介護実習Ⅴ
時間割コード	0234103701
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	他
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、吉岡 久美

詳細情報

授業の目的・到達目標	基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、心身機能における課題を探究し問題を解決できる能力を養う。 居宅介護、グループホーム等の実習を体験することにより、高齢者が住み慣れた住宅や地域の中で自己の能力を最大限に生かして、その人らしい生活が継続できるようにするための実践活動ができる。
履修上の注意事項	介護実習Ⅳを修了していること 実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること。 実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと。（各2時間）
評価方法	施設指導者による評価:60% 実習担当教員による評価:30% 実習への総合的な積極性:10% フィードバックとして、実習巡回中に指導を行うとともに、終了後に日誌他の記録を基に振り返りを行い、ポイントを伝える。
テキスト	新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規
参考文献	本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	吉岡久美：看護師・管理者として病院勤務経験 訪問看護師・管理者として訪問看護ステーション勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験 馬場敏彰：介護福祉士として介護施設等勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。

授業計画

授業計画
実習概要 ・居宅介護、グループホーム等の実習を体験することで、高齢者や障害者が住み慣れた住宅や地域の中でその人らしい生活が継続できるようにするための実践活動を学ぶ ・居宅生活を支援する介護福祉士の役割を理解する 7日間の実習を行うにあたり、実習先における実践に関する事前学習を毎日行い、その日に体験した実践を振り返り整理すること（事前事後学習を合わせて90分を目安とする）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1			

基本情報

科目名	介護総合演習Ⅰ
時間割コード	0234102801
ナンバリングコード	S 130501-S-13
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	火 3, 他
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、吉岡 久美

詳細情報

授業の目的・到達目標	基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、心身機能における課題を探究し問題を解決できる能力を養う。 社会福祉の学修をふまえ、日常生活の援助が必要な対象者への介護の実践を考察し実践できる力を養う。 1.利用者とのコミュニケーションにより人間的な関わりを深めることで、利用者の生活について理解できることを学ぶ。 2.体験学習の意義、重要性について理解できる。 3.介護実習の意義、目的や利用者へのかかわり方について理解できる。
履修上の注意事項	大学における規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない。 事前学習として、講義で示している単元のテキストを読むこと。（1時間） 事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、実習に向けた事前学習ノートを整理するとともに、課題に取り組むこと。（1時間）
評価方法	演習への積極性、参加態度 60% 提出物（課題・レポート等）40% 提出されたレポートにはコメントを入れて返却する
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会『介護総合演習・介護実習』中央法規
参考文献	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	吉岡久美：看護師・管理者として病院勤務経験 訪問看護師・管理者として訪問看護ステーション勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験 馬場敏彰：介護福祉士として介護施設等勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	介護実習の意義や目的、位置付けについて理解する （吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと	
2	実習施設の種類に関して知り、実習段階を理解する （吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと	
3	福祉施設（通所・居宅）の機能と職員の役割について理解する （吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと	
4	福祉施設（通所・居宅）利用者の特徴とコミュニケーション方法を理解する （吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	実習生としての心構え（マナーを含む） を知る ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	
6	介護実習における記録の必要性とその意義について理解する ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	
7	実習に必要な書類について理解し、作成する ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	
8	実習準備としての事前訪問について理解する ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	
9	実習日誌の重要性を理解し、具体的方法を知る ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	
10	介護実習Ⅰの目的を明確化し、目標設定をする ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	
11	介護実習Ⅰの実践をイメージした行動計画を立案する ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	
12	介護実習Ⅰにむけた実習施設別の学習課題とその指導（個別指導） ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	
13	介護実習Ⅰ直前指導：目標設定の見直し、および施設理解を深める ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	
14	介護実習Ⅰ事後指導：自己の行動を客観的に振り返る ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	
15	介護実習Ⅰ事後指導：実習における目標の達成度の確認と学びの共有 ・馬場） 〈吉岡	事前に提示した資料を基に予習をすること と 講義中に出された課題に取り組むこと	

基本情報

科目名	介護総合演習Ⅱ
時間割コード	0234102901
ナンバリングコード	S 130501-S-13
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他, 他 4
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目 (第3群)
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、未定

詳細情報

授業の目的・到達目標	社会福祉、特に介護福祉に関わる様々な課題を、地域の中で他職種の人々と連携・協力しつつ、解決に向けて取り組もうと知る力を養う。 ・学内で学んだ知識に基づいて利用者と関わりを深め、介護ニーズについて説明できる ・高齢者施設での機能や利用者の特徴について説明できる。 ・高齢者の日常生活援助に関する介護の目的や機能並びに施設職員の一般的な役割について説明できる。
履修上の注意事項	規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない。 事前学習として、指示された項目を調べてまとめること。 事後学習として、講義終了後にノートを整理し、指示された課題に取り組むこと。(各2時間程度)
評価方法	取り組み状況20% 授業態度40% 提出物(課題・レポート等)40% 提出された課題レポートについてはコメントを入れて返却する
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会『介護総合演習・介護実習』中央法規
参考文献	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場敏彰：介護福祉士として介護施設等勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	介護実習Ⅰを振り返り、高齢者施設での機能と福祉施設職員の役割を理解する(未定・馬場)	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
2	介護実習Ⅱの課題である、利用者の特徴とコミュニケーション方法を理解する(未定・馬場)	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
3	介護実習Ⅱの要項をもとに、課題の理解と心構えについて深める(未定・馬場)	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	介護施設における各職種の業務内容と連携について理解する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
5	高齢者施設を利用する人の生活について考える〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
6	カンファレンスの種類を知り、実習カンファレンスの意義・方法を検討する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
7	介護実習日誌の重要性の理解と具体的方法を知り実践することでその内容を検討する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
8	介護実習での介護過程の展開（個別介護のための利用者情報獲得）方法を検討する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
9	介護実習Ⅱの実習目標および行動計画を作成する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
10	介護実習Ⅱの実習目標および行動計画を見直して具体化する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
11	実習における自己評価項目を作成する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
12	実習の全体像、施設理解、利用者理解、生活支援技術実施を具体化する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
13	介護実習Ⅱの直前指導として課題を確認し、実習における行動・学習を検討する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
14	介護実習Ⅱを振り返り、課題を整理して報告書を作成する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
15	実習の学びと実践を発表し、共有しながら高齢者施設における介護を探究する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	

基本情報

科目名	介護総合演習III
時間割コード	0234103001
ナンバリングコード	S 230501-S-11
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	月 4, 他
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、吉岡 久美

詳細情報

授業の目的・到達目標	基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、心身機能における課題を探究し問題を解決できる能力を養う。社会福祉の学修をふまえ、日常生活の援助が必要な対象者への介護の実際を考察し実践できる力を養う。 1．学習している知識に基づいて、日常生活に援助が必要な高齢者や障がい者の介護ニーズについて説明できる。 2．高齢者や障がい者の日常生活介護の目的や機能並びに施設職員の役割について説明できる。 3．日常生活上の支障ある部分に応じた生活支援技術の適正な技法を実践・説明できる。
履修上の注意事項	規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない シラバスを確認して、単元の事前学習と準備を行い、演習後には課題にとりくむこと 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度
評価方法	演習への積極性、参加態度：60% 提出物（課題・レポート等）：40% 提出されたレポートについてはコメントを入れて返却する
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会「介護総合演習・介護実習」 中央法規
参考文献	適宜紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	吉岡久美：看護師・管理者として病院勤務経験 訪問看護師・管理者として訪問看護ステーション勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験 馬場敏彰：介護福祉士として介護施設等勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	障がい者支援施設の種類と特徴を理解する（吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各120分）	
2	障がい者支援施設の機能と職員の役割について理解する（吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各120分）	
3	障がいの特徴とコミュニケーション方法について考える（グループワーク）（馬場・吉岡）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各120分）	
4	障がい者支援施設における介護の役割を理解する（吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出された課題に取り組むこと（各120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	障がい者支援施設と地域、家族の連携について理解する（吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	
6	実習生としての自己覚知をする（吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	
7	チームワークを理解し、実習におけるチームの一員としての関わりを検討する（吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	
8	実習記録の重要性を再認識し、具体的記入方法を理解する（吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	
9	介護実習Ⅲの目的から自己課題を明確にし、課題解決に向けた対策を考える（吉岡・馬場）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	
10	介護実習Ⅲの実習目標を設定し、実践をイメージした行動計画を立案する（馬場・吉岡）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	
11	実習目標および行動計画を見直して具体化する（馬場・吉岡）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	
12	介護実習における自己評価項目を作成する（馬場・吉岡）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	
13	介護実習Ⅲの直前指導として課題を確認し、実習での行動と学習を検討する（馬場・吉岡）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	
14	介護実習Ⅲを振り返り、課題を整理して報告書を作成する（馬場・吉岡）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	
15	介護実習Ⅲにおける目標達成度の確認と学びの共有を発表を通して実践する（馬場・吉岡）	事前に提示した資料を基に予習をすること 講義中に出示された課題に取り組むこと（各120分）	

基本情報

科目名	介護総合演習Ⅳ
時間割コード	0234103101
ナンバリングコード	S 230501-S-11
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他, 他 1
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、未定

詳細情報

授業の目的・到達目標	社会福祉、特に介護に関わる様々な課題を、地域の中で他職種の人々と連携・協力しつつ、解決に向けて取り組もうとする力を養うことを目指す。 1. 介護過程の展開を考え、個別介護について理解を深め、実践につなげることができる。 2. 施設職員の組織を理解し、チームの一員として介護業務を行う能力を養う。 3. 介護過程の展開を考え、個別介護について検討できる能力を獲得する。
履修上の注意事項	規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない シラバスを確認して、単元の事前学習と準備を行い、演習後には課題に取り組むこと 事前事後学習として各120分程度
評価方法	演習への積極性、参加態度：60% 提出物（課題・レポート等）：40% 提出された課題レポートはコメントを入れて返却する
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会「介護総合演習・介護実習」 中央法規
参考文献	適宜紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	馬場敏彰：介護福祉士として介護施設等勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	介護実習Ⅲを振り返り、施設や技術、利用者の理解を深める〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
2	介護実習Ⅲにおける学習について、その成果と不足点を分析する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
3	介護実習Ⅰ～Ⅲから、自己の課題を明確にする〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
4	介護実習Ⅳの目的を理解し、日常生活が困難な方への技術の提供を検討する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	入所施設と地域、家族の連携について、現状と課題を検討する（討議）〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
6	連続した生活支援について考え、生活課題を見出す方法を探る〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
7	介護実習Ⅳの目的から自己課題を明確にする〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
8	介護実習Ⅳの実習目標を設定し、行動計画を立案する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
9	実習目標及び行動計画を具体化し、日々の行動計画を作成する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
10	実習課題である「介護福祉士の役割」について検討する（討議）〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
11	チームアプローチについて考え、具体的場面から介護の役割を見出す〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
12	介護実習における自己評価項目を作成する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
13	介護実習Ⅳの直前指導として課題確認し、実習での行動と学習を検討する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
14	介護実習Ⅳを振り返り、課題を整理して報告書を作成する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
15	介護実習Ⅳにおける目標達成度の確認と学びの共有を、発表を通して実践する〈未定・馬場〉	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	

基本情報

科目名	介護総合演習Ⅴ
時間割コード	0234103201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	水 3, 水 4, 他
開講区分	第1学期ターム前半
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	馬場 敏彰
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
馬場 敏彰、吉岡 久美

詳細情報

授業の目的・到達目標	基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、心身機能における課題を探究し問題を解決できる能力を養う。地域で生活する方のうち、生活困難を抱えた方々の課題とその支援について検討し、実際の援助方法を分析する力を養う。 目標：居宅介護、グループホーム等に関する制度を理解し、利用者の生活形態、家族関係を考慮した生活援助が説明できる。
履修上の注意事項	事前学習として、単元に関するテキストを読んてくること。 事後学習では、演習における課題に取り組むこと。 事前事後学習として各2時間
評価方法	演習への積極性、参加態度：60% 提出物（課題、レポート等）：40% 提出された課題レポートについてはコメントを入れて返却する
テキスト	新) 介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規 最新版
参考文献	介護実習要項等
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	吉岡久美：看護師・管理者として病院勤務経験 訪問看護師・管理者として訪問看護ステーション勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験 馬場敏彰：介護福祉士として介護施設等勤務経験 介護教員として介護福祉士養成校勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	基本的な知識を抑えながら、グループワークを通して、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、自分自身の考えや価値観の幅を広げる取り組みを行います。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	グループホームに関する制度と利用者の生活を理解する（吉岡・馬場）		
2	在宅生活をする介護が必要な対象者の生活を理解する（吉岡・馬場）		
3	在宅生活を支援する介護の専門性と実践を理解する（吉岡・馬場）		
4	居宅支援に位置づけられる福祉サービスを理解する（吉岡・馬場）		
5	居宅支援の実践者とその役割を理解する（吉岡・馬場）		
6	居宅支援における介護福祉士の役割を探究する（グループワーク）（吉岡・馬場）		
7	居宅支援のチームアプローチにおける連携方法を考える（吉岡・馬場）		
8	居宅支援の実践に必要な接遇等を考える（吉岡・馬場）		

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
9	これまでの実習を振り返り、居宅支援の実施にむけた自己課題を明確化する（吉岡・馬場）		
10	介護実習Ⅴの目的を明確化し、目標設定をする（吉岡・馬場）		
11	介護実習Ⅴの行動計画を作成する（吉岡・馬場）		
12	実習施設の理解を深め、考えられる利用者像をもとに生活支援を検討する（吉岡・馬場）		
13	介護実習Ⅴの直前指導として、課題確認し実習での行動と学習を検討する（吉岡・馬場）		
14	介護実習Ⅴの目標達成状況を振り返り、自己評価して報告書作成する（吉岡・馬場）		
15	対象者理解、施設理解、生活支援技術の提供等について総合的にまとめる（吉岡・馬場）		

基本情報

科目名	こころとからだのしくみⅠ
時間割コード	0234000301
ナンバリングコード	S 230431-L-15
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	金 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	吉岡 久美
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第2群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
吉岡 久美

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目はディプロマポリシー1．3に該当する専門的知識・技術の獲得、地域の中での課題を発見・分析・解決を図る学習とし、基礎から積み上げた体系的な教養を身につけ、心身機能における課題を探究し問題を解決できる能力を養う。地域で生活する生活困難を抱えた方々への課題解決を見出すことができる力を身につけることを目的とする。 生活支援に必要な介護技術の根拠となる人体の構造や機能および生活援助サービスの提供における安全への留意 点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。
履修上の注意事項	学則の出席規定を遵守すること。出席不足の学生は評価対象としない。 演習やグループ討議等をおりませながら授業展開するため、積極的に取り組み、課題提出期限を守ること。 期限を過ぎた提出物は評価対象としない。 事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでくること。 事後学習では、講義中にとったノートをもとめなおし、課題に取り組むこと。（各2時間）
評価方法	筆記試験 80% 演習参加状況、課題提出 20% 課題にはコメントを入れて返却する
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会編集『こころとからだのしくみ』中央法規出版
参考文献	講義中、適宜紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	吉岡久美：看護師として病院勤務経験、管理職経験 訪問看護師として訪問看護ステーション勤務経験 介護教員として介護福祉士養成課程（専修学校）勤務経験
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	アクティブラーニング及びICTを活用した授業として、指示した時間にはタブレットやスマートフォンを持参すること。検索および資料の獲得、リアルタイムで質問を受ける双方向の授業も行う

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	人体の構造と機能、障害や認知症を理解し、生活機能低下における生活行動への影響を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
2	身じたくに関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	身体や認知機能低下・障害が及ぼす整容行動への影響、生活場面での変化の気づきと連携を学ぶ。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
4	身じたくに関連したところとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
5	移動に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
6	身体や認知機能低下・障害が及ぼす移動への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
7	移動に関連したところとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
8	食事に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
9	食べることに関連したところとからだのしくみを理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
10	身体や認知機能低下・障害が及ぼす食事への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
11	食事に関連したところとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
12	排泄に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
13	身体や認知機能低下・障害が及ぼす排泄への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	
14	排泄に関連したところとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	身じたく・移動・食事・排泄、認知症状の理解と心理的变化の理解を統合した支援の視点を学ぶ。	事前にテキストを読んで予習する。 講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。 事前・事後学習に要する時間 各2時間程度	

基本情報

科目名	発達と加齢現象
時間割コード	0234000501
ナンバリングコード	S 130433-L-01
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他 5
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	田島 望
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第2群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
田島 望

詳細情報

授業の目的・到達目標	社会福祉学や心理学の基礎理論等をベースに、発達に関する理解や高齢者に関して理解できること。特に、人間の発達段階と発達課題及び老年期の特徴と発達課題について学び、子どもの発達課題や加齢現象に伴う問題及び心理的問題に対する対応と背景について理解できるようにする。
履修上の注意事項	・主に高齢者の加齢現象について、新聞や文献等で事前に学習しておくこと。 ・さらに生涯発達の観点から、高齢期の位置づけなどについて復習すること。
評価方法	定期試験：100点満点で評価する。
テキスト	テキストは使用しません
参考文献	適宜紹介します
実務経験のある教員による授業の有無	無
実務経験・実務経験を活かした教育内容	
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	各回の内容に応じで、グループワークや教員と学生、学生同士のディスカッションを取り入れた授業を行う。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション：発達と加齢現象とは	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
2	成長と発達	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
3	発達段階と課題	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
4	発達理論	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
5	ライフサイクル理論	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
6	発達と社会的機能	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
7	感覚・知覚のエイジング	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
8	記憶・学習のエイジング	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
9	認知・知能のエイジング	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
10	高齢期のサクセスフル・エイジングと生きがい	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
11	加齢現象と老い	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
12	社会と加齢現象	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
13	ジェンダーと加齢現象	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
14	社会保障と加齢現象	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	
15	まとめ：生涯発達の観点から加齢を理解し、高齢者の機能の変化に関する知識を総括する	これまで学んだ心理学や社会福祉学の内容をふり返るとともに（120分）、講義科目の復習を行っておくこと（120分）。	

基本情報

科目名	障害の理解
時間割コード	0234102301
ナンバリングコード	S 230531-L-11
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	水間 宗幸
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（第3群）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
水間 宗幸

詳細情報

授業の目的・到達目標	障害の捉え方の変化、障害者支援の全体像を踏まえながら、主な障害種類について身体機能や心理機能の問題、障害特性を学習し、医学的側面、心理的側面から各障害の基礎的事項を理解できる。
履修上の注意事項	「介護福祉士」国家試験を受験する場合の指定科目「障害の理解」は、本学においては「障害者福祉論Ⅰ」とこの「障害の理解」を併せたものとなりますから、両方を履修しなければなりません。各回の講義テーマについて、事前の学習、事後の振り返り学習が求められます。予習45分、復習45分、計90分を目安とします。
評価方法	試験80%、授業中の質問への応答20%とする。フィードバックについては、模範解答を示し、希望者には個別に評価内容を伝える。
テキスト	最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解（中央法規出版）
参考文献	適宜、紹介する
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	2011年12月より、心理士として精神科病院で発達障害を持つ子ども及びその家族への発達支援のカウンセリングを行っている（現在に至る）。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	講義内容に応じてグループワーク、グループディスカッションを取り入れる。 必要な資料に関してはCampus Squareにアップロードする。

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	”障害”概念とICFモデルの理解	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
2	肢体不自由（種類、原因、障害特性、支援の課題）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
3	視覚障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	聴覚障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
5	内部障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
6	重症心身障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
7	知的障害（種類、障害特性、支援の課題）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
8	精神障害（種類、障害特性、支援の種類）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
9	高次脳機能障害（種類、障害特性、支援の課題）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
10	発達障害（種類、障害特性、支援の課題）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
11	難病（種類、原因、特性、支援の課題）	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
12	中途障害と心理的適応	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
13	障害児・者の支援のためのアセスメント	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
14	障害児・者の心理的支援	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	
15	家族への支援	事前学習として各回の内容についてテキストや事前配布資料等を確認しておくこと（120分）。 講義終了後は資料やノートを整理し内容を確認する復習をすること（120分）。	

基本情報

科目名	福祉科教育法Ⅰ
時間割コード	0234300101
ナンバリングコード	S 230733-L-17
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	金 4
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	日比 眞一
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（教職に関する科目）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
日比 眞一

詳細情報

授業の目的・到達目標	福祉社会の推進においても、高校生が教科「福祉」を学ぶ意義は深いといえる。教壇に立つ自覚を持って福祉科教育法を履修して頂きたい。 福祉を学ぶ高校生に、何をどのように理解してもらうのか、考察と実践を通して学ぶ。クライアントの困りごとや地域の課題を、高校生はどのように理解すべきだろうか。教科書に書いてある内容は抽象度が高い。具体的な課題やその支援に関する知識や技術を高校生が習得するための工夫が必要である。 そのための教材研究や授業展開について自律的に学んで頂きたい。教員は生涯学習の体現者、学びのプロともいわれる。その自覚を持って積極的な姿勢で臨んで頂きたい。
履修上の注意事項	反転学修など、アクティブラーニングの形式を取り入れます。 そのため、自律的な態度が必要です。 遅刻等の扱いや授業マナーについては規定を設けます。 アクティブラーニング形式ですので、履修者数等によって、授業内容や順番が変わることがあります。
評価方法	毎時の授業への取り組み（主体性・発言・協調・ペアワーク・模擬授業・成果物）60%、レポート40% 授業中に発展的な課題等を含めて個別にフィードバックする。
テキスト	『福祉701 社会福祉基礎』実教出版 検定教科書取次店でしか購入できません。お手数ですが、下記の書店に各自で連絡を取り購入をお願い致します。 合資会社小川文華堂 〒865-0025 熊本県玉名市高瀬157 TEL：0968-74-2002
参考文献	文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示） 解説 福祉編 平成30年7月』 必要に応じて資料を配付します。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	生活相談員として特別養護老人ホームの勤務経験があります。その経験に基づき、レジデンシャルソーシャルワークの実際を具体的な事例を交えながら説明します。支援者に必要な思考力・実践力が身につけられるように授業を展開します。 福祉科教諭として高校の勤務経験があります。その経験に基づき、教員に求められる知識や技術を具体的な事例を交えながら説明します。教員に必要な思考力・実践力が身につけられるように授業を展開します。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	反転学習を取り入れます。あらかじめ次時の単元について学修を進めて頂きます。その上で、ペアワークや模擬授業等を実施します。 ご自分の考えを言語化できるように取り組みます。 ICT活用は該当なし。

授業計画

授業計画
反転学習を取り入れます。あらかじめ次時の単元について学修を進めて頂きます。 その上で、ペアワークや模擬授業等を実施します。 ご自分の考えを言語化できるように取り組みます。 アクティブラーニング形式ですので、履修者数等によって、授業内容や順番が変わることがあります。

授業計画

反転学習を取り入れます。あらかじめ次時の単元について学修を進めて頂きます。
 その上で、ペアワークや模擬授業等を実施します。
 ご自分の考えを言語化できるように取り組みます。
 アクティブラーニング形式ですので、履修者数等によって、授業内容や順番が変わることがあります。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション 高校福祉科の現状	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
2	高校を取り巻く現状	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
3	高校生を取り巻く現状	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
4	教育実習について	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
5	福祉科の科目編成① 社会福祉基礎 他	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
6	福祉科の科目編成② こころとからだの理解 他	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
7	教育課程の編成	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
8	単元設定について	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
9	学習指導案	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
10	指導観 単元観・生徒観・指導観	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
11	単元の評価基準	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
12	本時の展開・板書計画 プリント作成・ICT活用	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
13	ミニ模擬授業① 社会福祉基礎	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
14	ミニ模擬授業② 発問・机間巡視	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
15	振り返り レポート提出	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	

基本情報

科目名	福祉科教育法Ⅱ
時間割コード	0234300201
ナンバリングコード	S 230733-L-17
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	日比 真一
科目区分	専門科目 社会福祉学科専門科目（教職に関する科目）
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
日比 真一

詳細情報

授業の目的・到達目標	福祉科教育法Ⅰで学んだことを発展させます。教育実習に向けての実践力を養います。 福祉社会の推進においても、高校生が教科「福祉」を学ぶ意義は深いといえる。教壇に立つ自覚を持って福祉科教育法を履修して頂きたい。 福祉を学ぶ高校生に、何をどのように理解してもらうのか、考察と実践を通して学ぶ。クライアントの困りごとや地域の課題を、高校生はどのように理解すべきだろうか。教科書に書いてある内容は抽象度が高い。具体的な課題やその支援に関する知識や技術を高校生が習得するための工夫が必要である。 そのための教材研究や授業展開について自律的に学んで頂きたい。教員は生涯学習の体現者、学びのプロともいわれる。その自覚を持って積極的な姿勢で臨んで頂きたい。
履修上の注意事項	反転学修など、アクティブラーニングの形式を取り入れます。 そのため、自律的な態度が必要です。 遅刻等の扱いや授業マナーについては規定を設けます。 アクティブラーニング形式ですので、履修者数等によって、授業内容や順番が変わることがあります。
評価方法	毎時の授業への取り組み（主体性・発言・協調・ペアワーク・模擬授業・成果物）60%、レポート40% 授業中に発展的課題等も含めて個別にフィードバックする。
テキスト	『福祉704 こころとからだの理解』実教出版 検定教科書取次店でしか購入できません。お手数ですが、下記の書店に各自で連絡を取り購入をお願い致します。 合資会社小川文華堂 〒865-0025 熊本県玉名市高瀬157 TEL：0968-74-2002
参考文献	文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示） 解説 福祉編 平成30年7月』 必要に応じて資料を配付します。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	生活相談員として特別養護老人ホームの勤務経験があります。その経験に基づき、レジデンシャルソーシャルワークの実際を具体的な事例を交えながら説明します。支援者に必要な思考力・実践力が身につけられるように授業を展開します。 福祉科教諭として高校の勤務経験があります。その経験に基づき、教員に求められる知識や技術を具体的な事例を交えながら説明します。教員に必要な思考力・実践力が身につけられるように授業を展開します。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	反転学習を取り入れます。あらかじめ次時の単元について学修を進めて頂きます。その上で、ペアワークや模擬授業等を実施します。 ご自分の考えを言語化できるように取り組みます。 ICT活用は該当なし。

授業計画

授業計画
反転学習を取り入れます。あらかじめ次時の単元について学修を進めて頂きます。 その上で、ペアワークや模擬授業等を実施します。 ご自分の考えを言語化できるように取り組みます。 アクティブラーニング形式ですので、履修者数等によって、授業内容や順番が変わることがあります。

授業計画

反転学習を取り入れます。あらかじめ次時の単元について学修を進めて頂きます。
 その上で、ペアワークや模擬授業等を実施します。
 ご自分の考えを言語化できるように取り組みます。
 アクティブラーニング形式ですので、履修者数等によって、授業内容や順番が変わることがあります。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
2	学習指導案① 社会福祉基礎	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
3	学習指導案② 教材研究	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
4	学習指導案③ 本時の展開	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
5	学習指導案④ こころとからだの理解	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
6	学習指導案⑤ 単元観・生徒観・指導観	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
7	学習指導案⑥ 板書計画	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
8	模擬授業① 導入	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
9	模擬授業② プリント作成・ICT活用	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
10	模擬授業③ 発問・机間巡視	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
11	模擬授業④ 評価	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
12	模擬授業⑤ 次時へのつなぎ方	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
13	模擬授業⑥ 単元の再設定	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
14	教育実習について	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	
15	振り返り レポート提出	事前学習 次回単元の課題 2h 事後学習 ワークシートを元に調べ学習 2h	